

ウは宇宙船のウ

萩尾望都
R プラットベリ



集英社漫画文庫

030

¥300

ブラッドベリSF傑作選

ウは宇宙船のウ

原作/レイ・ブラッドベリ
漫画/萩尾 望都



集英社漫画文庫

★作者紹介★



萩尾 望都

昭和24年5月12日生まれ。福岡県出身。手塚治虫氏の「新撰組」に感動したことがデビューのきっかけとなった。代表作は「ポーの一族」11人いる!」など多数。表題作のブラッドベリ傑作選「ウは宇宙船のウ」は、昭和53年週刊マーガレット14号に掲載されたものである。



ウは宇宙船のウ
＝ブラッドベリSF傑作選＝

原作・レイブラッドベリ

漫画・萩尾 望都

集英社漫画文庫

ウは宇宙船のウ

萩尾 望都
レイブラッドベリ

集英社漫画文庫



Shueisha Manga Bunko

ウは宇宙船のウ
＝ブラッドベリSF傑作選＝

原作・レイブラッドベリ

漫画・萩尾 望都

集英社漫画文庫

ウは宇宙船のウ

=ブラッドベリSF傑作選=

目次

ウは宇宙船のウ	3
泣きさけぶ女の人	34
霧笛	57
みずうみ	89
ぼくの地下室へおいで	107
集会	139
びっくり箱	171
宇宙船乗組員	205

from "THE LAKE", "JACK IN THE BOX", "HOME COMING", "R IS FOR ROCKET", "THE ROCKET MAN", "THE FOG HORN", "THE SCREAMING WOMAN" and "COME INTO MY CELLAR" by Ray Bradbury.

Japanese comic book rights arranged through Harold Matson Co. inc., New York and Tuttle-Mori Agency inc. Tokyo.

宇宙空港

立入禁止

はやくこいよ!

みろよ
ほら!

あれは月まで
いくんだぜ!

—ぼくたちは
いつも

重力を
断ち切って
飛ぶぞ!

こんなふう
に
夢みた
ものだ

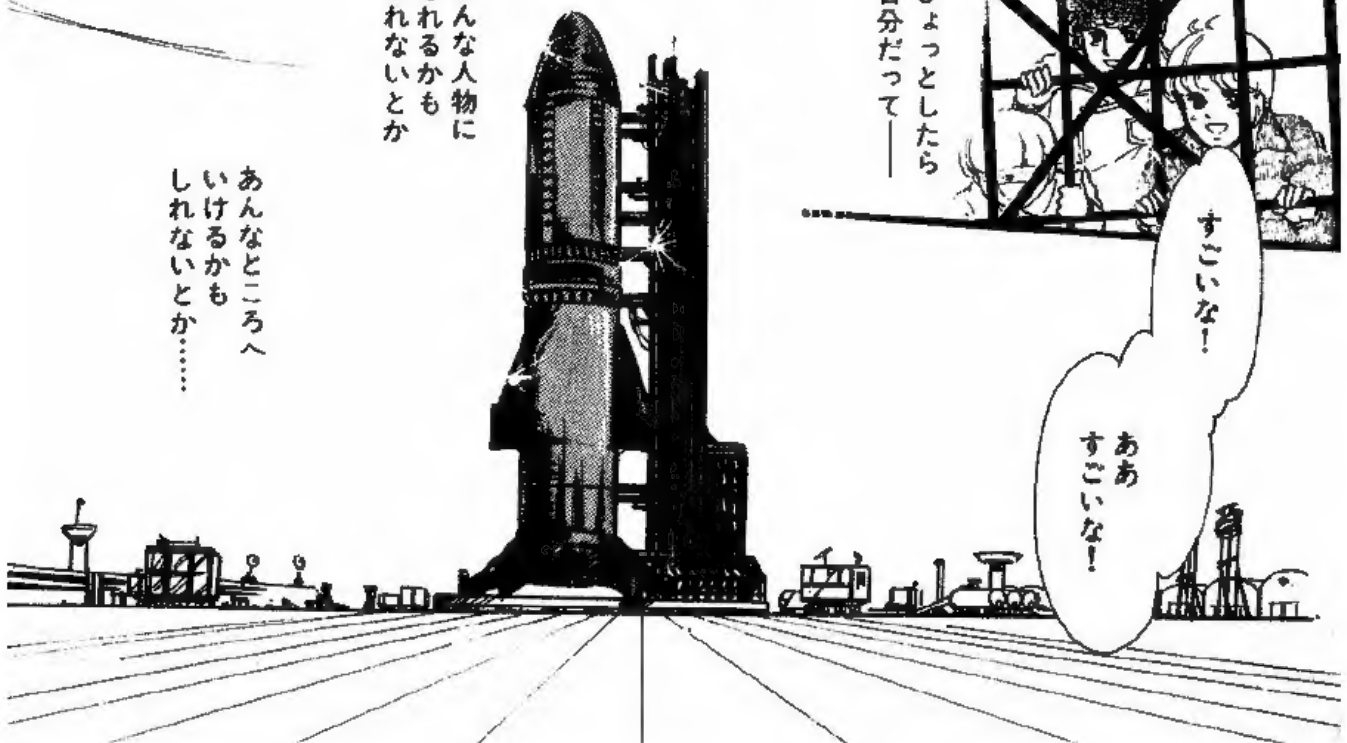
あんな人物に
なれるかも
しれないとか

あんなところへ
いけるかも
しれないとか……

……
ひょっとしたら
自分だって——

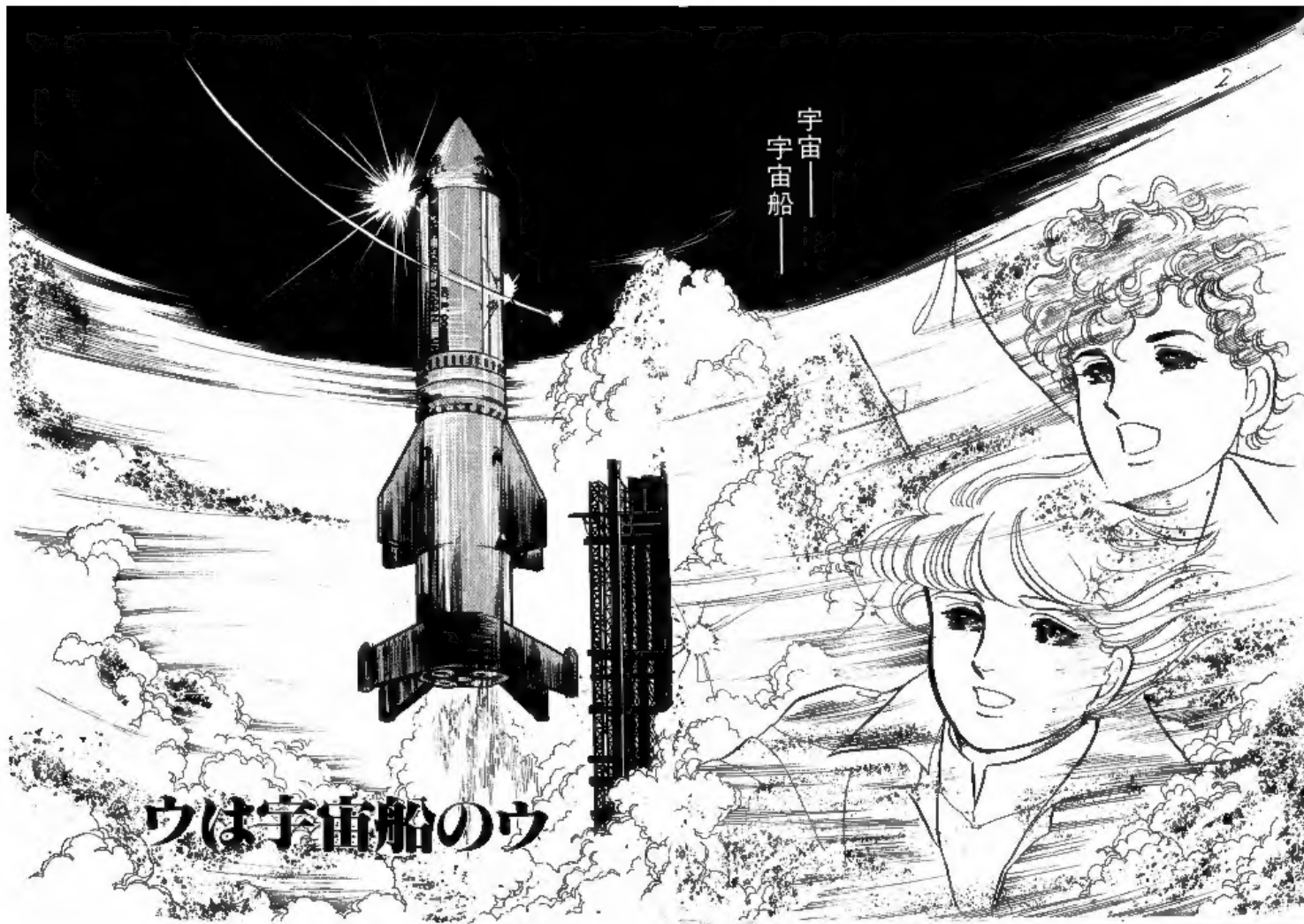
すごいな!

ああ
すごいな!



宇宙
宇宙船

ウは宇宙船のウ





毎週の
土曜日の朝が
まちどおし
かった

大陸間
宇宙船や
月までいく
やつ

月よりも
もっと遠くまで
行くやつ…

宇宙船

もうどうに
それは
ぼくの中で
特別な夢に
なっていた

ぼくと

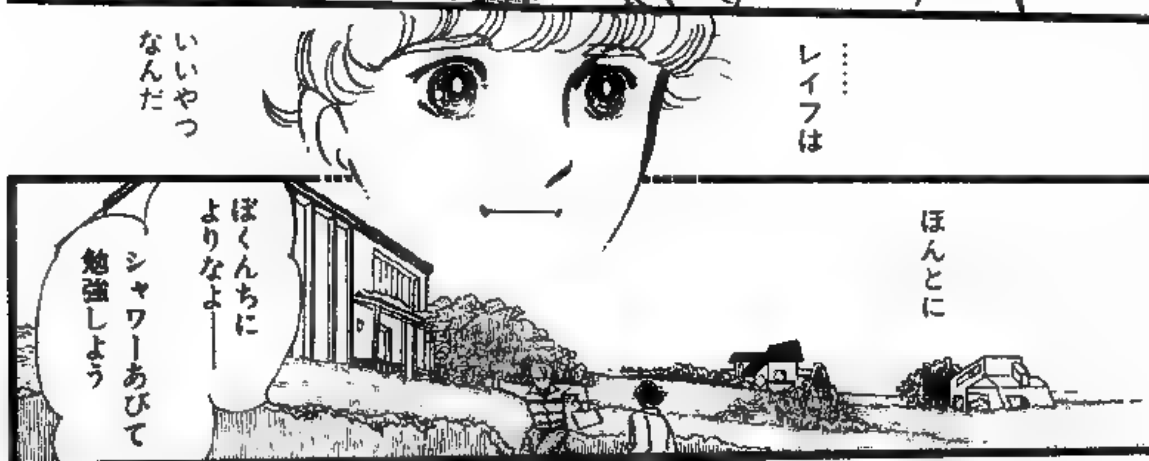
友人の
レイクに
とっては

ぼくたちは
それぞれに
星がほしくて
たまらな
かったのだ













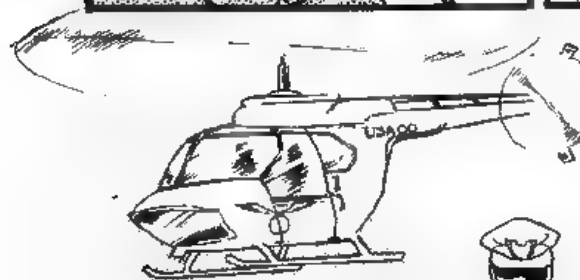
きみは
志願できない
待っただ



——クリス
宇宙航空委員会が
選考するんだ

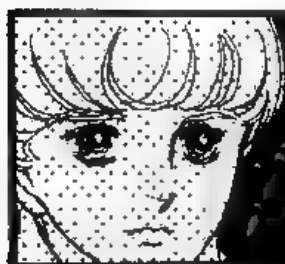


……わかってる



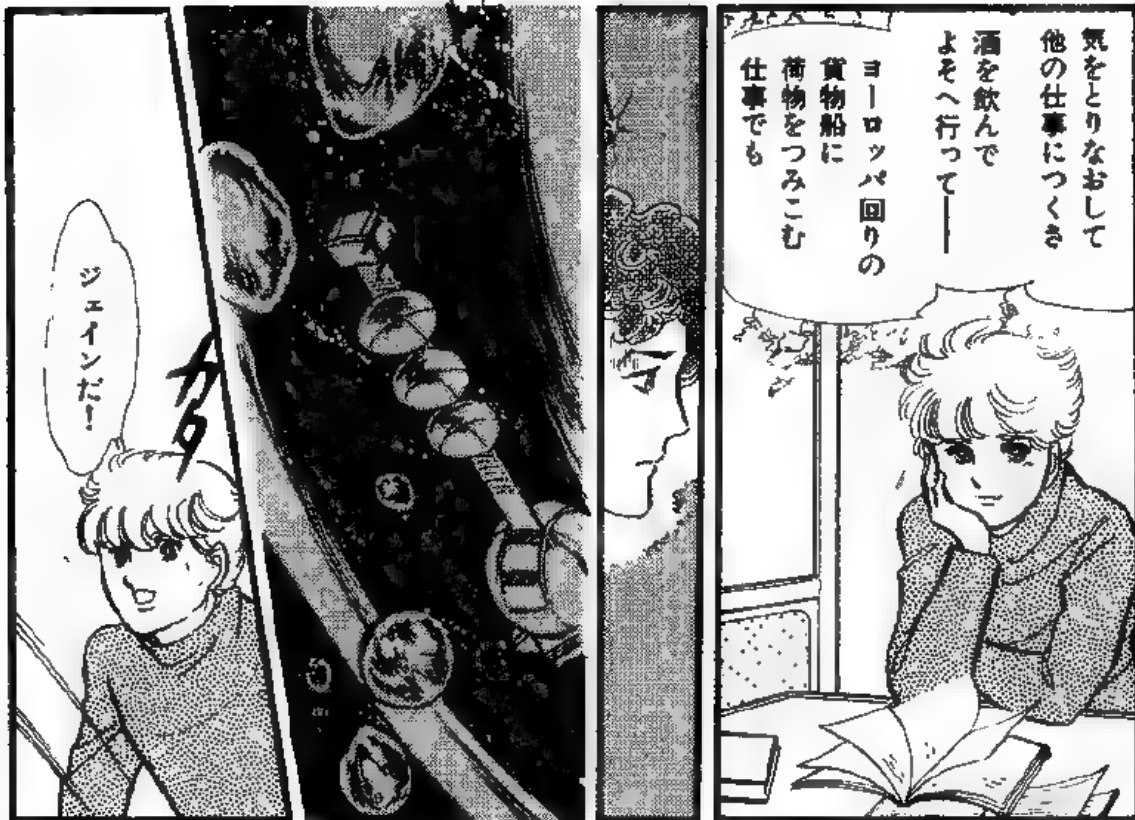
——ある朝
青い宇宙局の
ヘリコプターが空から
降りてきて……

きみの家の
芝生に
乗務員がおり
きみの家の
ドアの
ベルをおせばと
……望むかぎりね

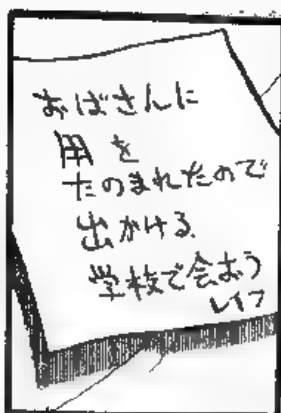


そう
きみは
待っただね
月ロケットを
見ても
冷静でいられる
としになって……
それから
1か月すぎる
ごとに

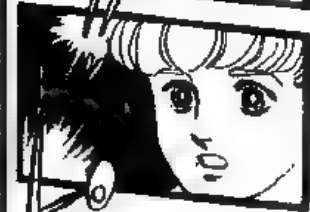
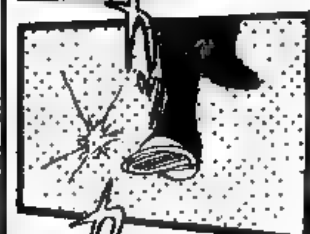
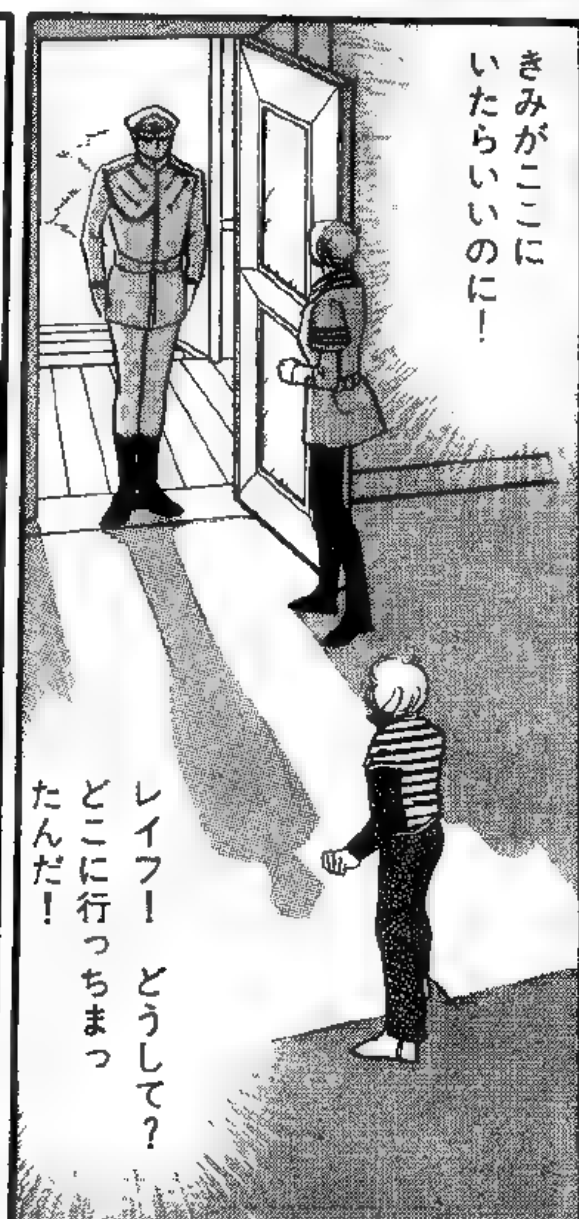
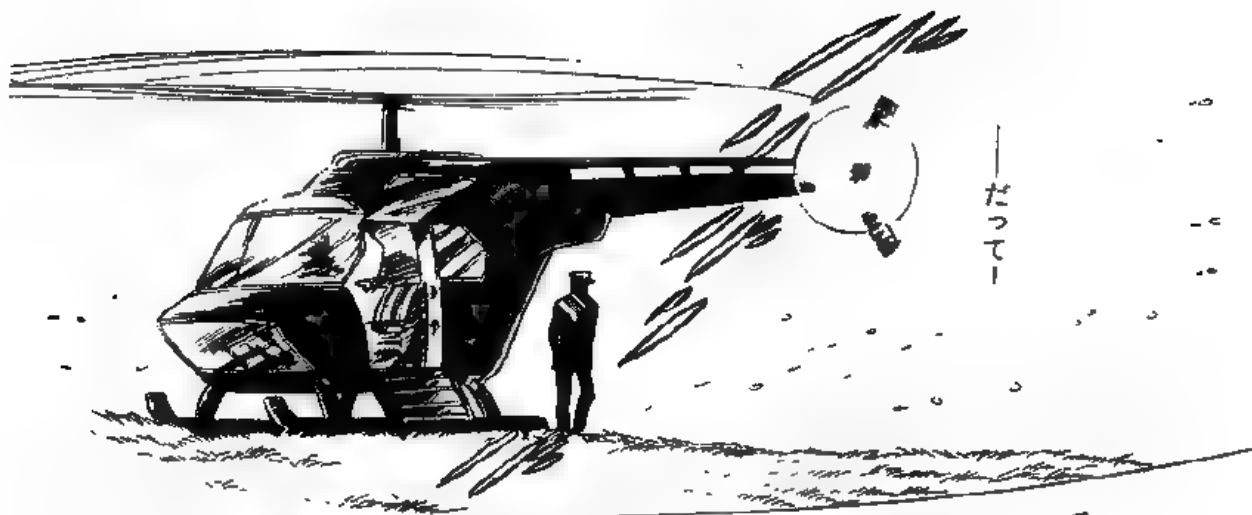




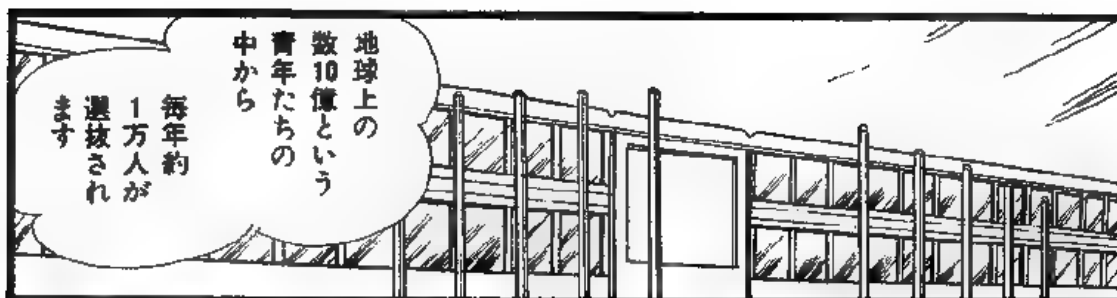


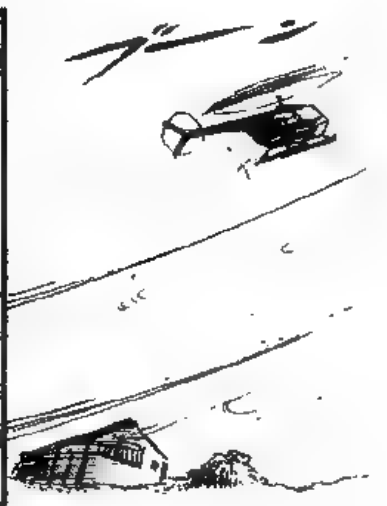
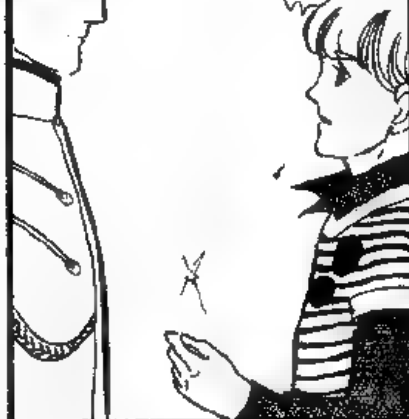
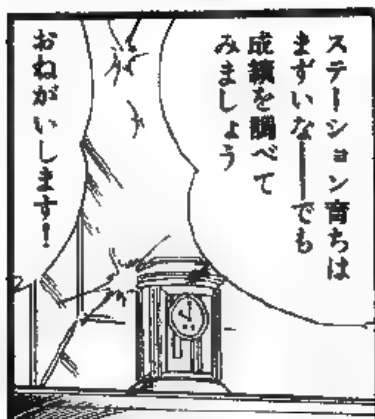




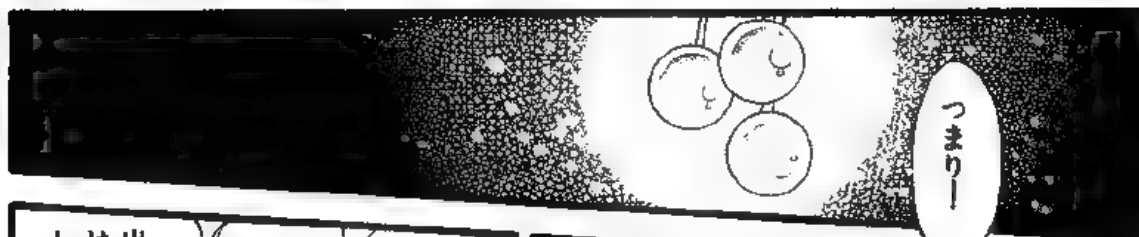












つまりー



出発は
はやいの
土曜なのよ

留学は
1年ぐらいか
もつと...



クリスが
ヨーロッパで
教育を
受けることになっ
たの

彼が
もどるまで
あなたに
息子として
この家において
ほしいのよ



ジェイン
おばさん



ヨーロッパの
どことか
こまかいことは
まったく聞か
なかつた
—そうさ
レイフ
ぼくらはとても
ゆかいだった

そしていつでも
ひとりで戦いを
始めなければ
ならないんだ



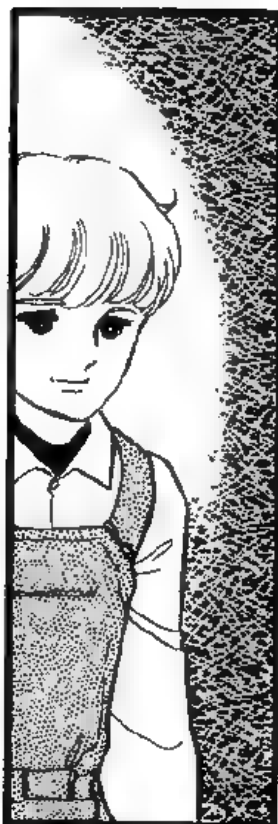
—レイフは

クリス

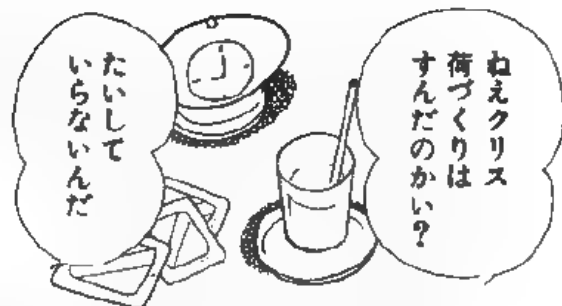
ぼくらとても
ゆかいで
楽しかったね

ぼくは感激だ
—光栄だ





きみは
世界一の仕事につく
いずれ きみは
世界のものに
なるのだ
がんばれよクリス



たいして
いらなんだ

ねえクリス
荷づくりは
すんだのかい？

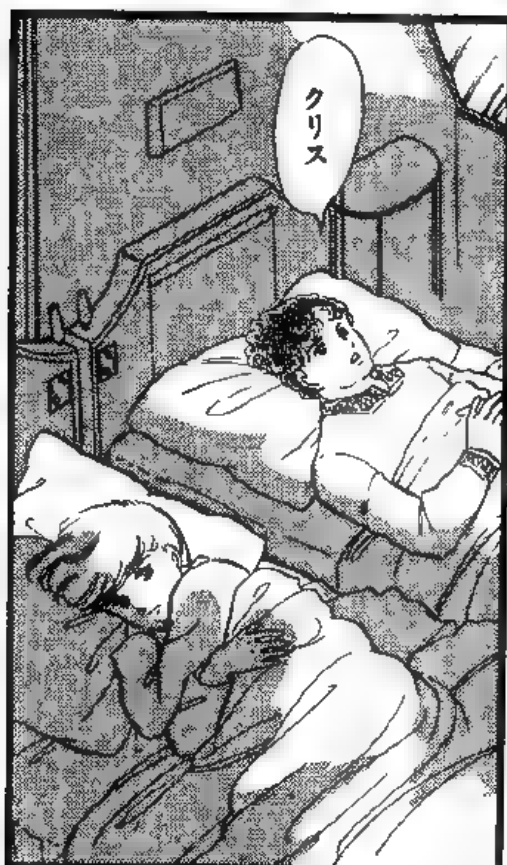


先生！

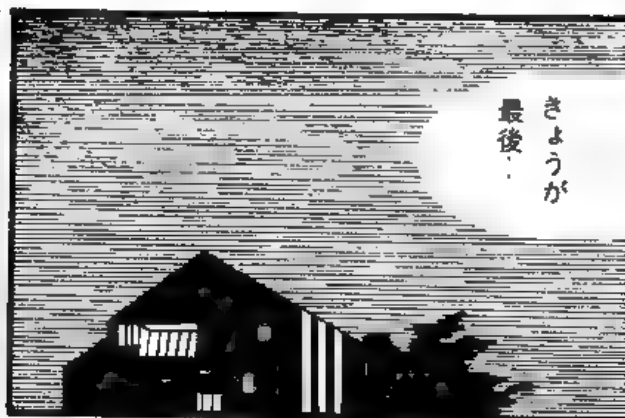
元気でな



クリス
電話よ



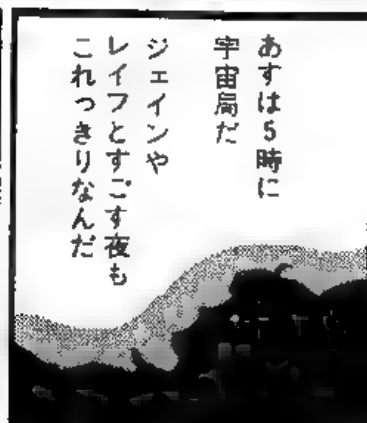
クリス



きょうが
最後、



これきり



あすは5時に
宇宙局だ
ジェインや
レイフとすこす夜も
これつきりなんだ



あれは

天気調節
装置のうなり

霧を
追い払っている

いつもの朝だ
……
土曜日の

土曜日だよー
クリス!

宇宙船見
いこうよ!

はーやーく

あの運中に
きみはきょうは
いかないって
いつて
やろうか?

そんなことは
なんにも
いわないことよ

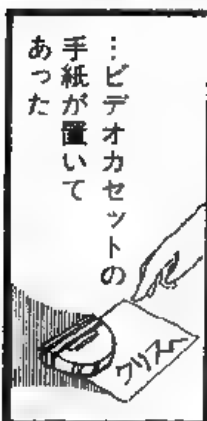
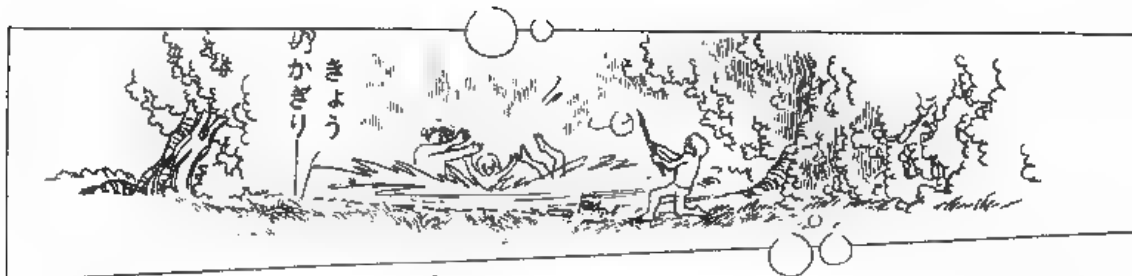
でかけるの
いつもの
土曜のよう

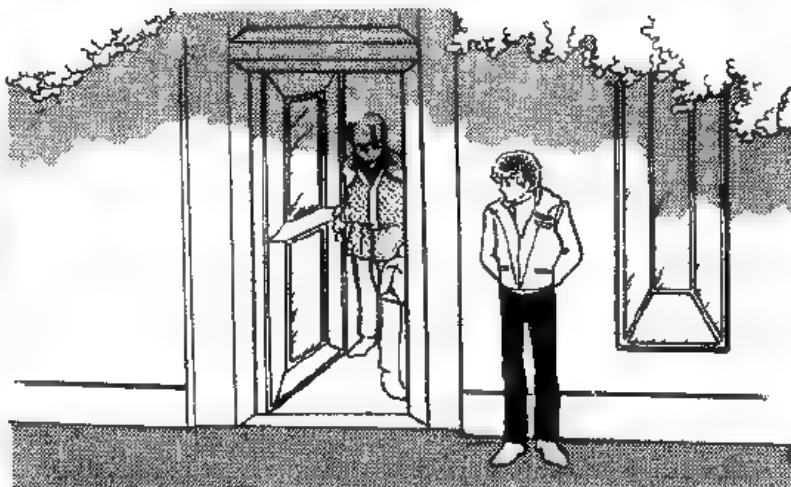
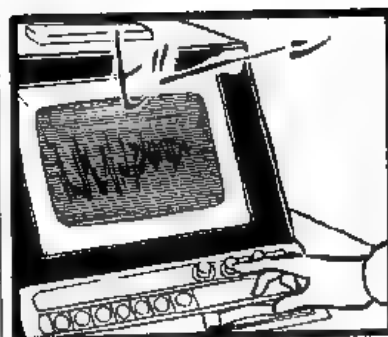
きょうはずつと
あなたと
いっしょに
すごそうと
計画して
いたんだ
ジェイン

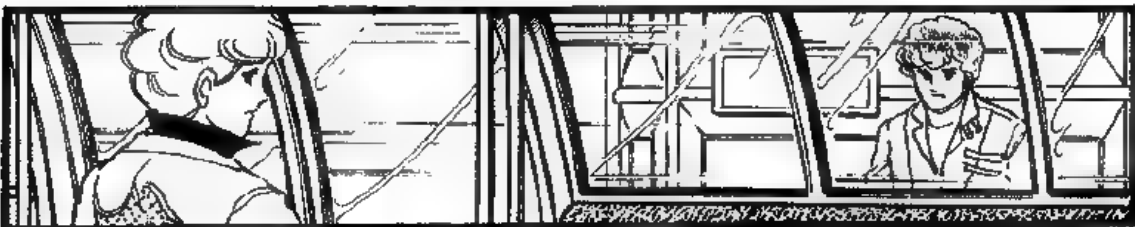
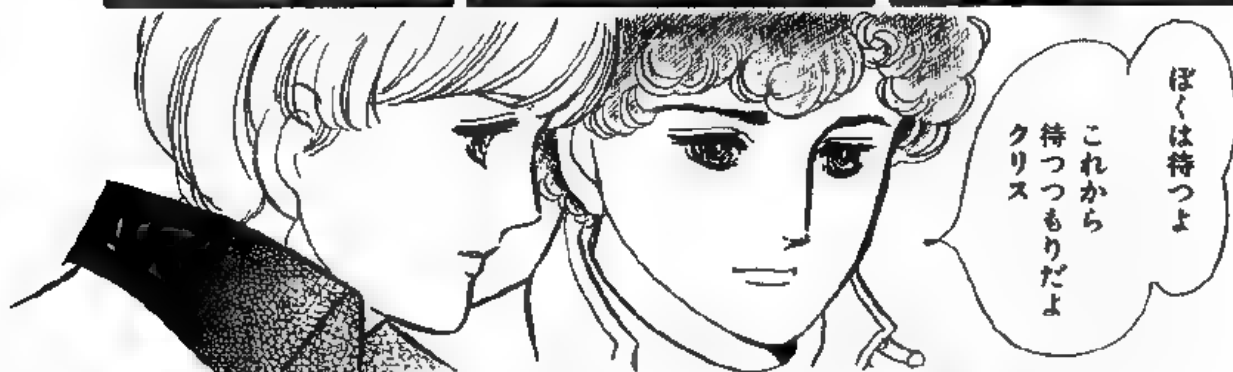
まあ
そんなことを
したら
どうなるかしら
さあ
さっさと
食べて!

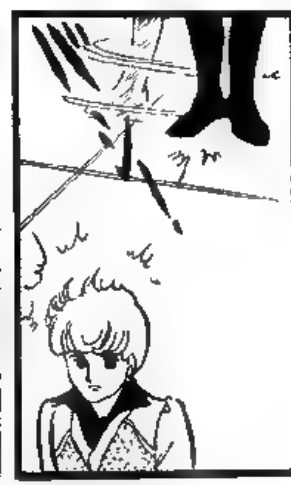
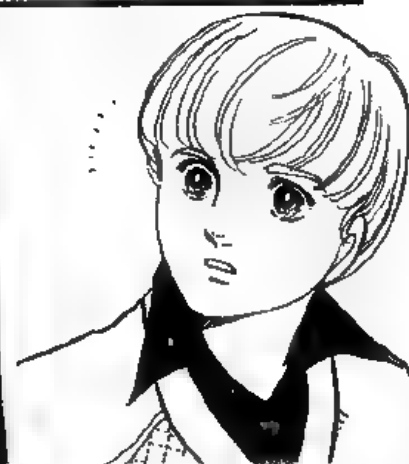
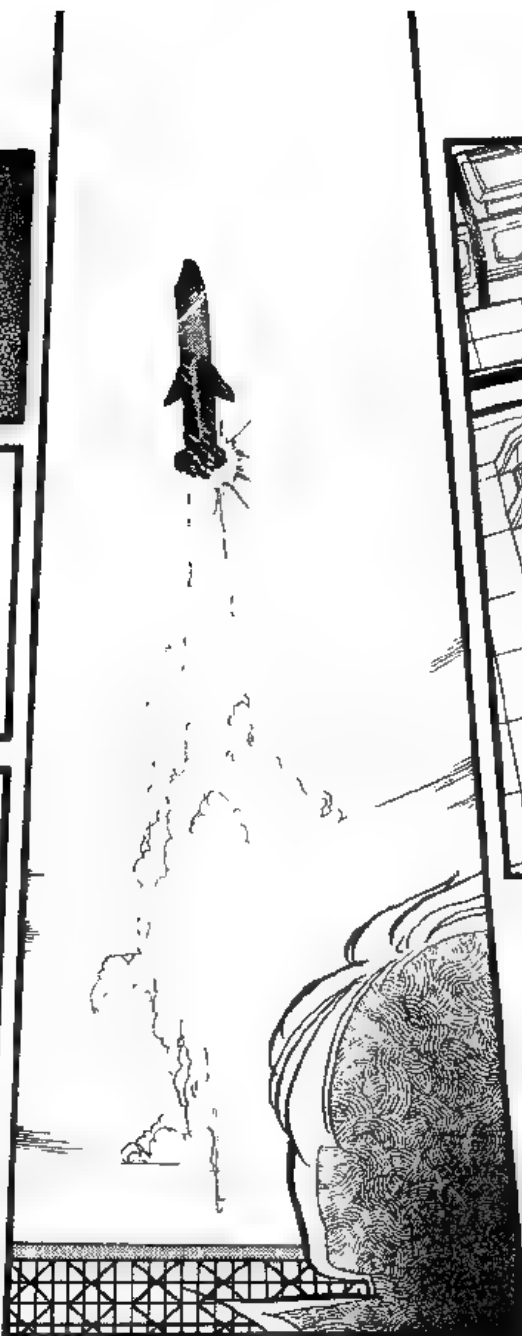
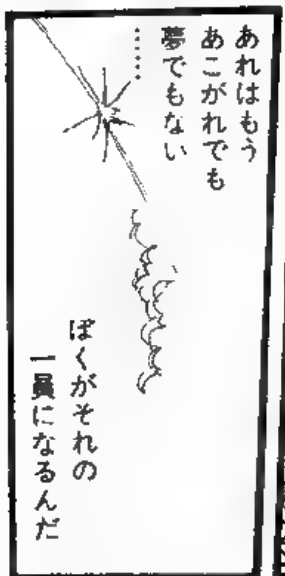
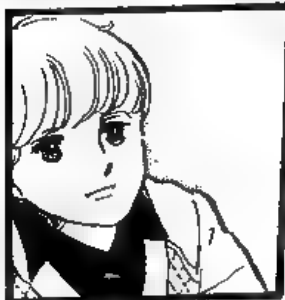
行つてらっしゃい!

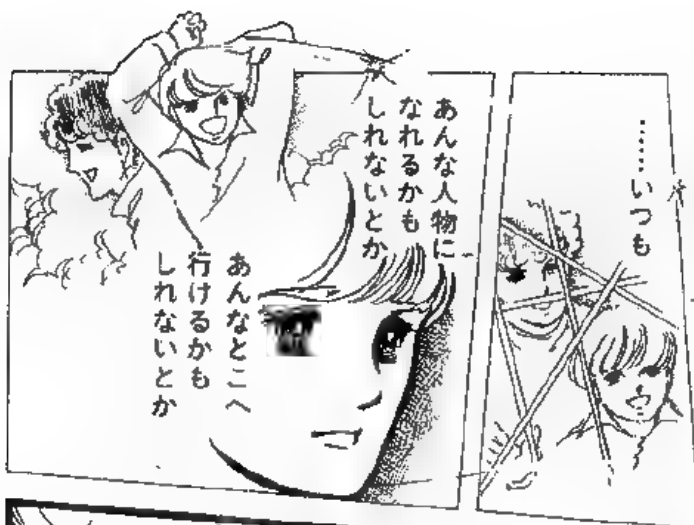










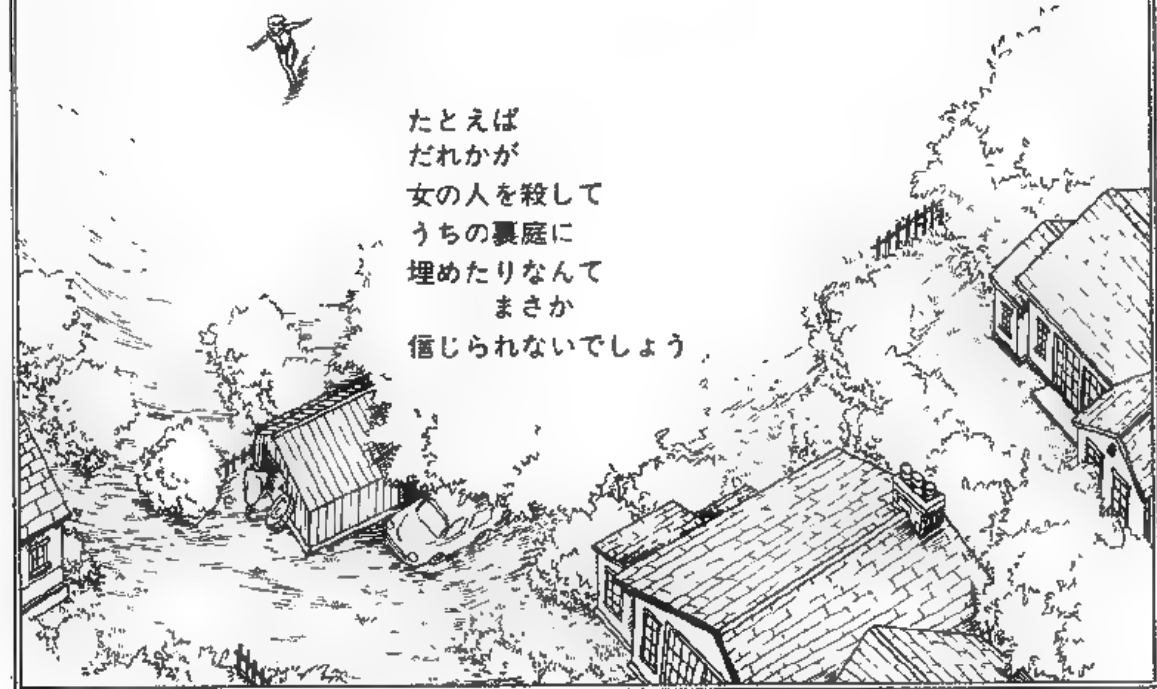


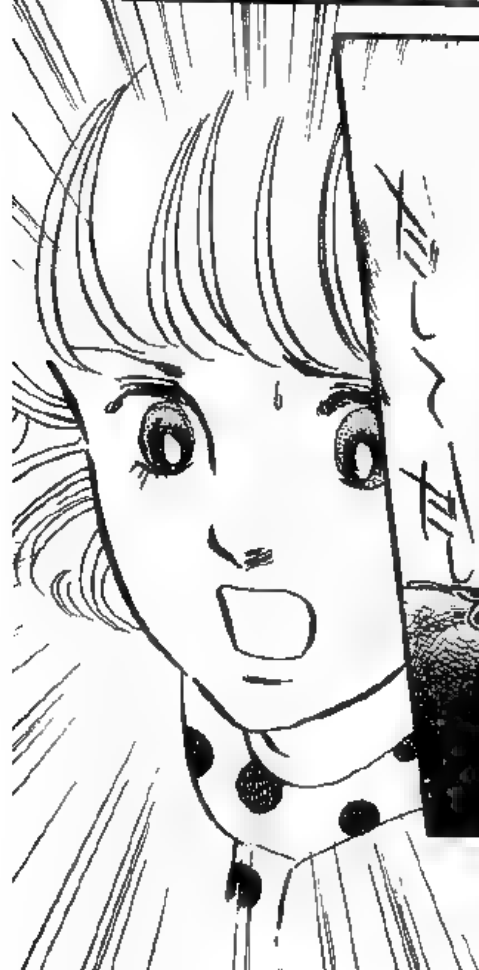
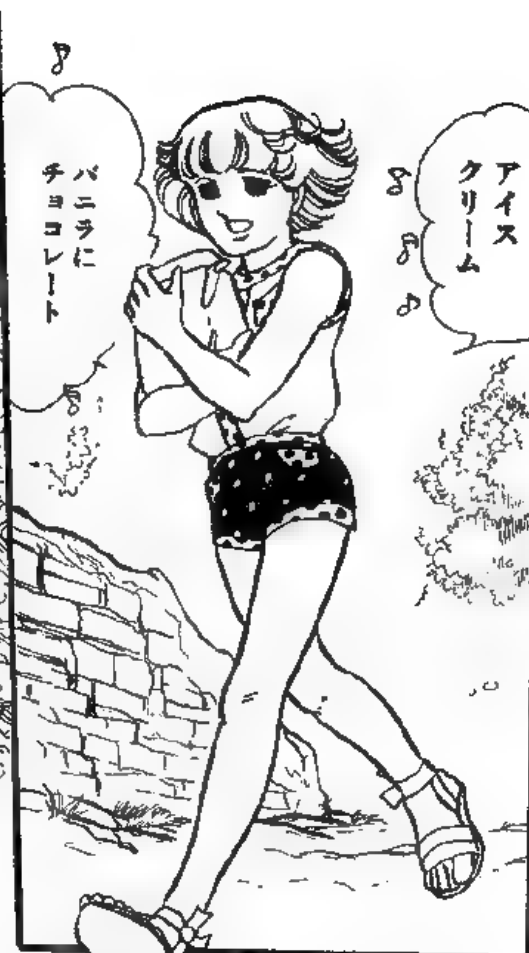
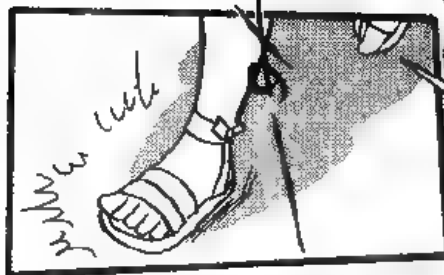
泣きさげぶ女の人



だれでも
ふつうの町に住んでると
恐ろしいことが
おこるなんて
思いません……

たとえば
だれかが
女の人を殺して
うちの裏庭に
埋めたりなんて
まさか
信じられないでしょう









パパ
ねえ



女の人が
埋まって
……！

いいかげんに
しなさい
ききわけの
ない子ね！



いっしょに
空地にきて
手伝って

お願いよ！
わたし
1年かかって
ためた
貯金ぜんぶ
あげる
5ドル
ちよつと
あるのよ
ねえ

ほう
マギー！



パパ
ほんと

あとで
そのひめいを
聞きにいいこう
無料でいいよ

マギーが
いい子で
だまって
食事を
すませたらね



おどろいたねえ

パパと遊びたいので
お金をだそうと
いうのだね？

いつもかまって
やらないから――

こいつは
パパが
悪かったよ



ゆうべまた
チャーリーと
ヘレン
けんかしたん
ですって
マギー
ゆっくり
食べなさい

ハイ

あのふたり
いつも
けんか
してるんだ

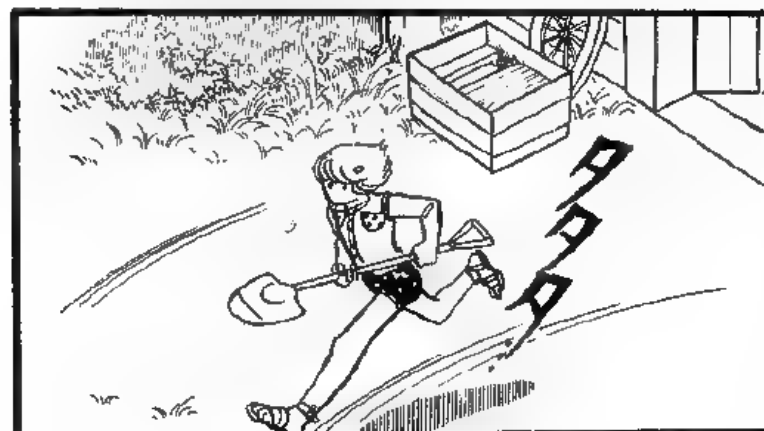
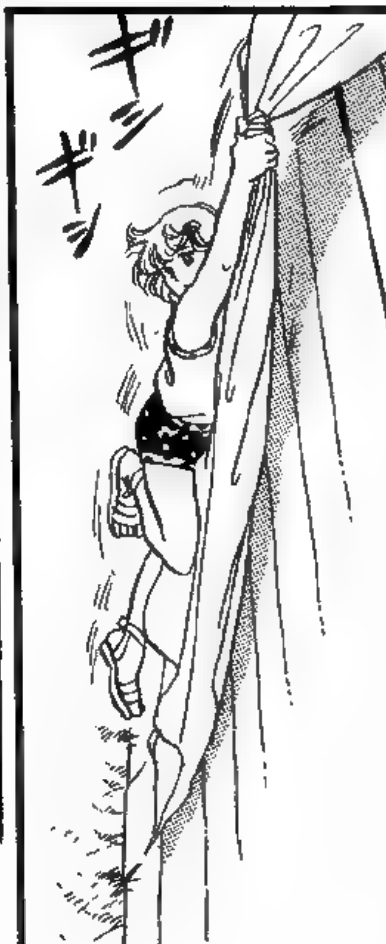
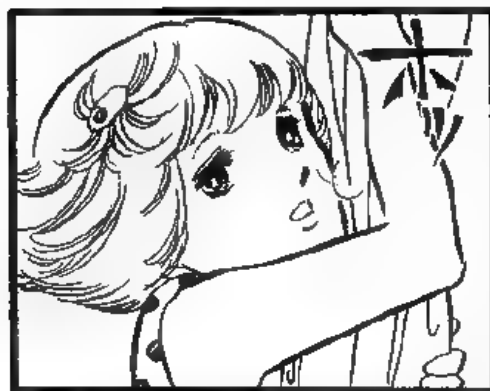
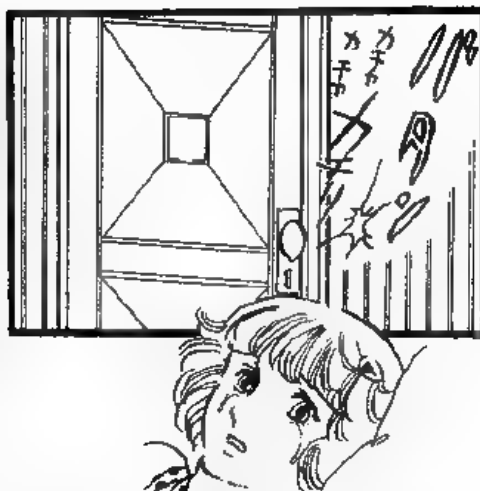
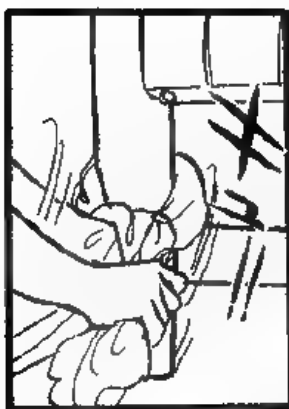


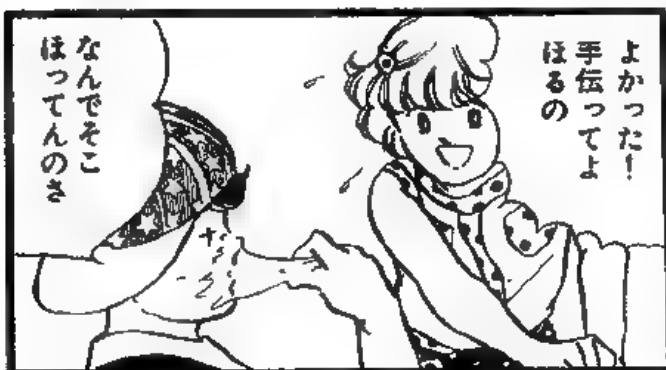
女の人の
ひめいって
いえば

















穴なんか
ほって!



ケリーさん



わしの
土地で
なにをしてるんだ



ケリーさん
女の人ここに
埋められてるの!
ほら!
ひめいよ!

聞こえる
でしょう!



聞こえんね!
そんなもん!

いいから
すぐに穴を
もどおりに
するんだ

いたずら
ものどもめ!



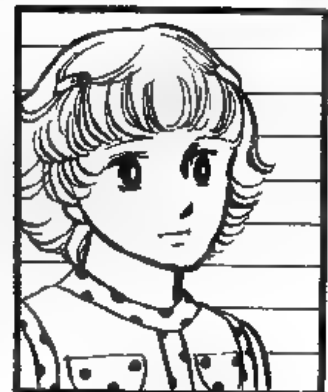
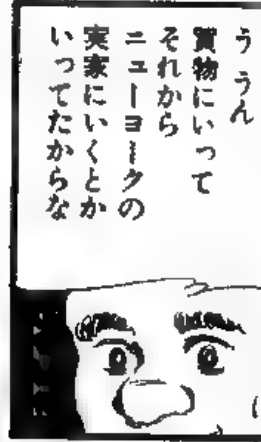
ようし
家に帰るんだ
ガキども

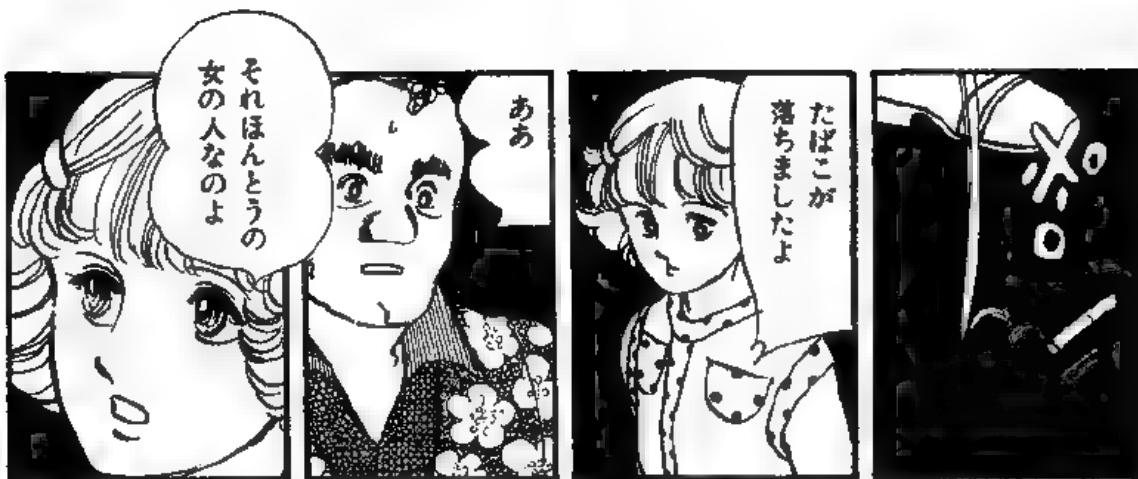


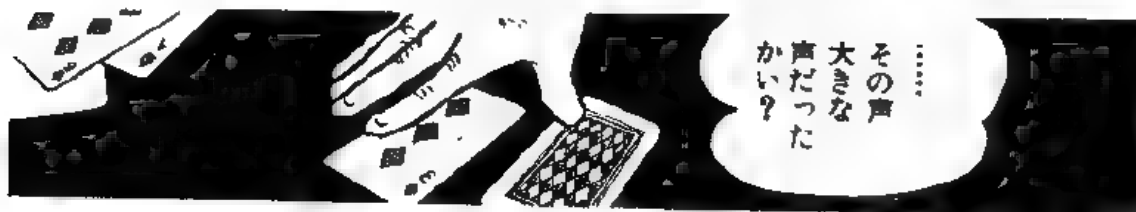


















とても
好きだったわ
あなた
あんなに
愛してたのに……



パパ 女の人
もう
泣きさけんで
ないわ
いいかげんに
しなさい！

地面の下で
いまは
歌ってるの



マギーー！
やっと帰って
きた！
ああ！
なんて子だ！



とても
好きだったわ
あなた……

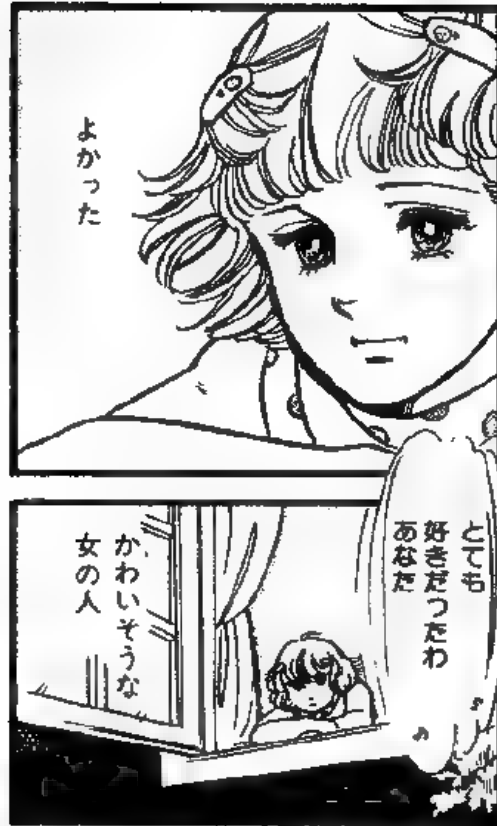
あんなに
愛してたのに……



その歌を
……どこで
聞いた!?
その歌は……
埋められた
女の人が
歌って
るの
それは……むかし
パパがもった
歌だ！
だれにも歌って
きかせたことは
ないんだ！



ヘレン！
ヘレン
ああ！
なんてことだ
！

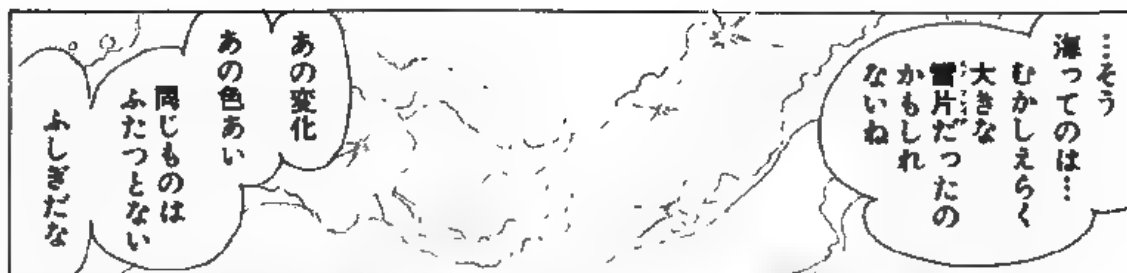


霧笛









…そう
海ってのは…
むかしえらく
大きな
雪片だったの
かもしれ
ないね

あの変化
あの色あい
同じものは
ふたつとない
ふしぎだな



そう 数年前だがね
ジニー ある晩
たくさん魚がね
この入江にやってきた
なんだろうね

ひたひたと
水うちながら
魚の群れがさ…
水面から
目をあげて
…じつと…

こわこわと
灯台の光を
見てるのさ



いつたい魚どもには
この高い灯台が
何と見えた
ことか?

赤・白・赤と
点滅する光が
何と見えたか?

もう夜半すぎて
コソとも
音をたてずに
1匹残らず
いなくなった



へんな話だ
ろう? なあ
やつらは
この灯台を
神様だとも
信じこんで

はるばる
参拝しに
きたのでは
ないかね
もう二度と
やつらは
現れないがね…



われわれ人間よりも
古い世界だからね...

おれたちが
そのふしぎを
手に入れる
までには

まだ
何百万年も
かかる
だろうな...

海底では
いまでも
紀元前
30万年前と
同じ状態なんだ
...

陸の人間が
ラッパ吹き
首切り
行進してる
あいだ

魚や
海の
ものたちは
そんな
ふかい
海底で

はるか
昔から
暮らして
いたんだ



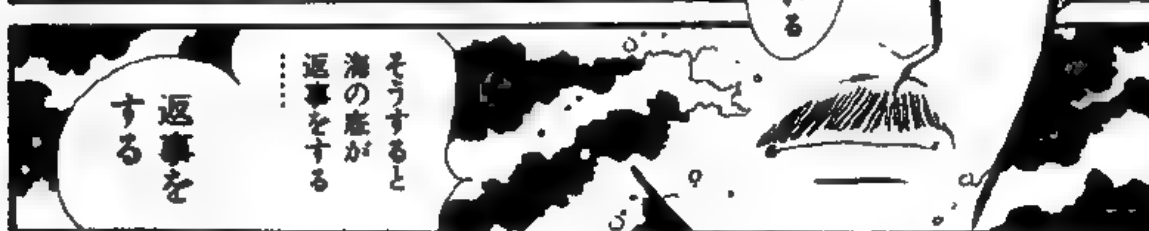
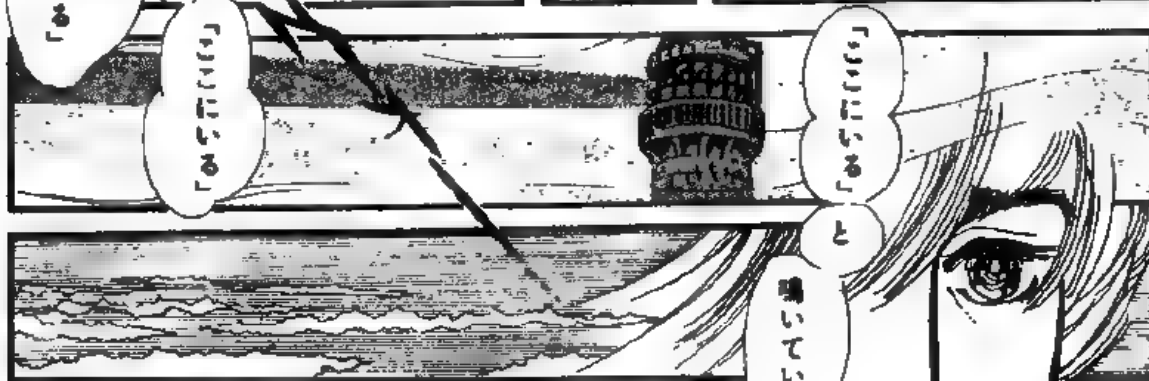
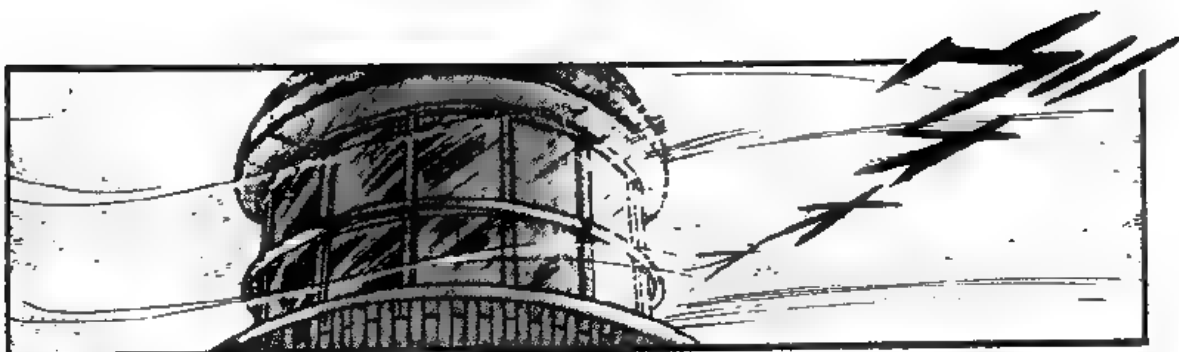
.....ええ

古い世界
ですね

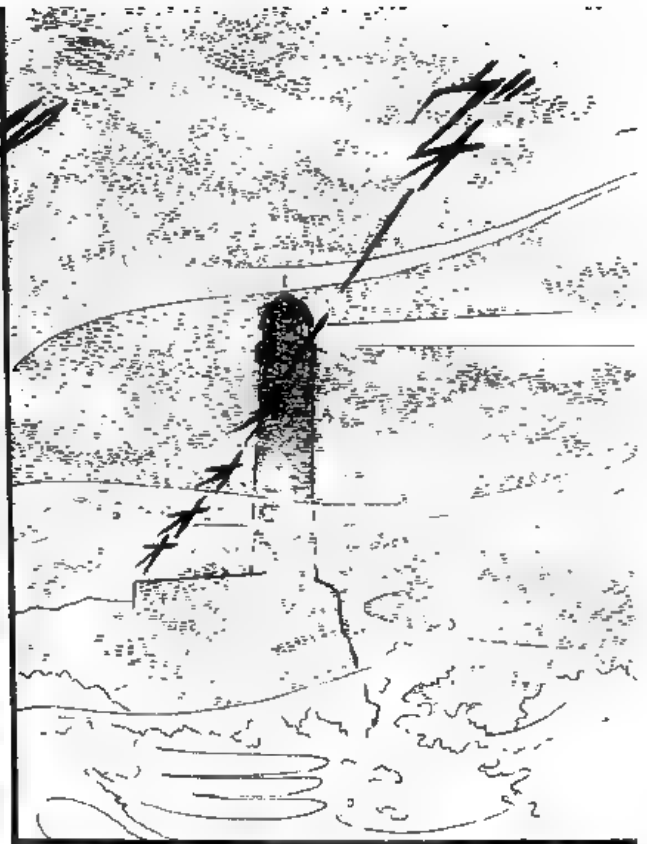


今日
騒そうと思つてた
とつておきの
騒があるんだ

ジョニー...
ちよつと
きたまえ







これまでに
あった
どんな時間

どんな
夢にも

似合った声を
つくって
やろう

たとえば
夜ふけてある

きみのそばの
からっぽのベッド

訪うて
誰も人の
いない家

また

葉のちつて
しまった
晩秋の木々に

似合った…

そんな言葉を
つくってやろう…



鳴きながら
南方へ去る
鳥の声

11月の
風や...

さみしい浜辺に
よする波に
似た音

そんな音を
つくってやろう

それは
あまりにも
孤独な音なので
誰もそれを
聞きそらす
はずはなく

それを
耳にしては
だれもが
心ひそかに
しのび泣きをし

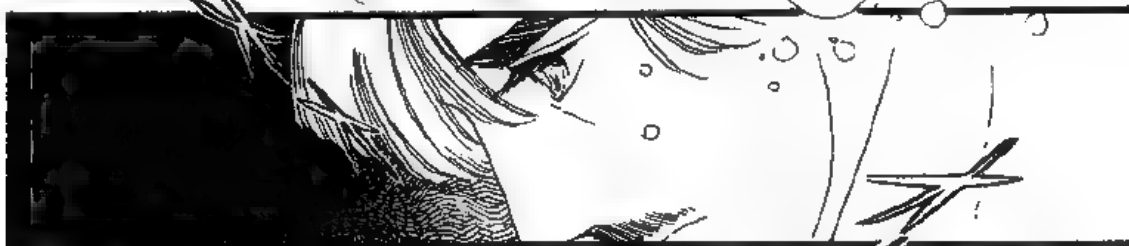
遠くの町で
聞けばいつそう
我家が
あたたかく
なつかしく
思われる...

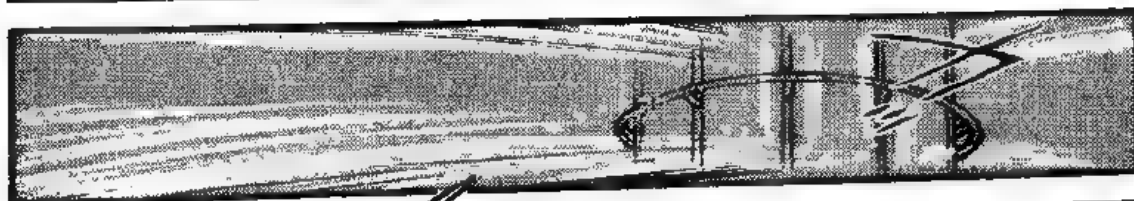
そんな音をつくって
やろう

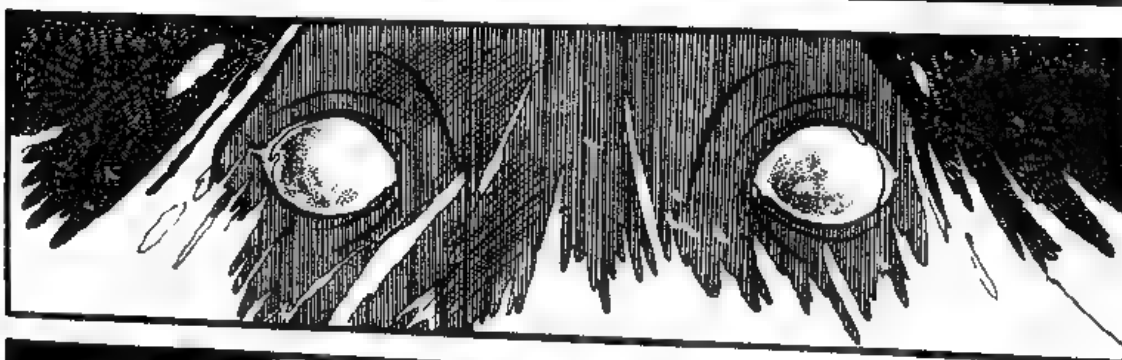
おれは
我と我身を
ひとつの音
ひとつの機械と
してやろう

そうすれば
それを人は
親苗と呼び

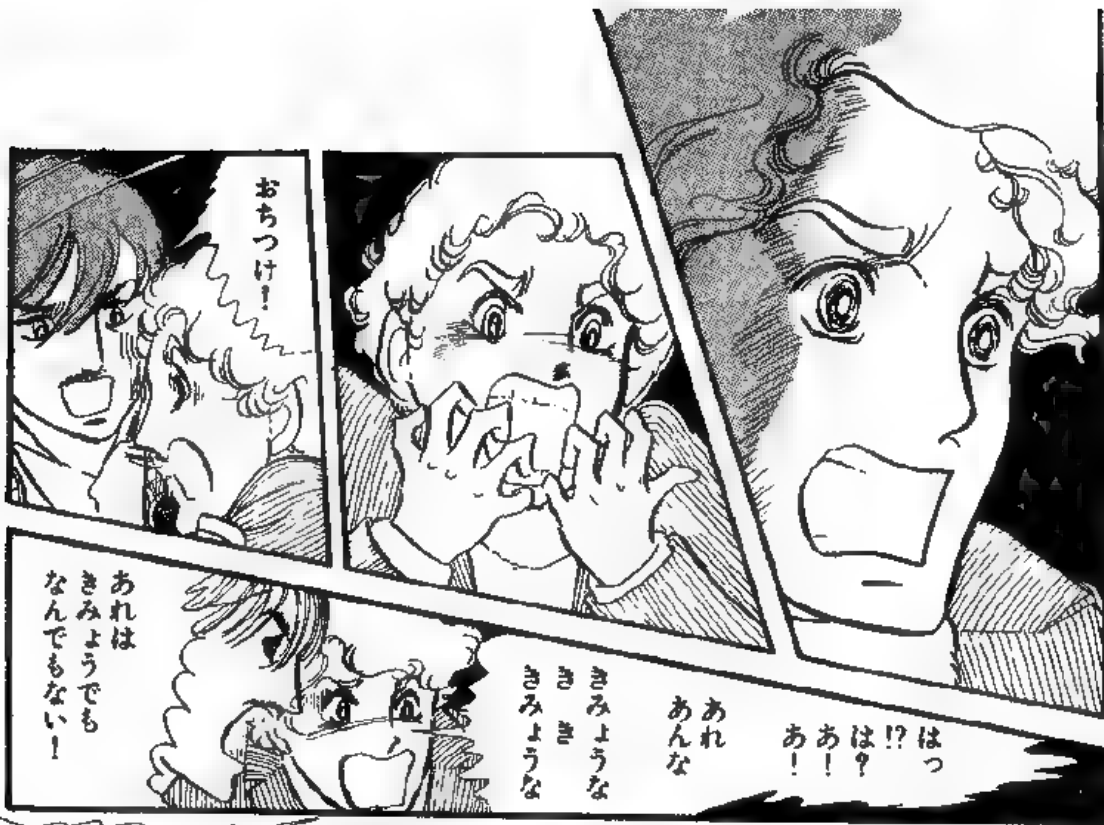


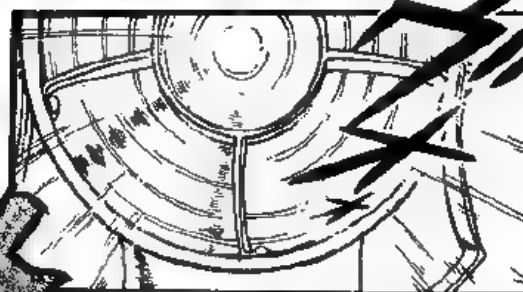
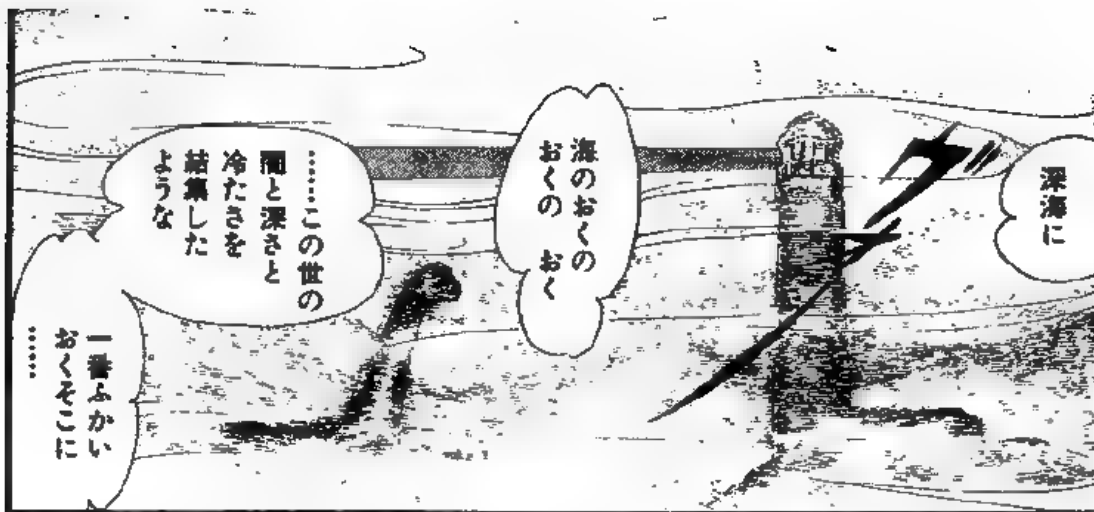




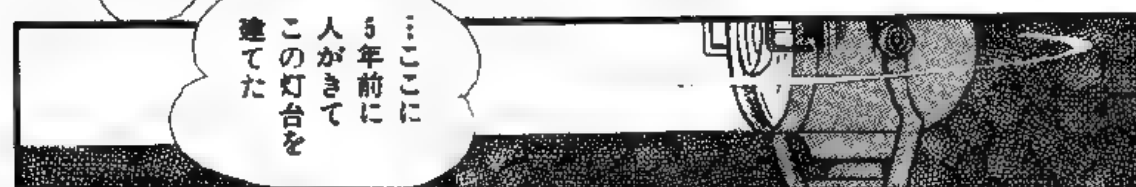


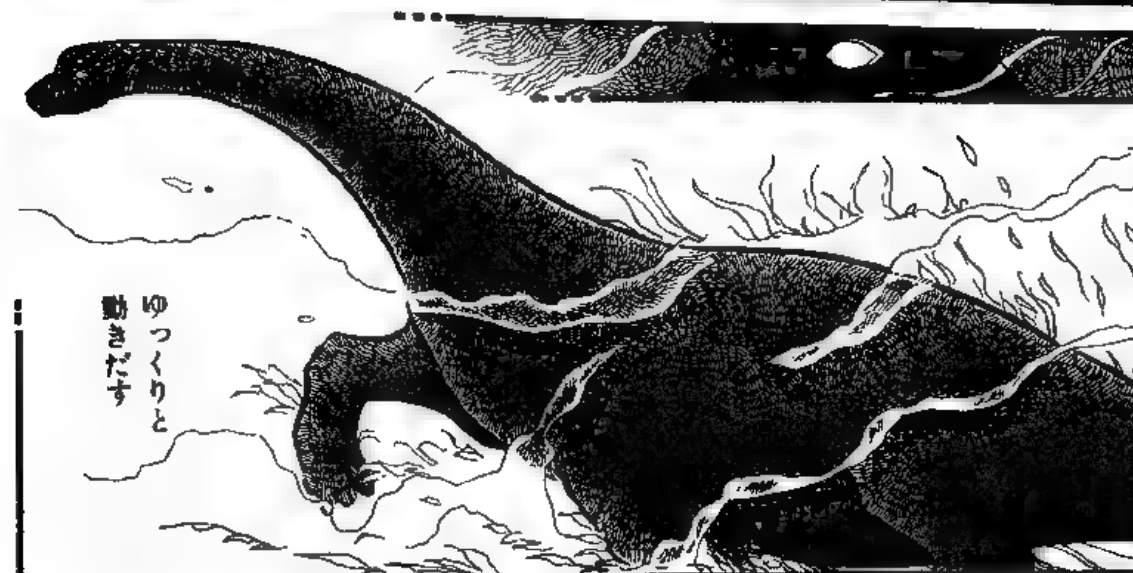
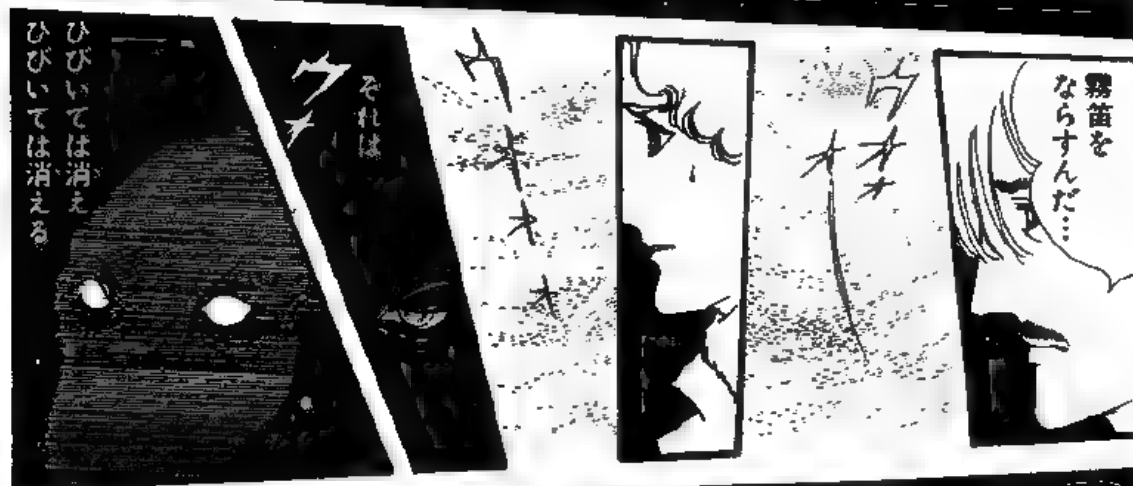














あとどれほどの
時間が必要
ものか

水圧に体を
ならしながら
すこしずつ
すこしずつ
上昇する



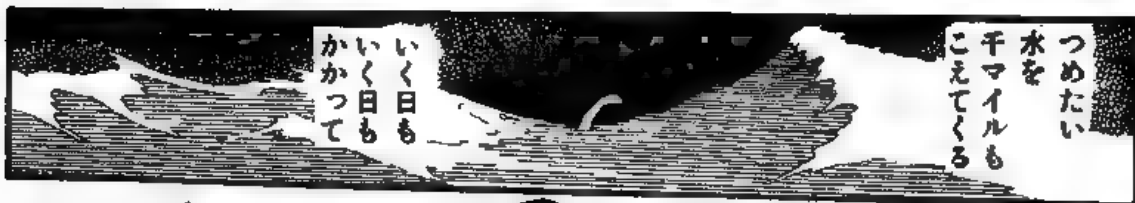
海面に
やっと出て
その上



3か月ほども
かかるだろう



上へへんに
上がった
体ははれつして
しまうからね



いく日も
いく日も
かかって

つめたい
水を
千マイルも
こえてくる



そして
やっと
やってくる

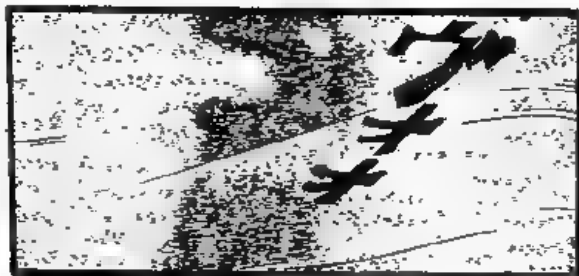
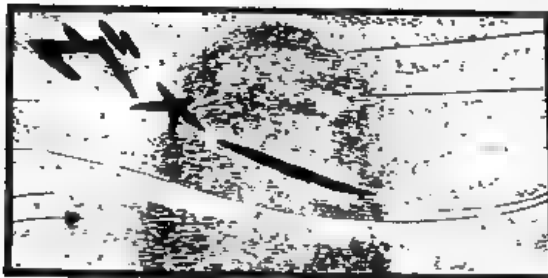


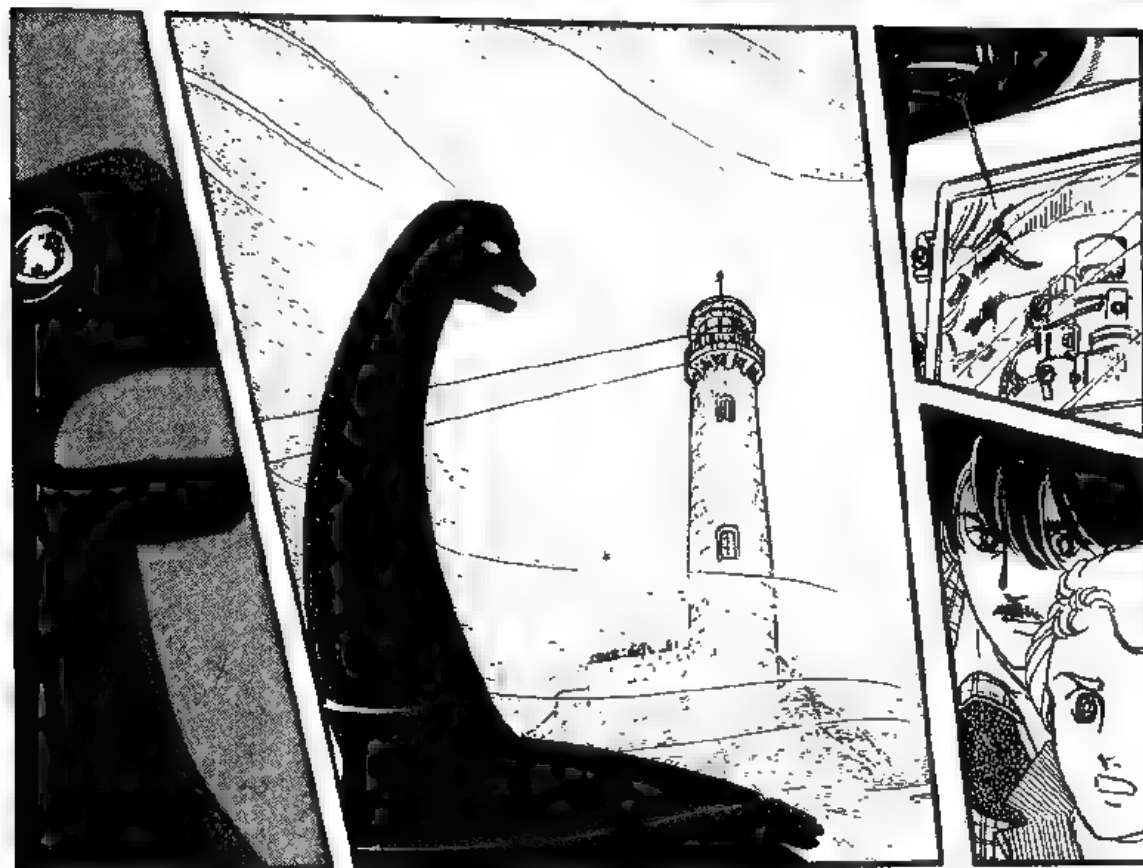
やっ
て
くる
……

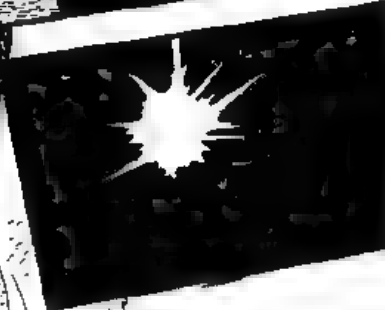
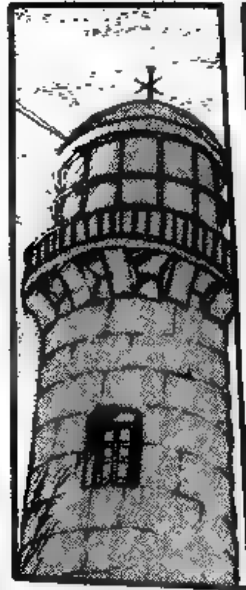
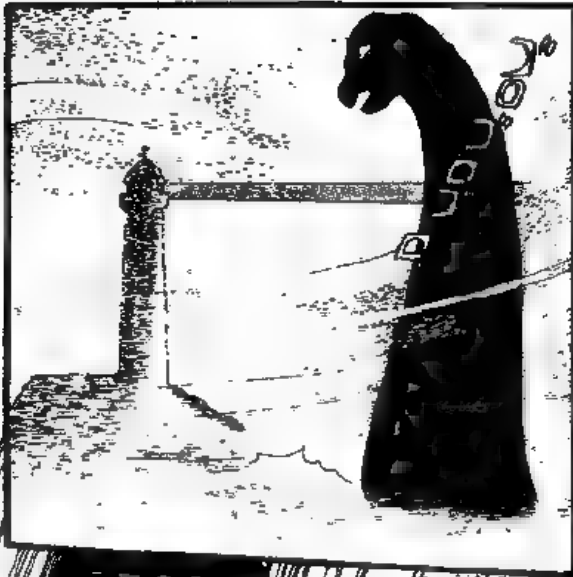


……あれは
まっていたんだ

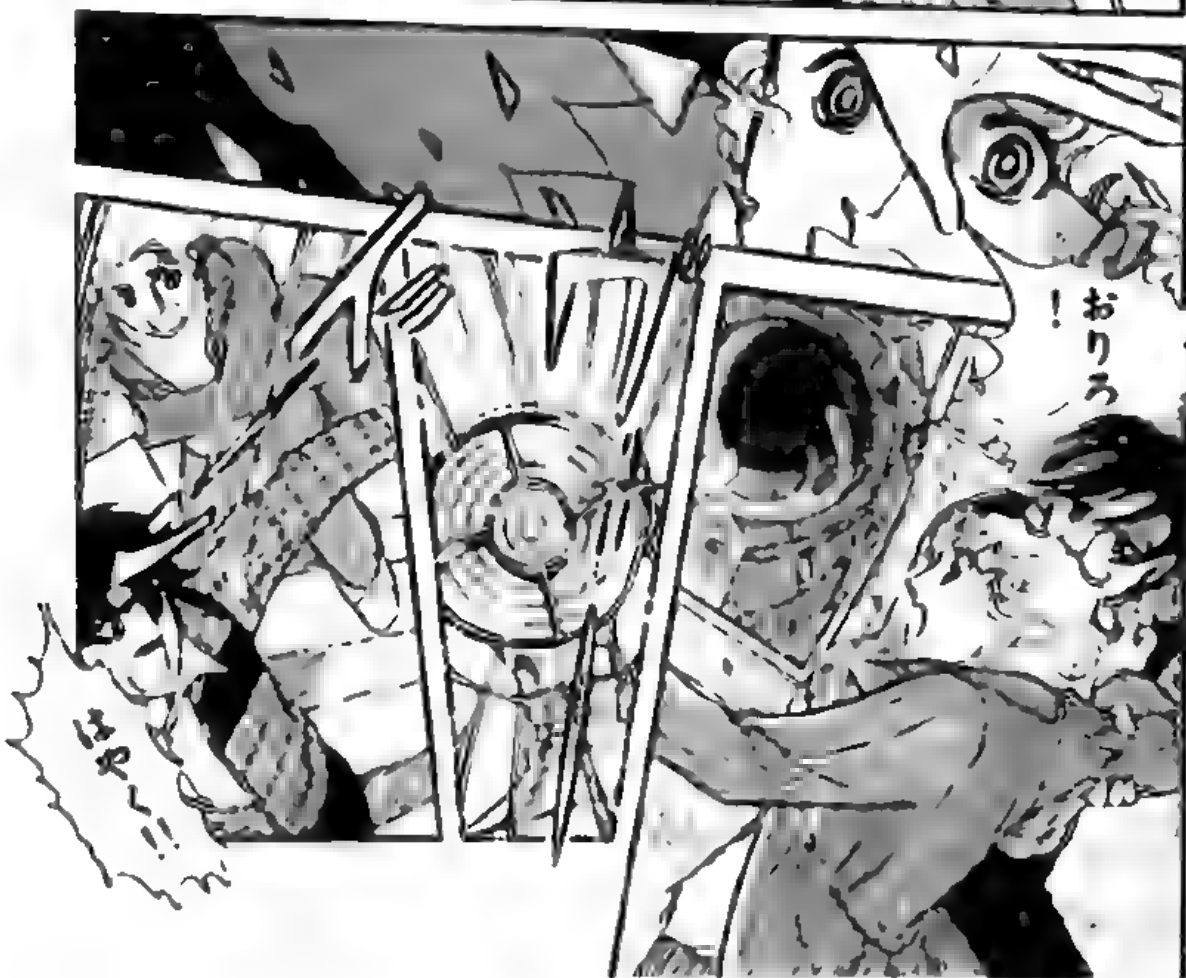
なんと
長い間

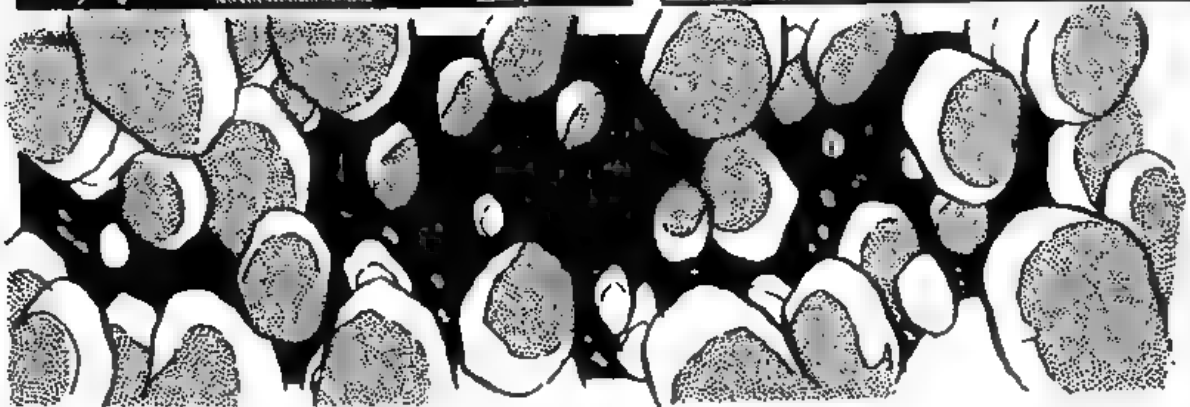




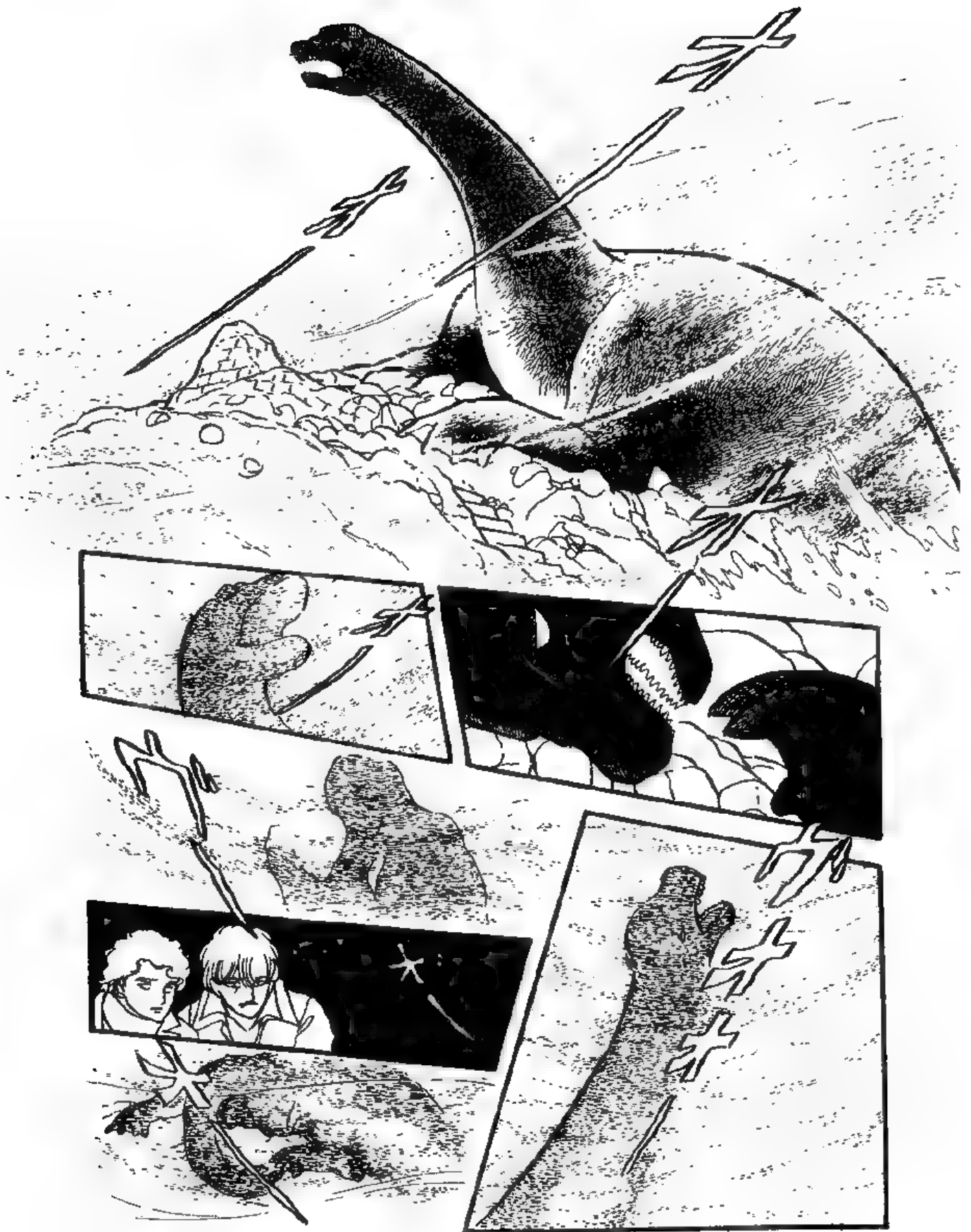


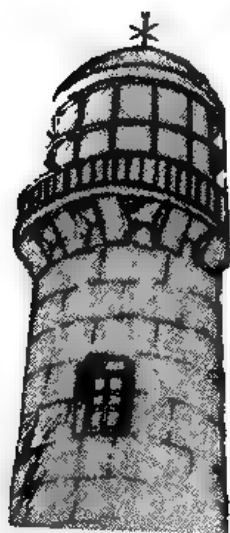
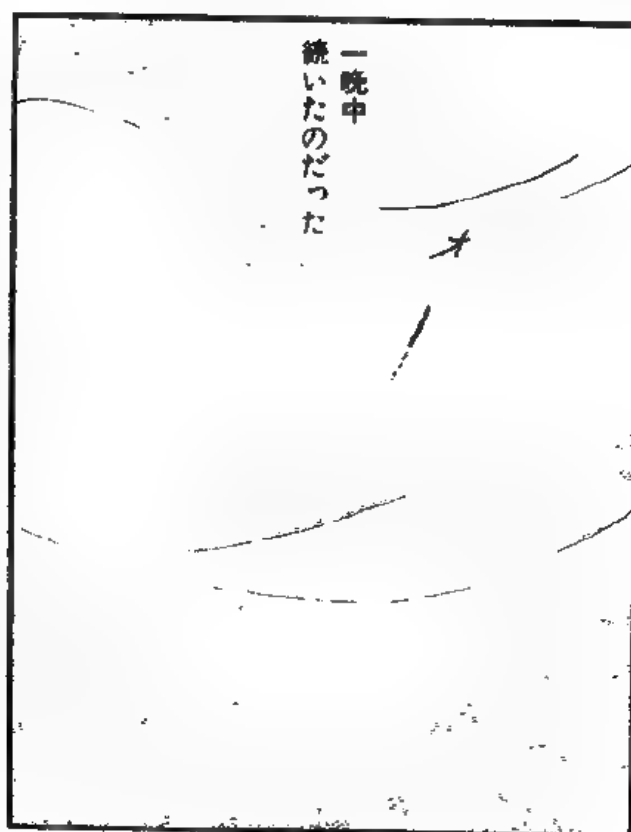
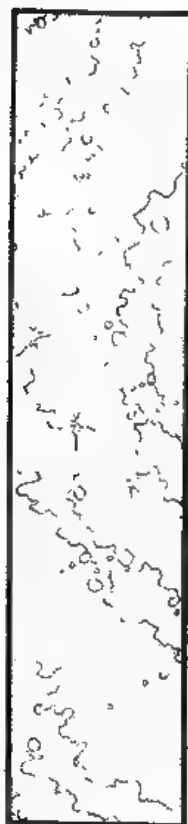












翌日の午後には
救援隊がきて
地下室からほくらを
救いだしてくれた



ただ二度三度
高波がぶつかって
それでボロッと
くずれちまってる



次の年
新しい灯台が建てられた



マックダン!



こんどの灯台は
鉄筋コンクリート造りさ
また責任者になったよ



万一にそなえてな

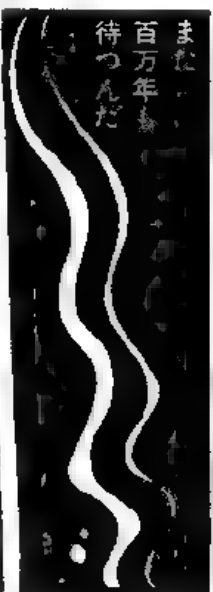
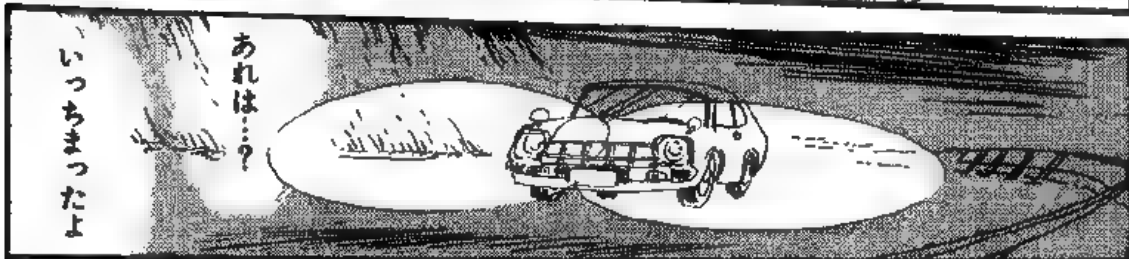
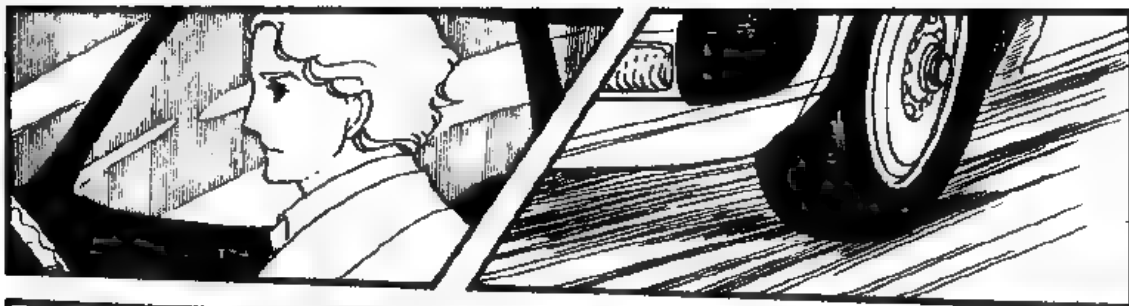


ところで
結婚したって?
いいことだ



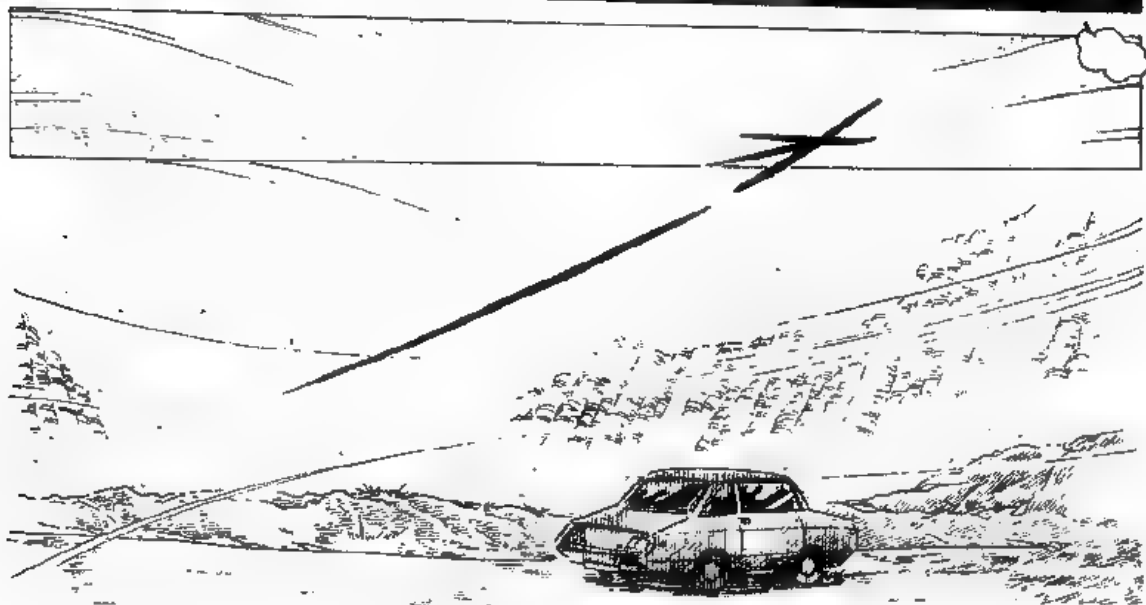
ええ!





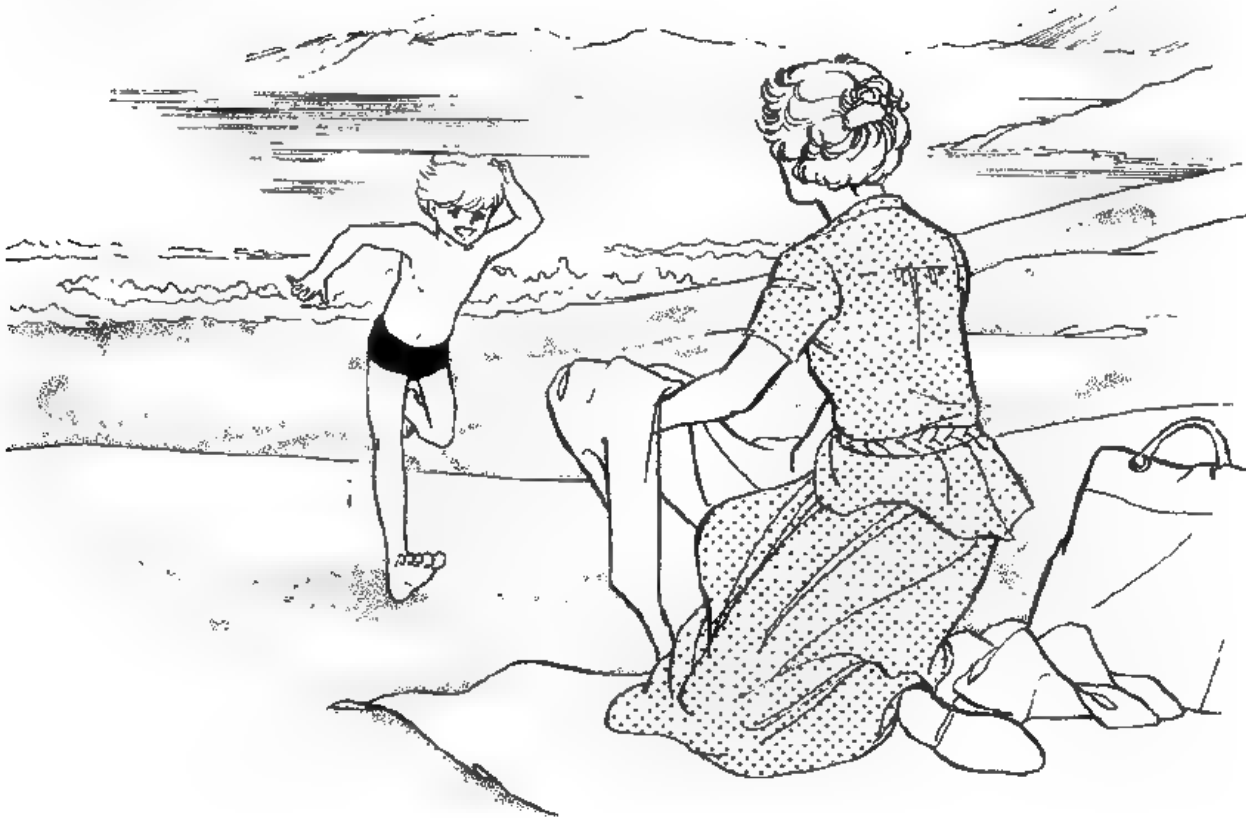


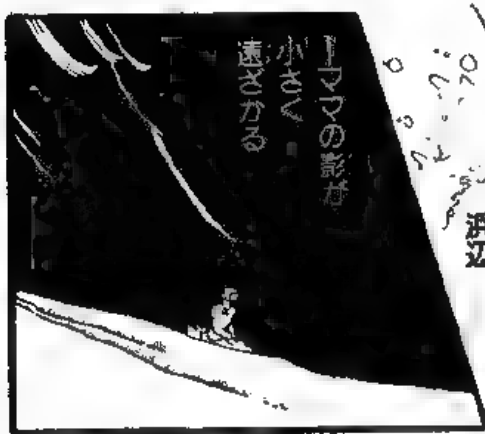
人間が
この世に





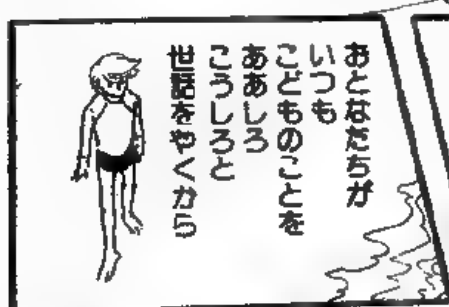
みずうみ







なぎさは九月
風がほくを
もちあげる
明日は帰るのだ
これはなぎさの
最後の日



おとなたちが
いつも
こどものことを
ああしろ
こうしろと
世話をやくなり



だから



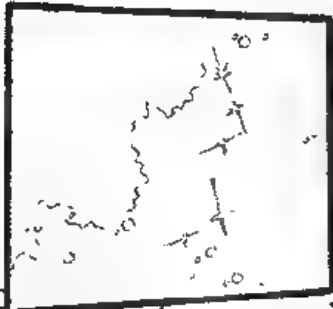
やつと
呼吸がゆる
いことができる
ことができた

こんなに
走つて
やつと
ひとりに
なれた





タリィ……



タリィ！



もう二度と
教室には
現われない

タリィ！

タリィ！

もう二度と
歩道で
ボール遊びを
するつもりはない。

あの子金髪
この五月には
いつしよにおよいだ

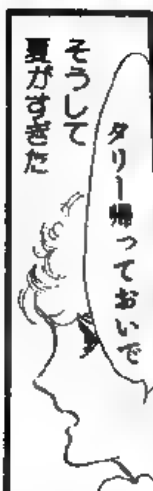
おおおおい

おおおおい

タリィ！



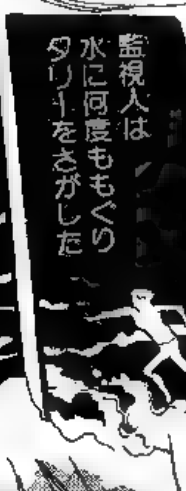
よく笑う
彼女はどこに
いったのだろう



そうして
夏がすぎた



タリィは
みづから
なかつた



監視人は
水に何度ももぐり
タリィをさがした



タリィ

タリィ どこなの



タリィ...帰っておいで

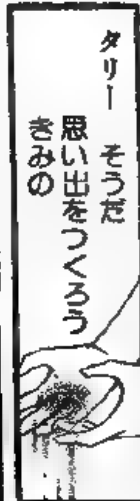
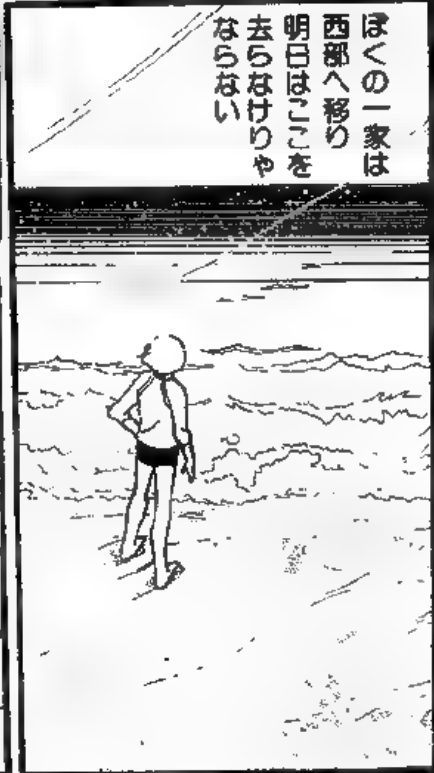
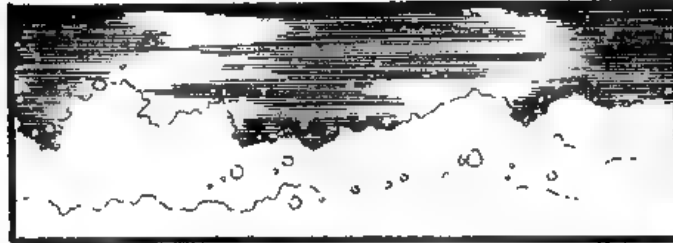
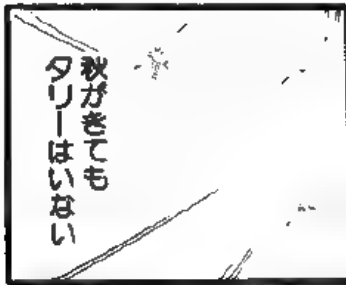
タリィ! 帰っておいで!

タリィ!

ほくはまだ12だった
彼女への恋を知っていた

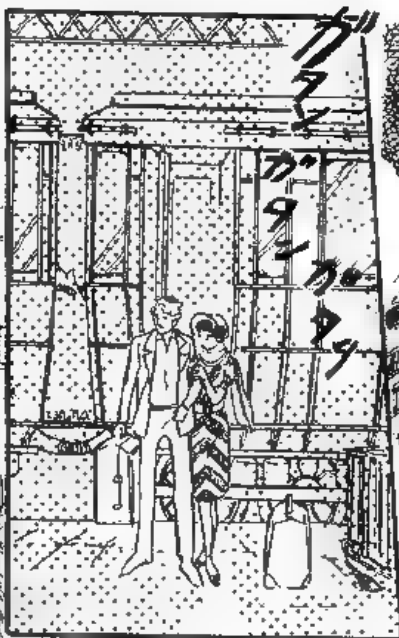
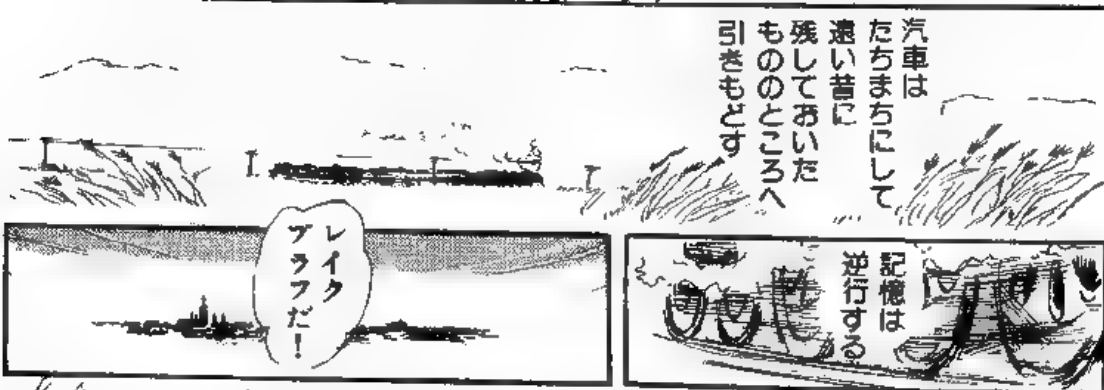
みずうみ
みずうみ

タリィを
かえせ
.....!

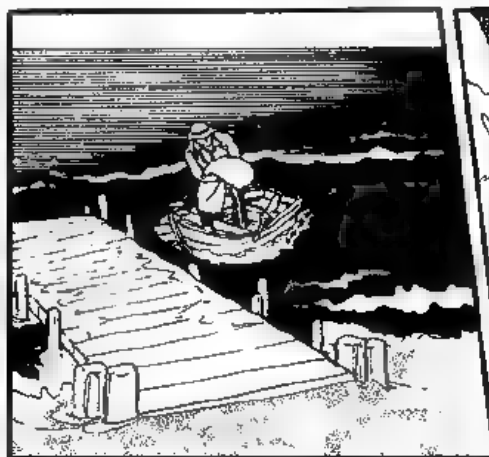
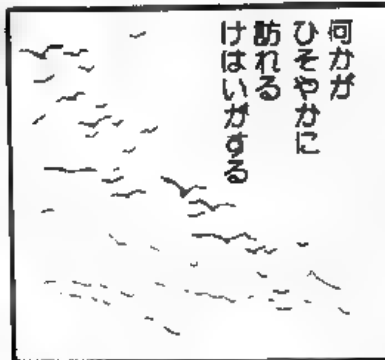


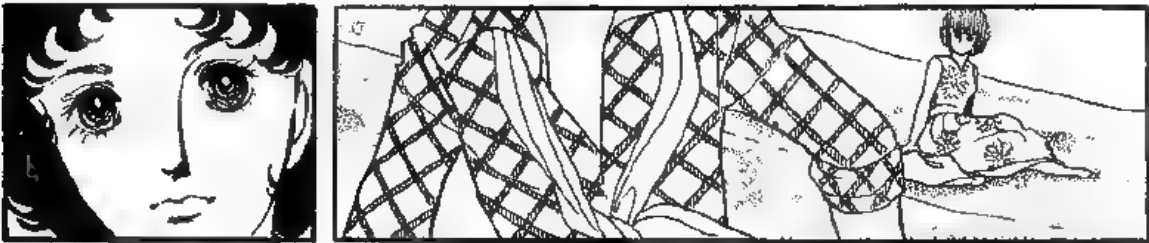














かわったのですよ

…かわったものです
…長年監視人を
やっていますが

こんなものは
はじめて
みました

死んでからもう
ずいぶん長いこと
たってるんです

十年間ですよ

…ながいこと

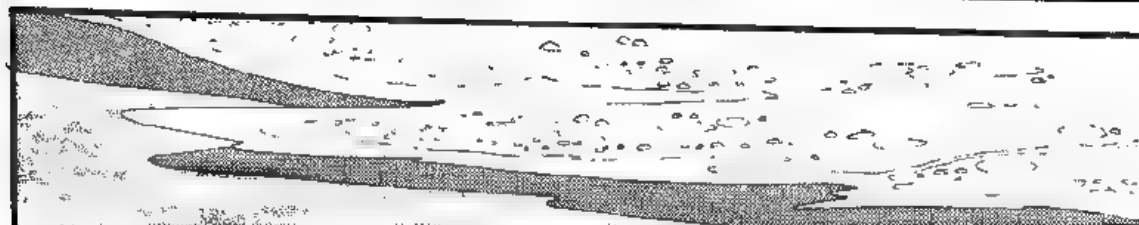
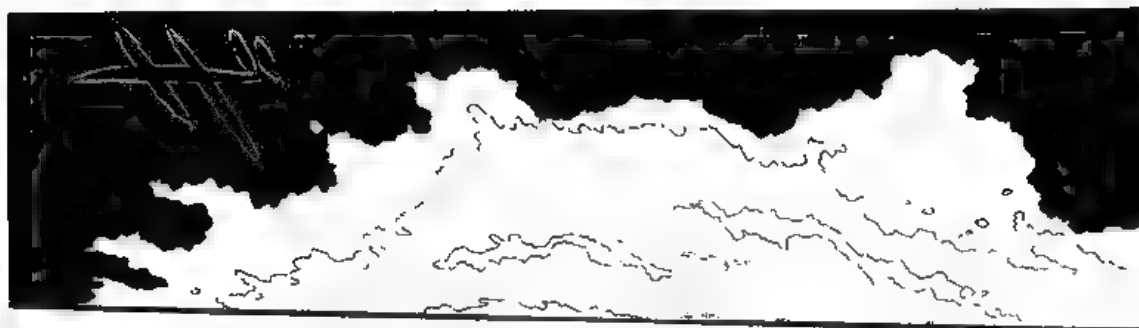
今年は
子どもの
溺死は
ひとりもない

1933年からこつち
12人子どもが
溺れ死にました
どれもわりとすぐに
発見されました

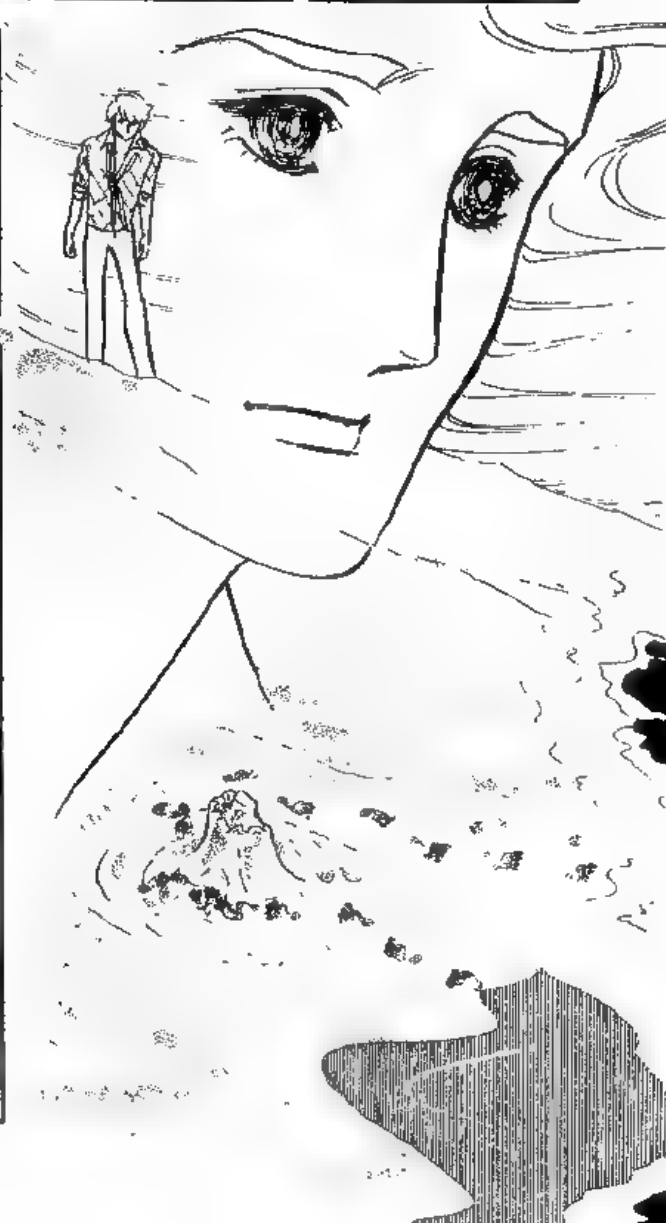
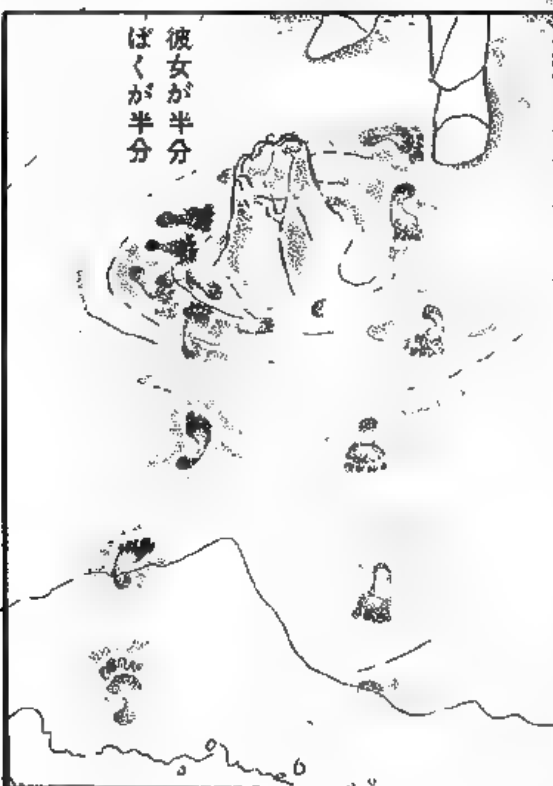
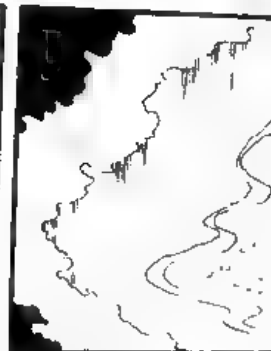
わたしの記憶では
例外は
一件だけです

これが…
それですが

なぜ
そんなに
長い間
水の中に
いたんでしょう
ね











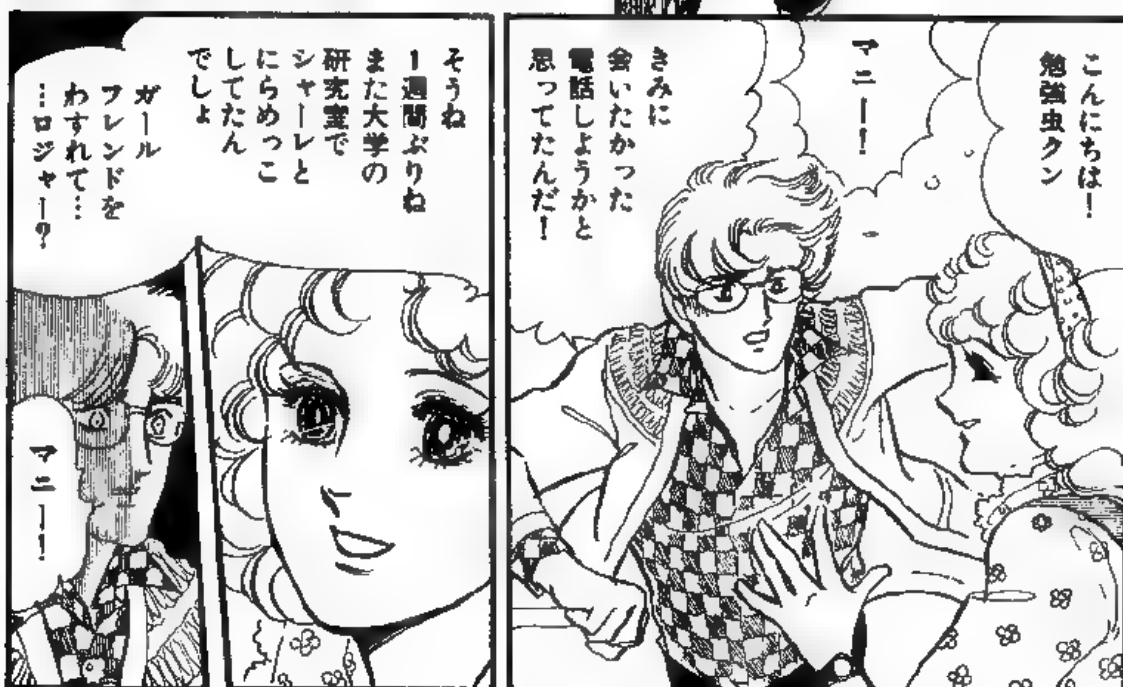
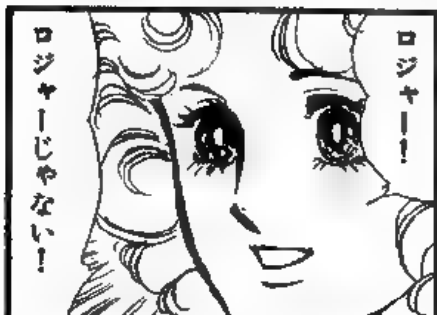
ぼくの地下室へおいで











前代未聞ねえ？
けさ となりの
おばあちゃん
円盤がせめて
くるなんて
いつてたけど
……

そんなもん
じゃなく……

なにが
おこるの？
世界の
最後？
リアルな
夢でも
みたの？

いや なんだか
わからないんだ

わからないんだ

いつのまにか手が
よごれている——でも
いつよごれたのか
わからない——

……たとえば
ホコリはまい日
世界中に
落ちてくるけど
気がつかない——

でも
十分つもと
あーそこに
ホコリがあると
わかる……

ふっと……
ぼくは
ホコリに
気づいた

なぜ
気づいた
の？
あなた
だけ？

なにか……
なにかが
十分に
つもりつつ
あるんだよ……！

それだけだよ
具体的に
理由なんか
ないんだ

ただ不安なんだ
なにかが
かきたてるんだ





真剣——ロジャー——

でもなんで
わたしの彼だけが
世界の心配を
してるのよ
……いい天気なのに



おしまいだよ……!



時間どれに
なるまえに……!
まにあう
うちに……!
さも……
さもなきや
ぼくらは……みな



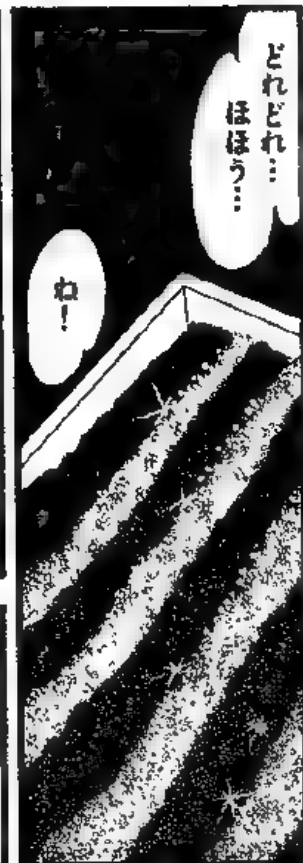
その変人とは
小学校からの
ながあい
つきあいだけど
きようはとくに
へん……

千ユン

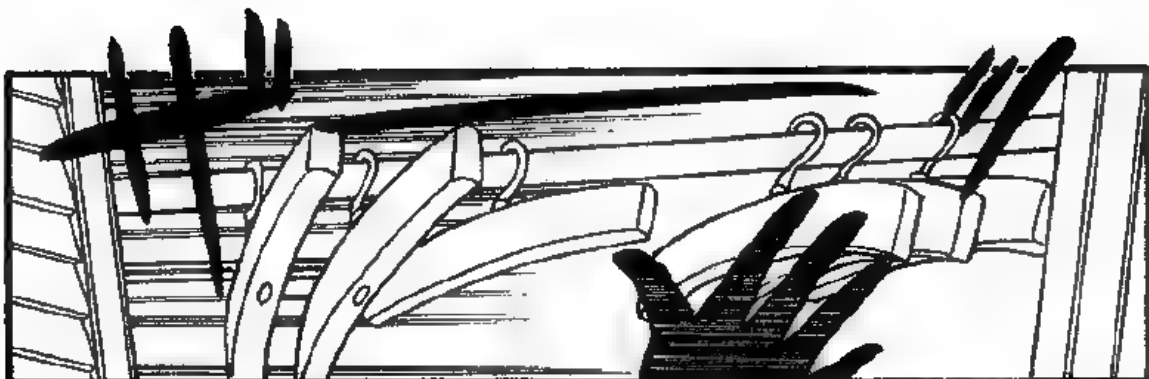


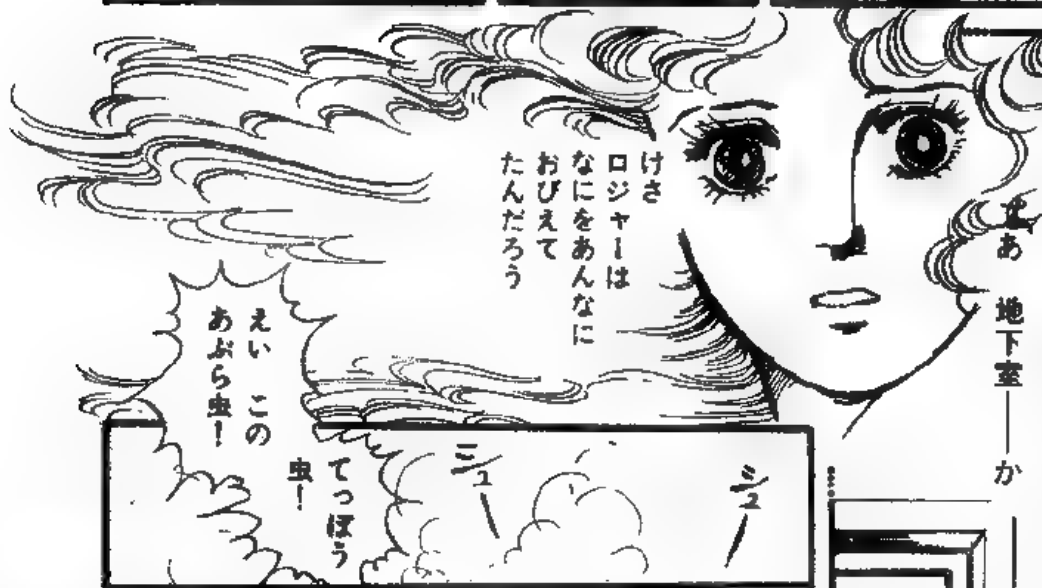
ああ
デートのとき
あんたに
原子記号を
おしえてくれる
変人ね

マーケットで
ロジャーに
会ったわ
おばさん

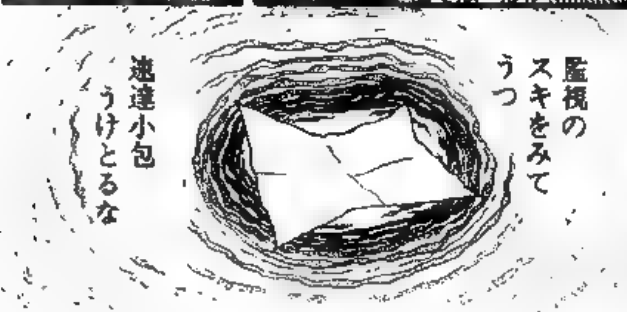
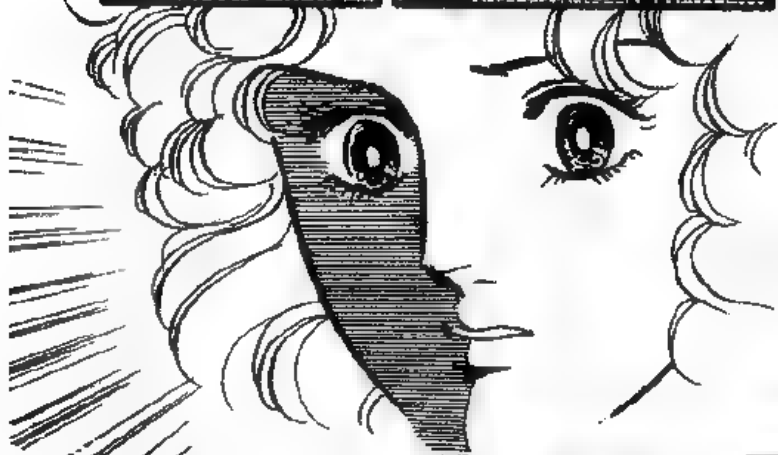


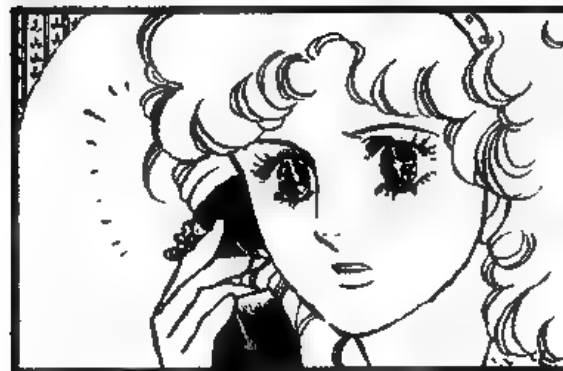
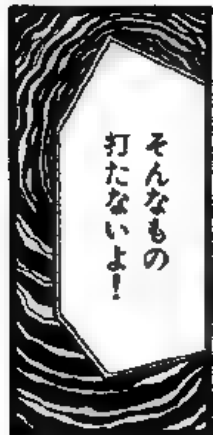
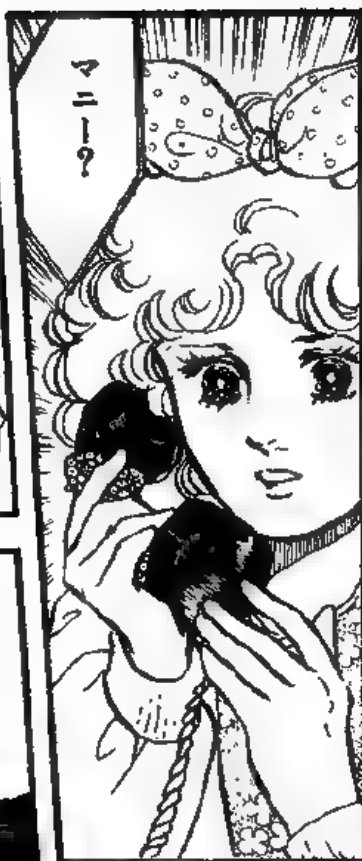






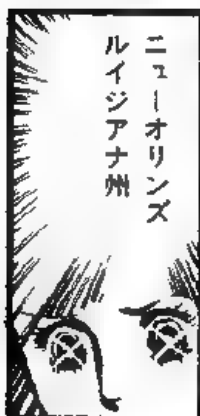












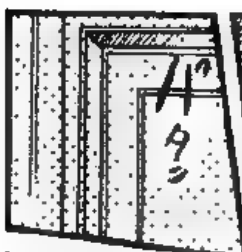
ニューオリンズ
ルイジアナ州



これだわ
小包…



ガガ
ササ



ハ
タシ



きのこは
トムと
ビュウが



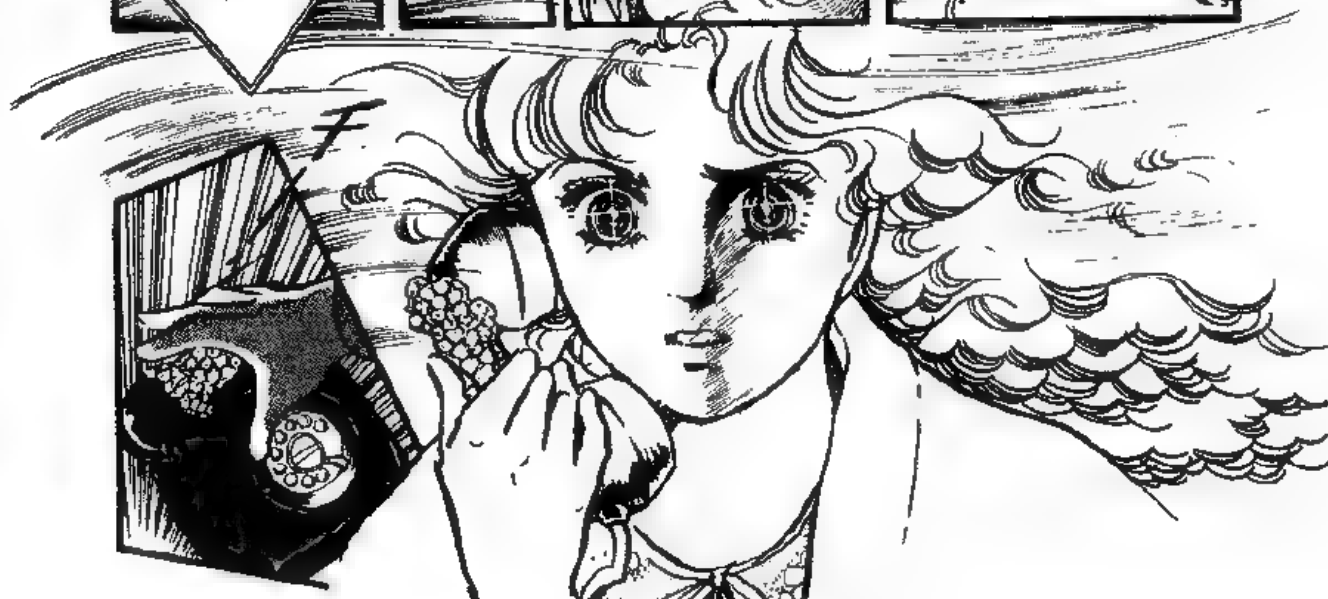
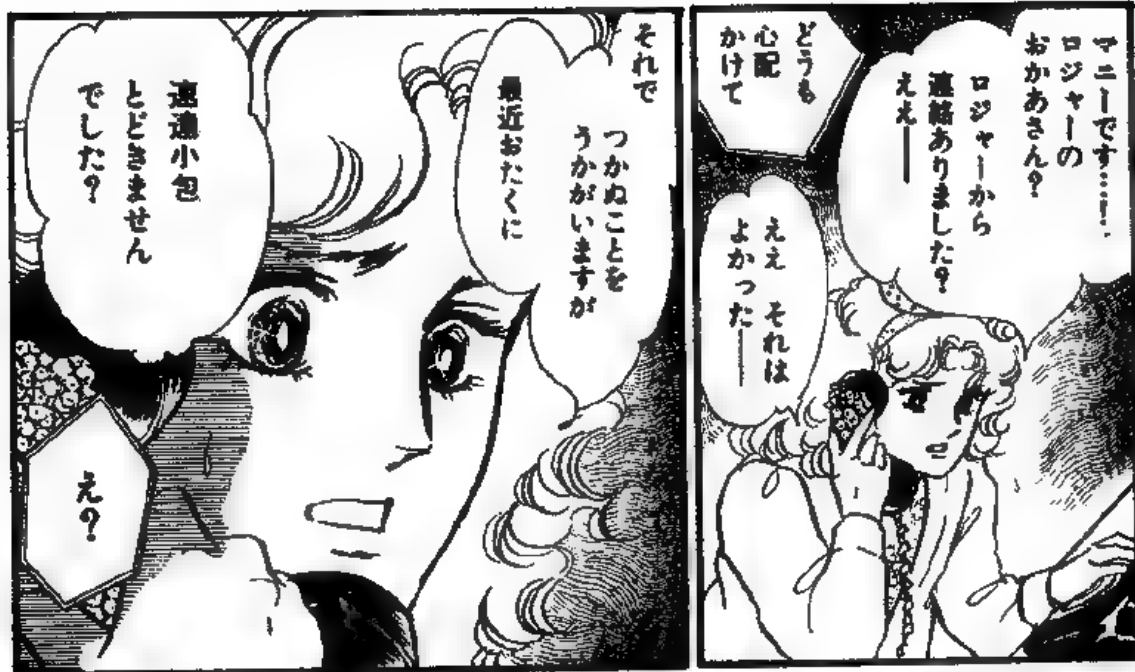
小包 小包きのこ
おくってきた

きのこ
地下室



ニューオリンズから
速達小包

ミニ ロジャーの
いこうとしているとこ





まの...

きの...

ニューオリンズから
きた小包

速達小包
うけとるな!

ほくは無事だよ
マニ!

なにか
へんなこと
へんでないよう
なこと

なにかが
確実に
おこりつつ
ある

宇宙人の
侵略だわ!

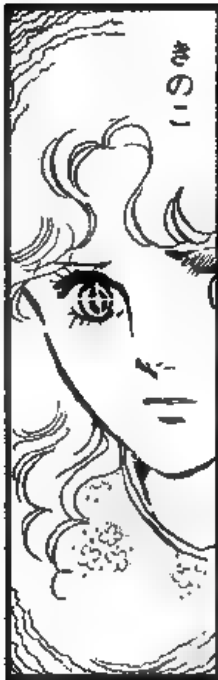
えい この!

とっても
とっても
ふえる!

このマラス・ミクス・
オレアデス

となりの
おばあちゃんの
庭





きのこ



マラスミウス
オレアデス

初夏や秋
芝生によく
みられる
きのこ



マラスミウス



どうした
マニー
休まないのかね

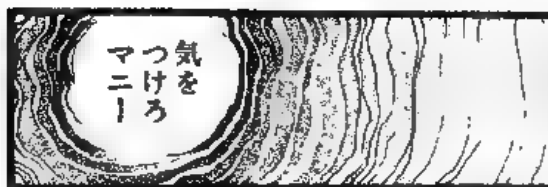
ロジャーは
心配ないの
だろう?

—— パパ



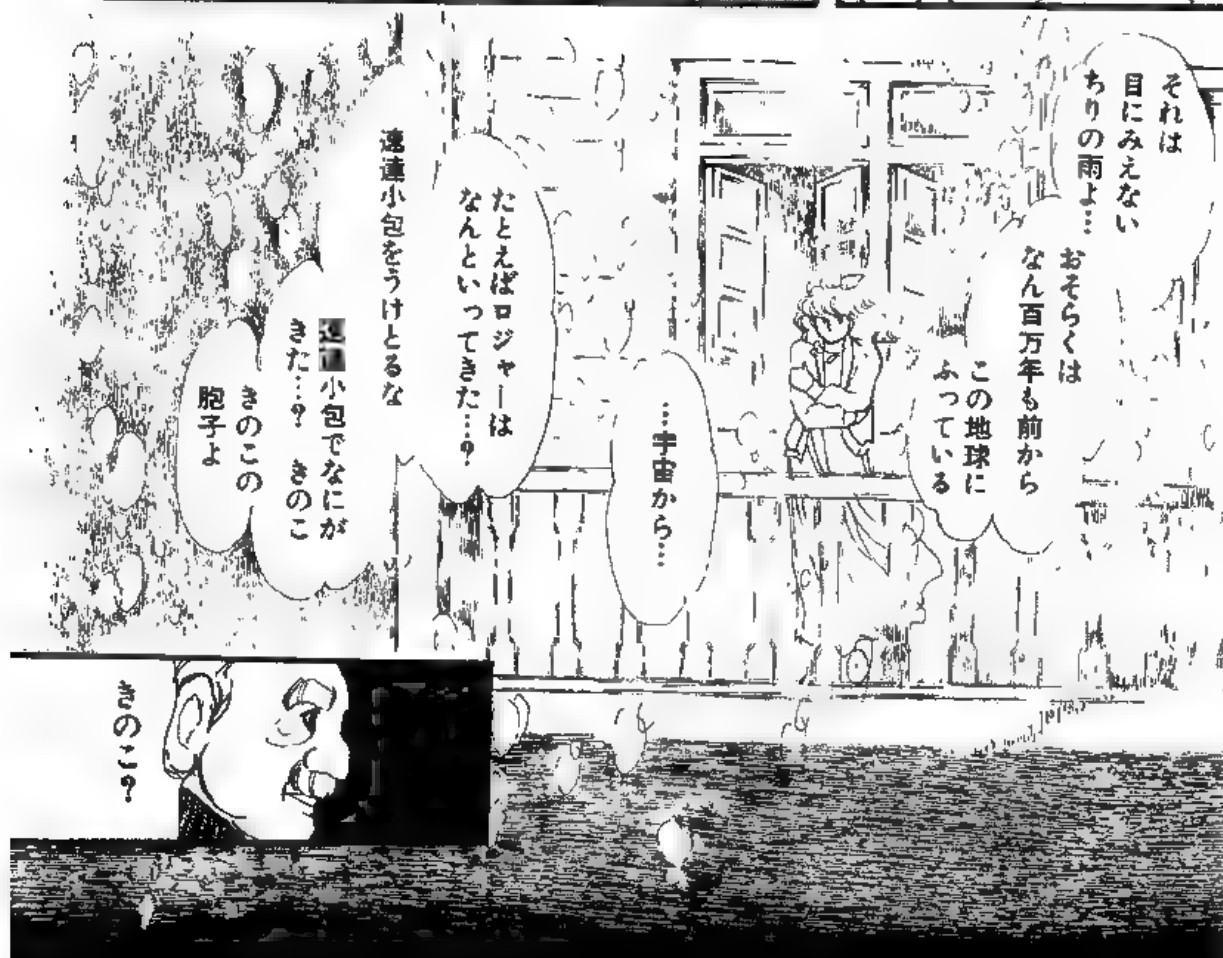
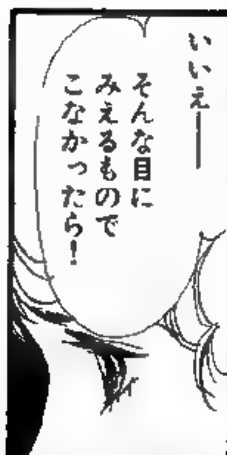
いいえ パパ
…… おかしいわ

不安なのよ
…… なにか なにか
…… へんなことが
おこっている……



気を
つけろ
マニー

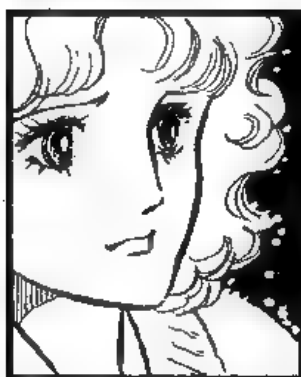








んん？



いいかい？ マニー
考えてもごらん
きのこには手も足も
頭もないんだよ？

どうやって
速達小包を
配達したり
世界を征服したり
できるんだね？



わしも子どものころは
安物の通信販売に
こづかいをおくったものさ
男の子の遊びさ

子どもだましの
化学薬品や
組立式の
時計やね

ハハ...



おいで
そんなに
心配なら
見にいこう
おまえのいう
地下室で
そだっている
きのこの

怪物を
をさ



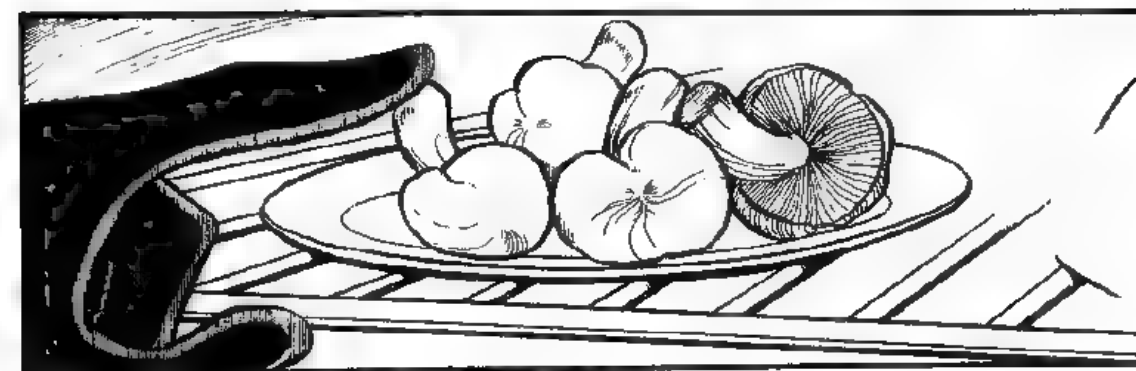
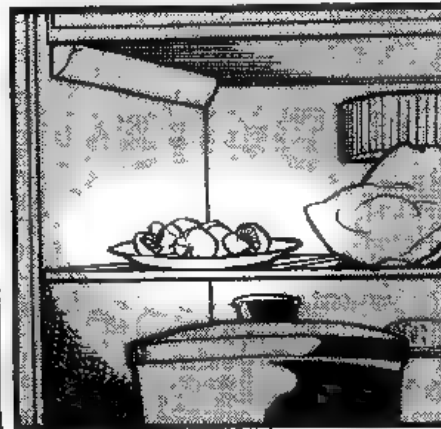
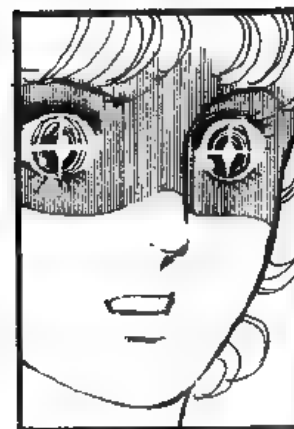
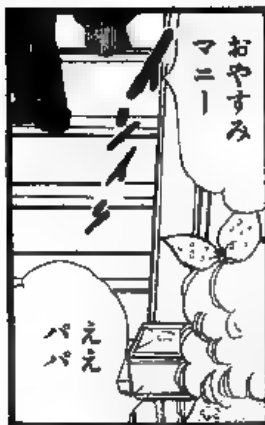
ああー
わかってるわよ
どうかしてるのよ！

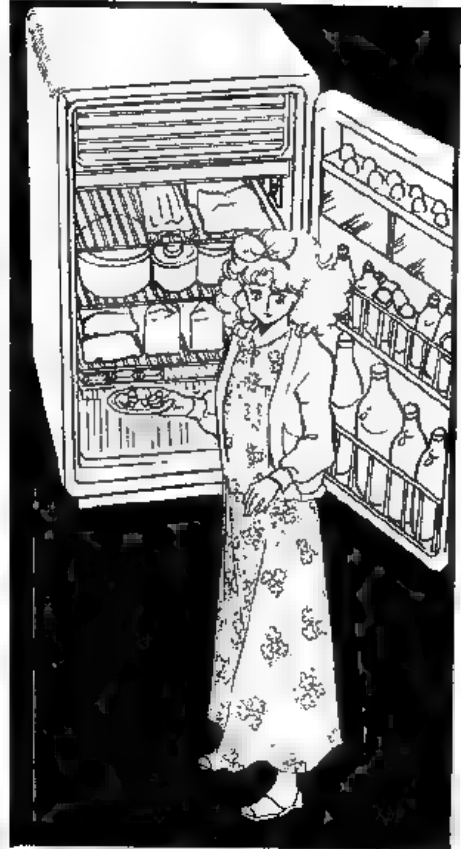
きのこは
きのこよ...ええ

わかって
るわ
ババったら
！

マニー







これをニニに
おいたのは
だれ？

パパ？
おばさん
それとも



きのこにも
手や足が
はえることだって
あるわ



だれかが
みつけて
— 食べるのよ

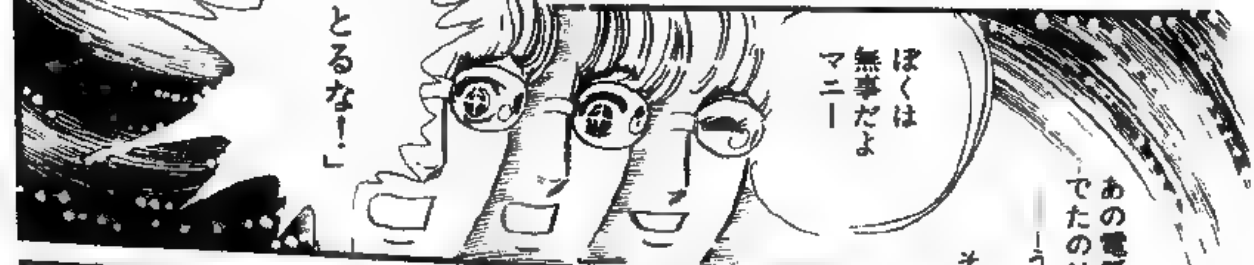
きのこは体内で
消化され

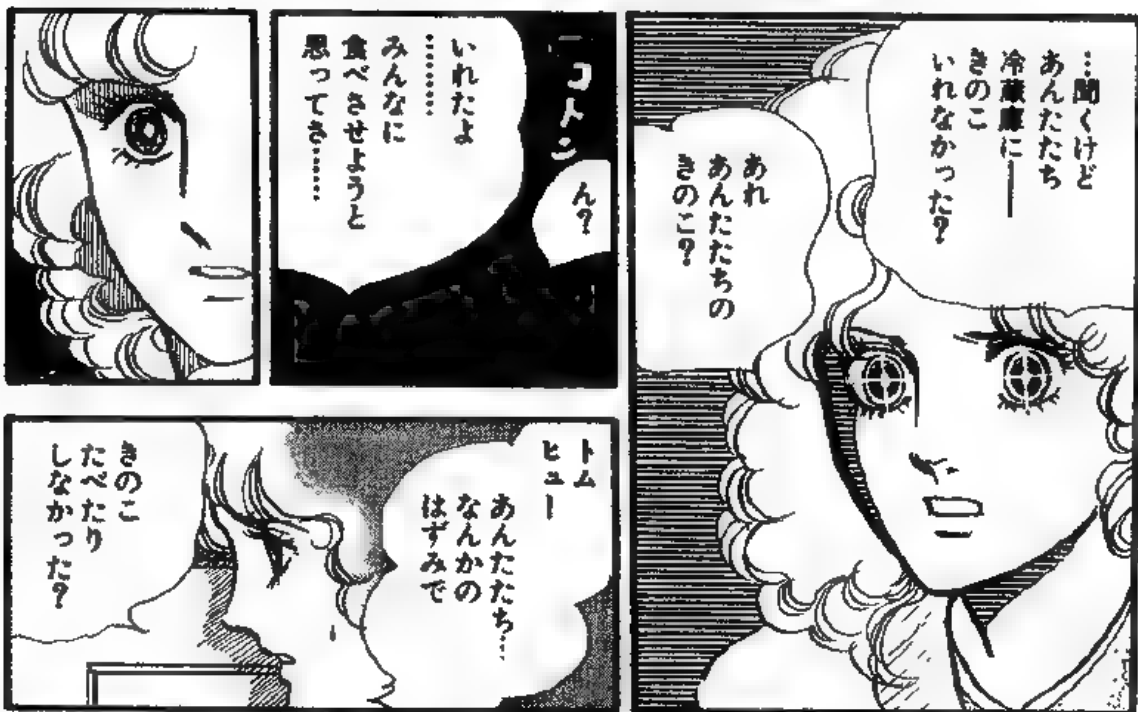
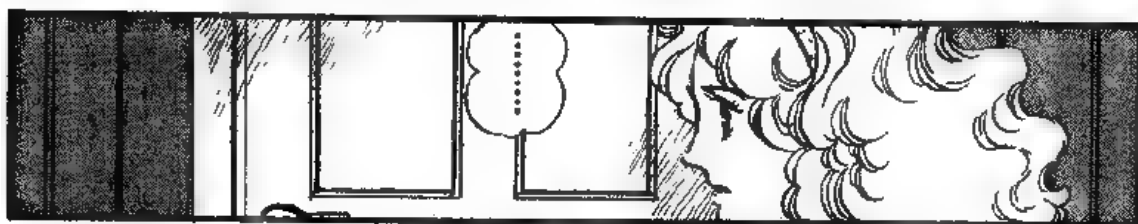
血液中に広がり

細胞に
おしいって

人間を
……かえて
しまうんだわ

そうだ…
きのこ宇宙人に







収獲を
みてよ



マニーねえさん
おりといでよ



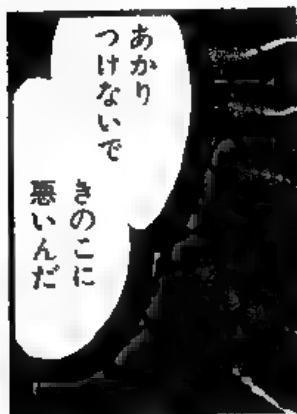
マニー
ねえさん



まって...



おいで



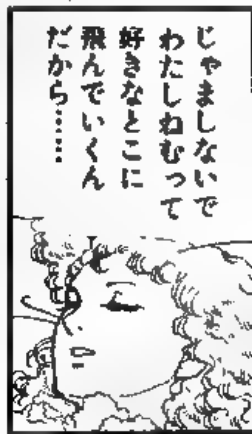
あかり
つけないで
きのこに
悪いんだ



なにをこわがってる
の？

ええ
ばかしてるわ
そんなはず
ないわよ



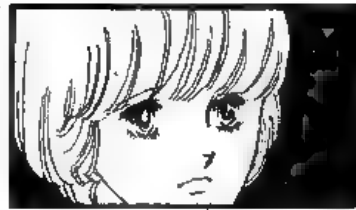


みんながやってくる
あじさいのころ

明日は
万聖節の宵祭だ…

集会





万聖節だ
宵祭だよ
みんながくるよ！

ティモシー
毒キノコ
とってきて
おくれ！

ふう

やあ…クモ
いたね
こんばんは…
ぼくの友だち

おみやげの
羽虫だよ

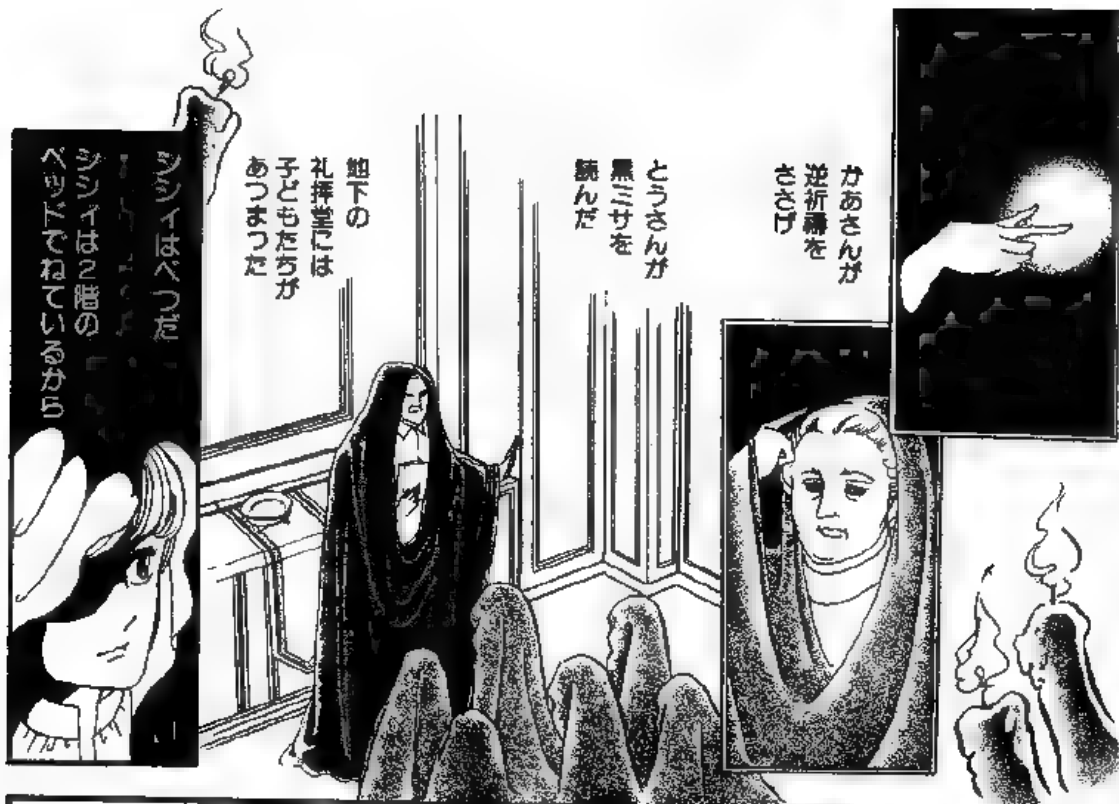
家は集会の
したくで
たいへんさ
……

あの街の
人たちはもう
ねむってるね…

家で
ひらかれる
集会の
ことなんて
しらない
んだよ

ねえ…クモ
ぼくは一家の
できそこない
なんだ…
ぼくは
かわりもの
なんだ…

…ぼくは
かたみが
せまいんだ…



かあさんが
逆祈禱を
ささげ

とうさんが
黒三サを
誦んだ

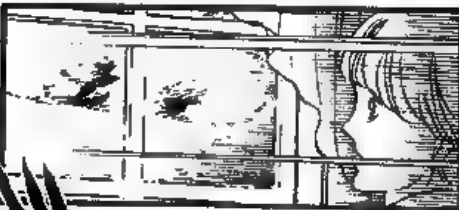
地下の
礼拝堂には
子どもたちが
あつまつた

シシイはべつだ
シシイは2階の
ベッドでねているから



だけど
ねあつて
るのは
体だけで
シシイは
風に化けて
ここに
きてる

どこからか
のぞいてる
だれの目に
はいってる
のかな?



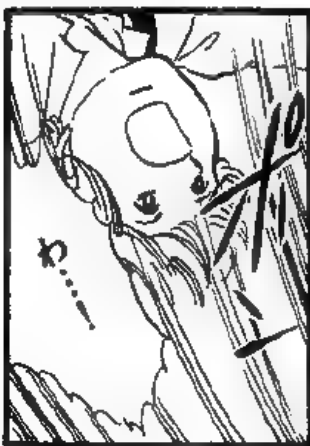
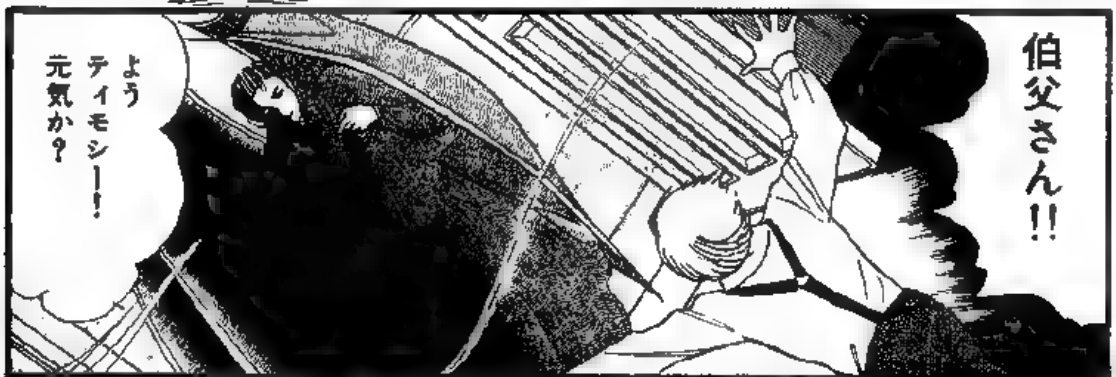
…おねがいです
…おねがいです
黒い悪魔

ほくは
病気がかりしてます
ほくを強くしてへください
黒い翼をください
役に立ちたいんです
兄弟たちとおなじように——

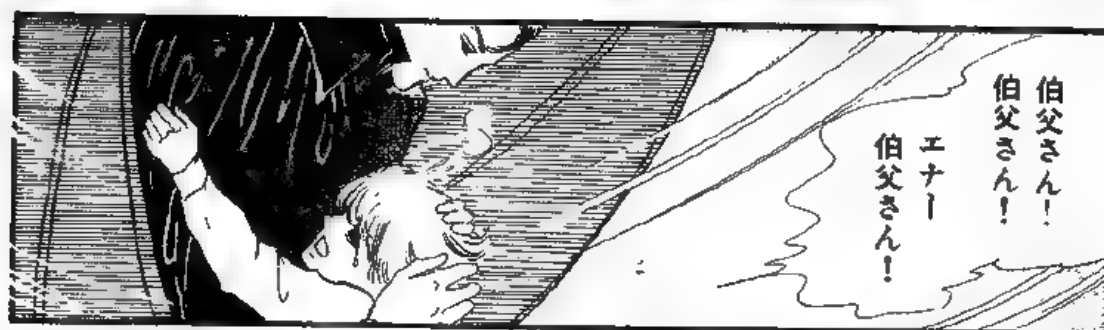
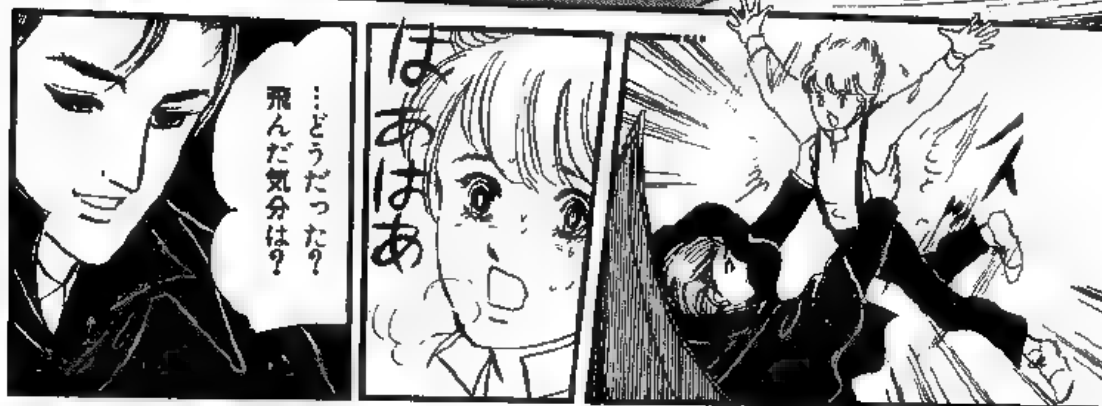


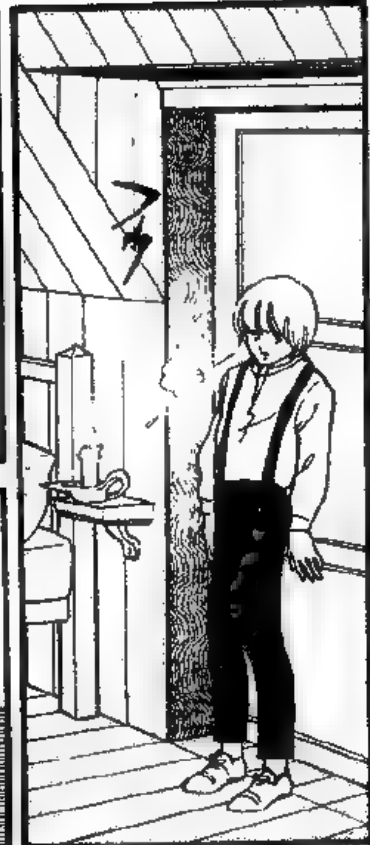












飛行つて
つかれるんだな

でも
すばらし
かった

いつか
エナジー伯父さんの
魔法の手助けを
かりずに
じぶんで
飛べるように
なりたい...



闇が好きに
なれるようにも
したい...

闇の中だと
失敗しても
人間に
笑われ
ないもの

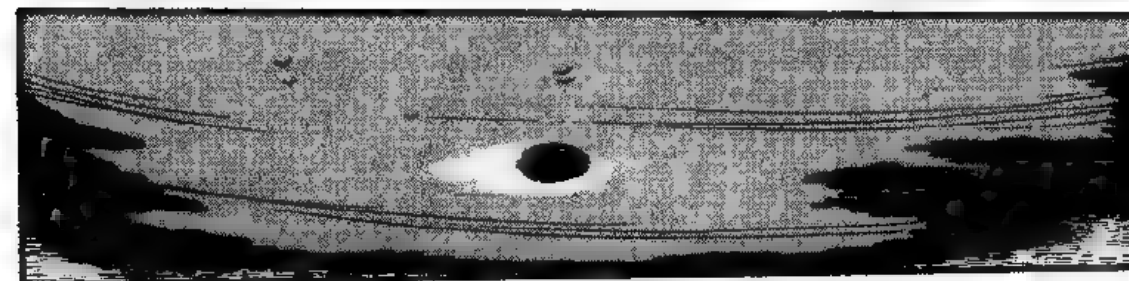
人間たちは
暗いところば
なにも見えないから



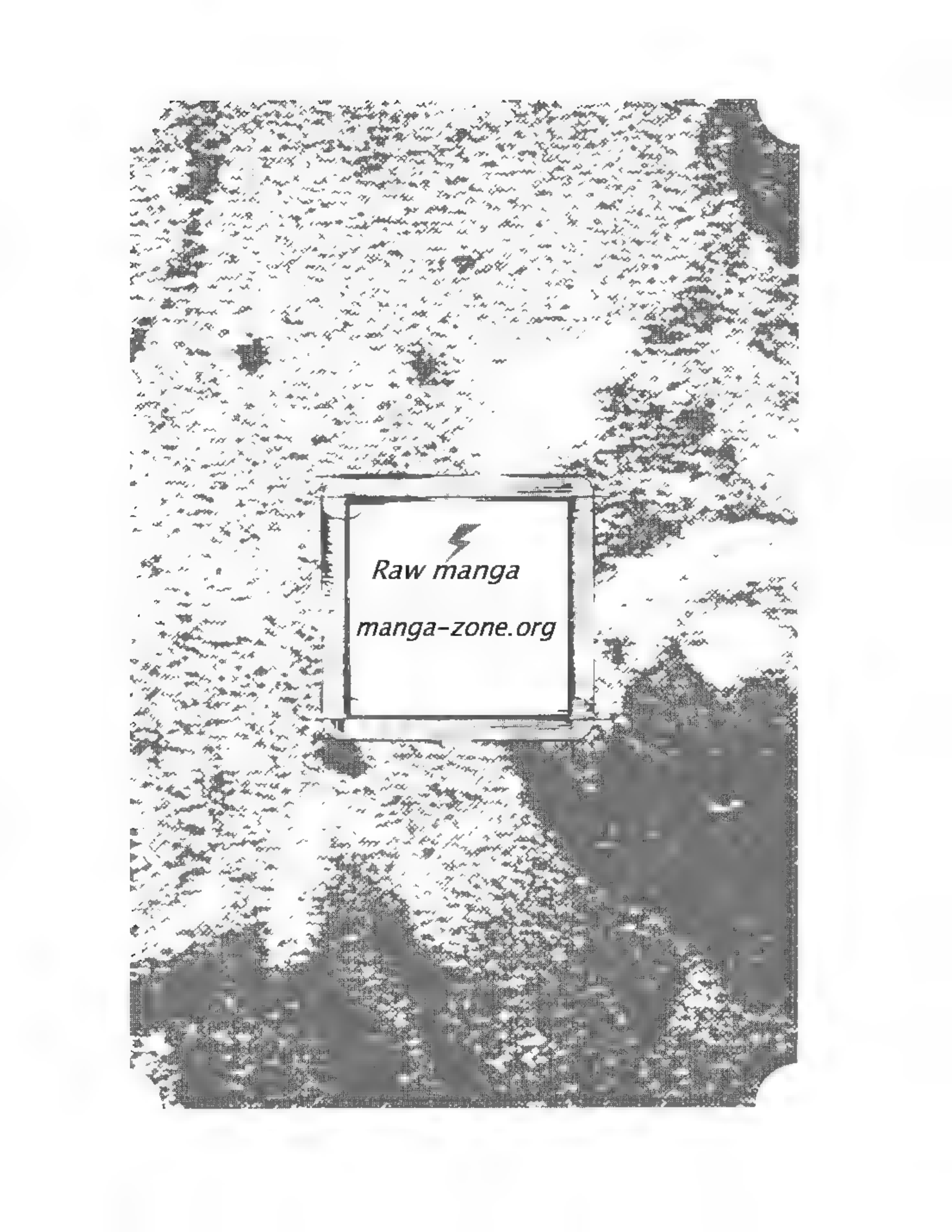
なぐさのこころが
できるように
なりたい...


みんなから
バカに
されない
ように...

書きノコも
酒も
平気に
なりたい
...そして...



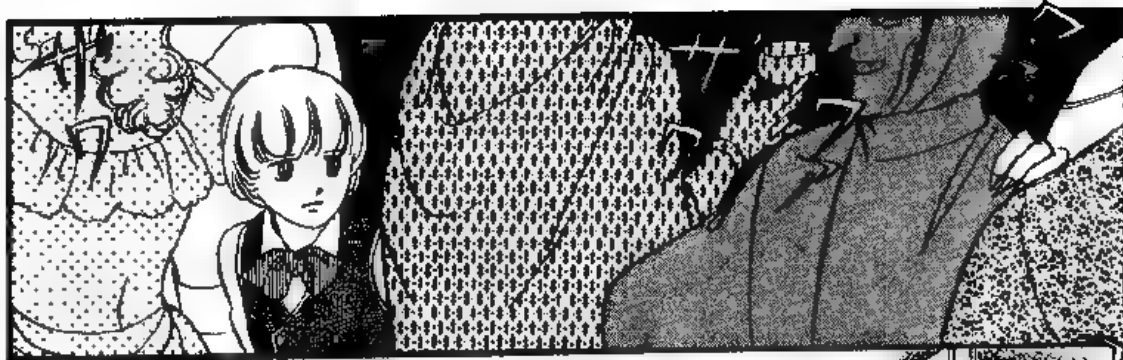


A black and white photograph of a dense forest. In the center, a white rectangular sign is mounted on a post. The sign features a lightning bolt icon above the text "Raw manga" and "manga-zone.org" below it. The background is a dense, textured forest of trees and foliage.


Raw manga
manga-zone.org









それで――

近くの沼で
硫黄が
燃えているわ

いやな
臭いよ



歩いて！

沼にむかうのよ！

あたし
この女の
生き方
変えてやるの

そら
立って！



どうするんだい？



フフ

この女は
あたしの
あやつり人形よ



……
鳥だわ
！



あたし急に
鳥に
乗りかわったわ
！



女の人はい？



硫黄が
燃えてる！

その中に
落ちたわ！

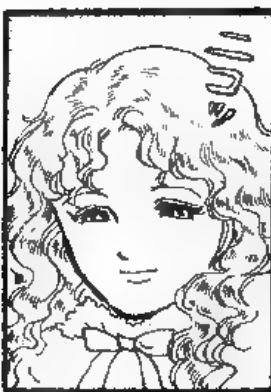
落ちたわ！

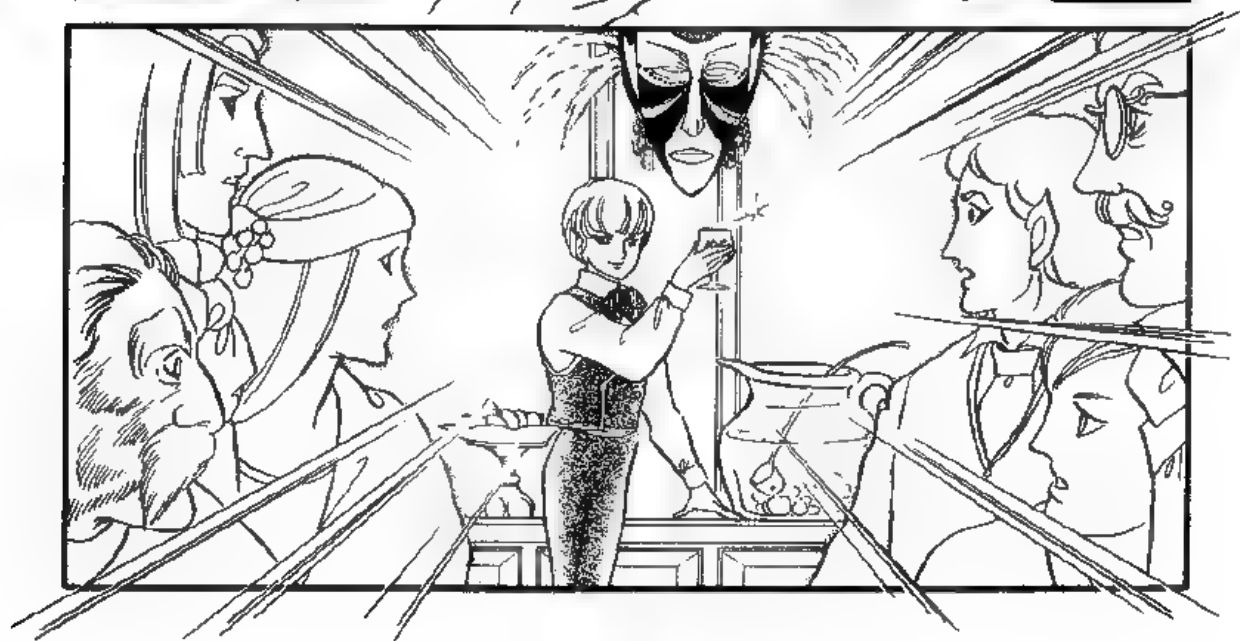
溶岩の中に！

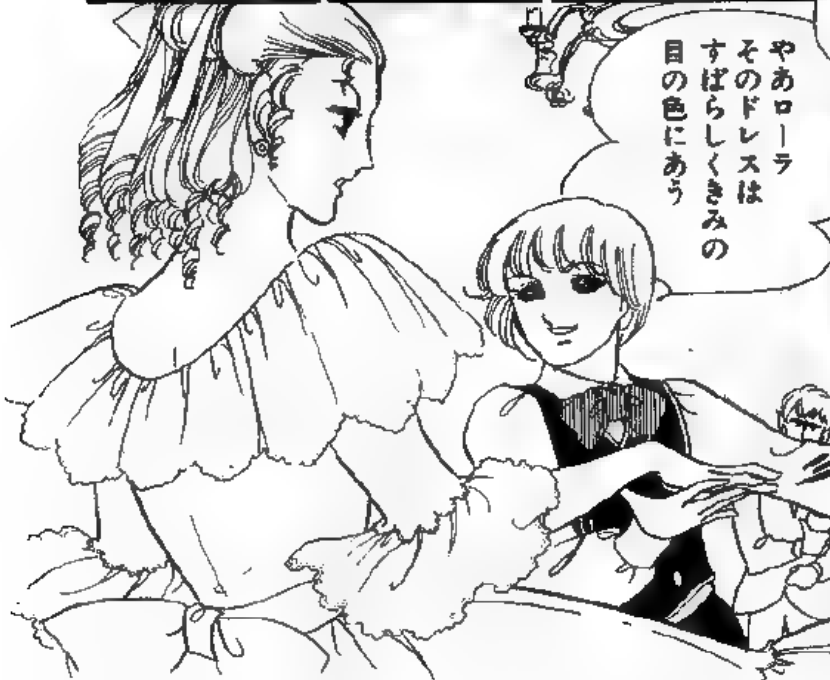


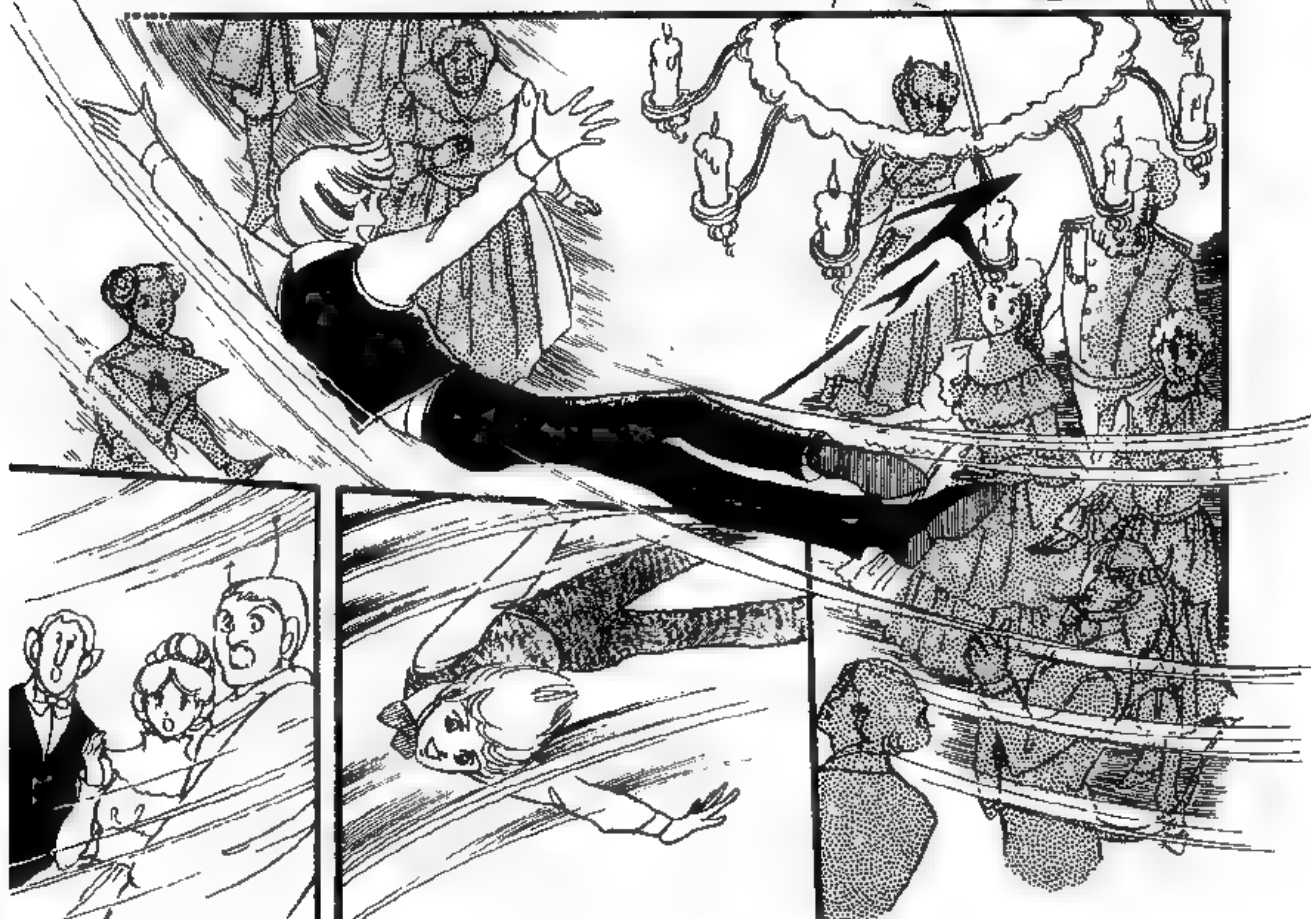
さあ
飛んで！

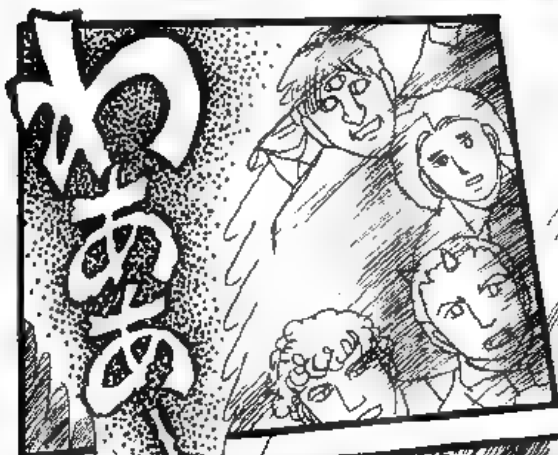
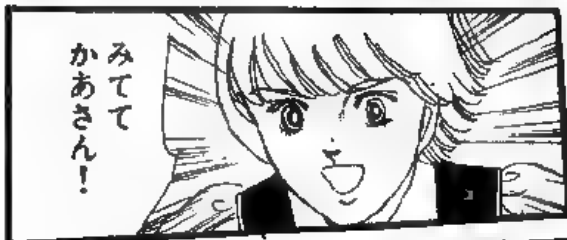
わたし鳥になって
家へ帰るわ！



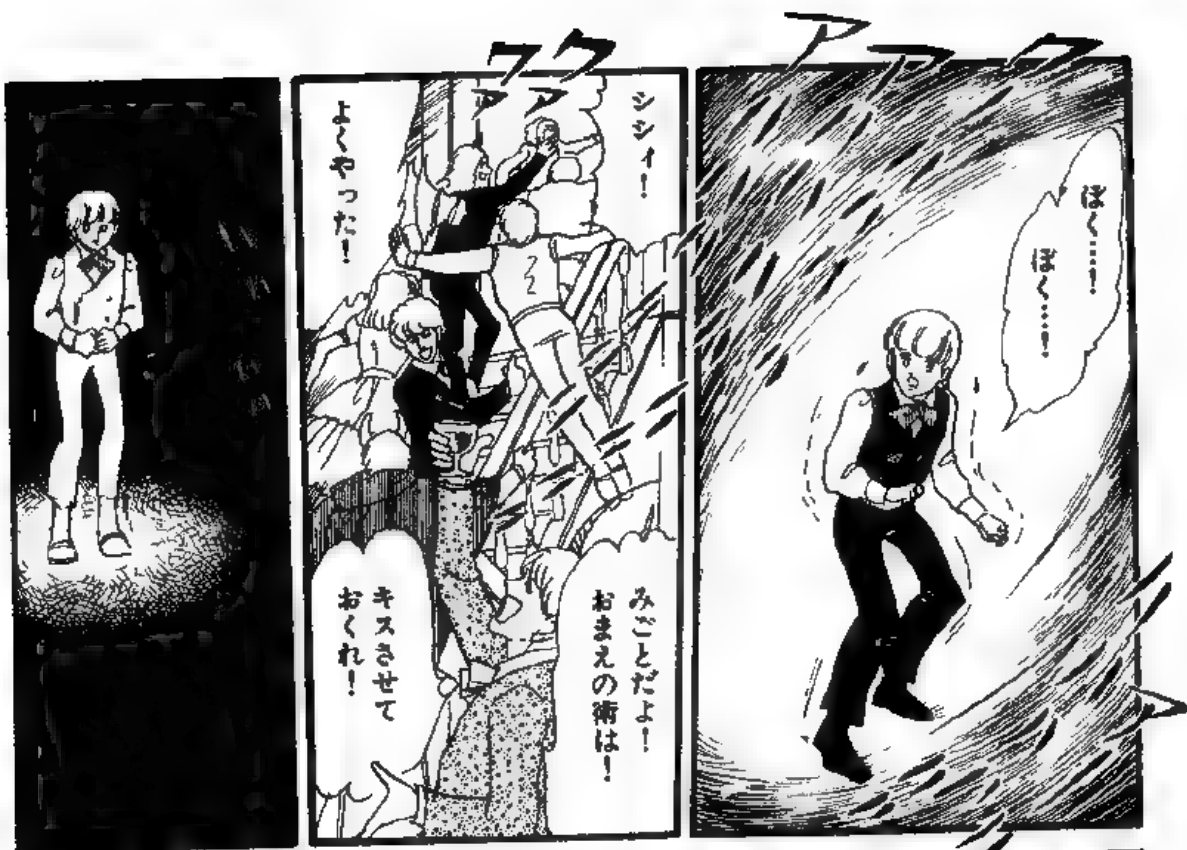


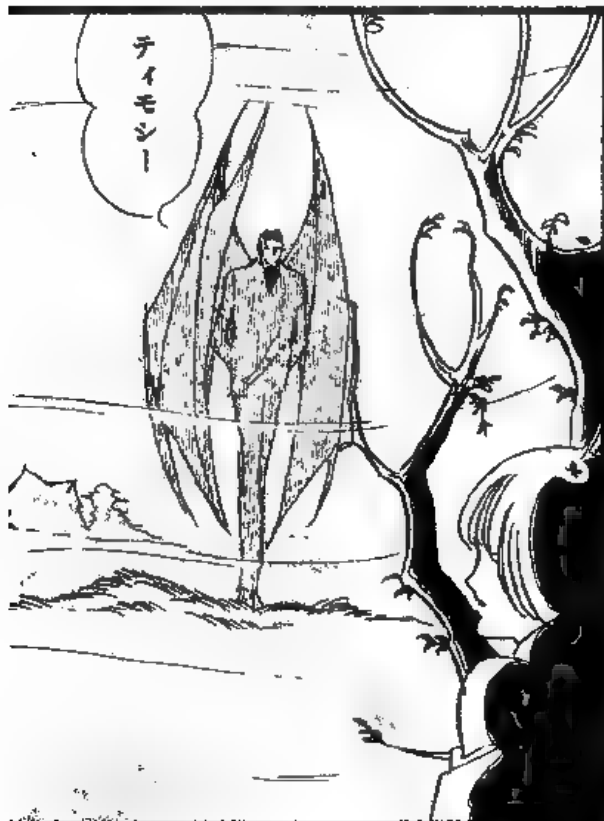














おこるんじゃないよ...
だれでもそれぞれの
生き方というものがある





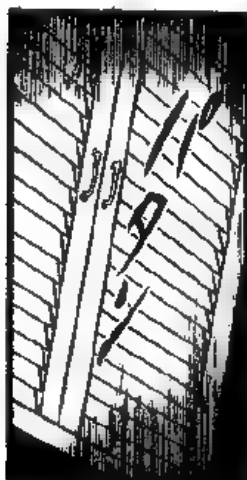


短い一夜だったよ!

さようなら!
たのしかったよ!

こんなに
たのしかったことは
なん年ぶりだろう!







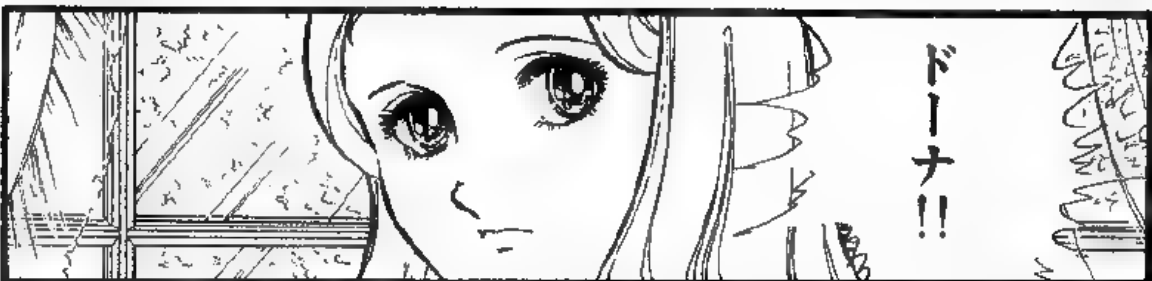
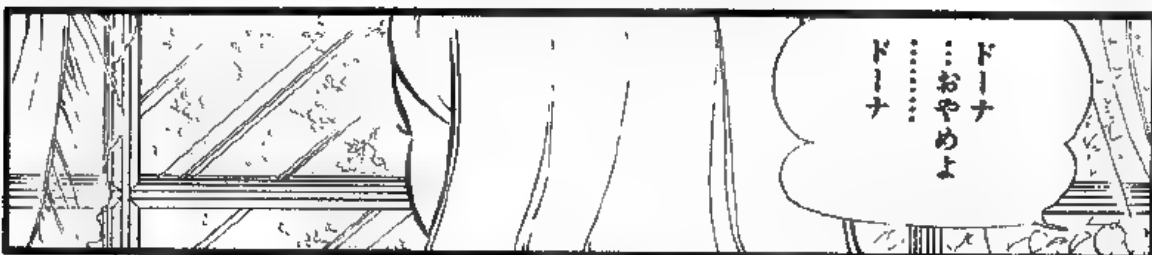
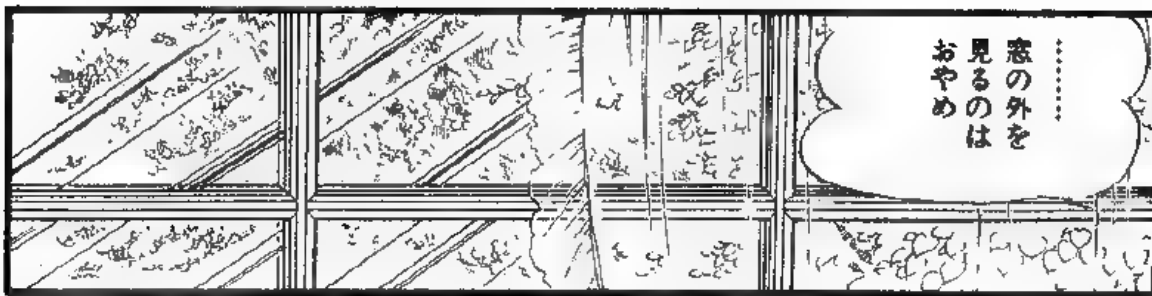
そして
万聖節の宵祭には
かあさんは
きつとやってきて
おまえが安らかに
ねむれるように
気をつけてあげるよ

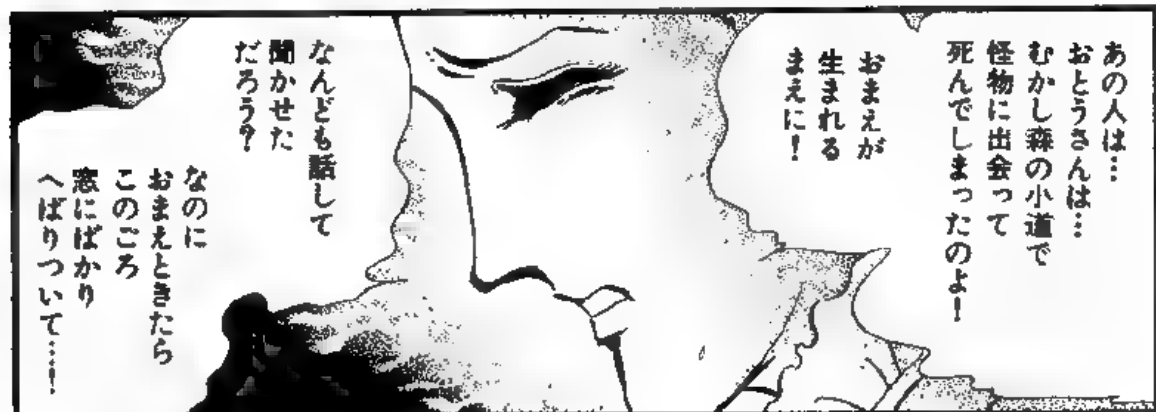
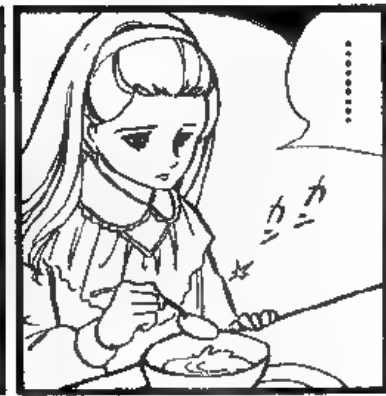


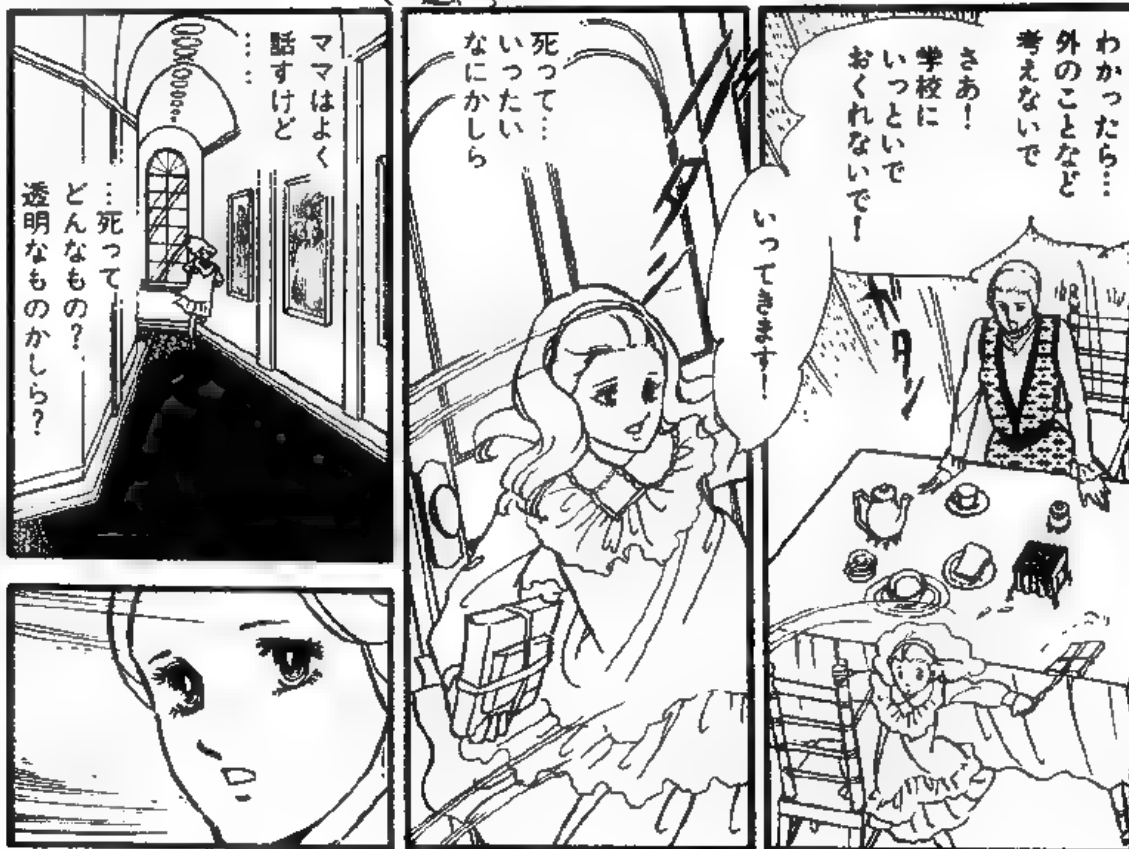
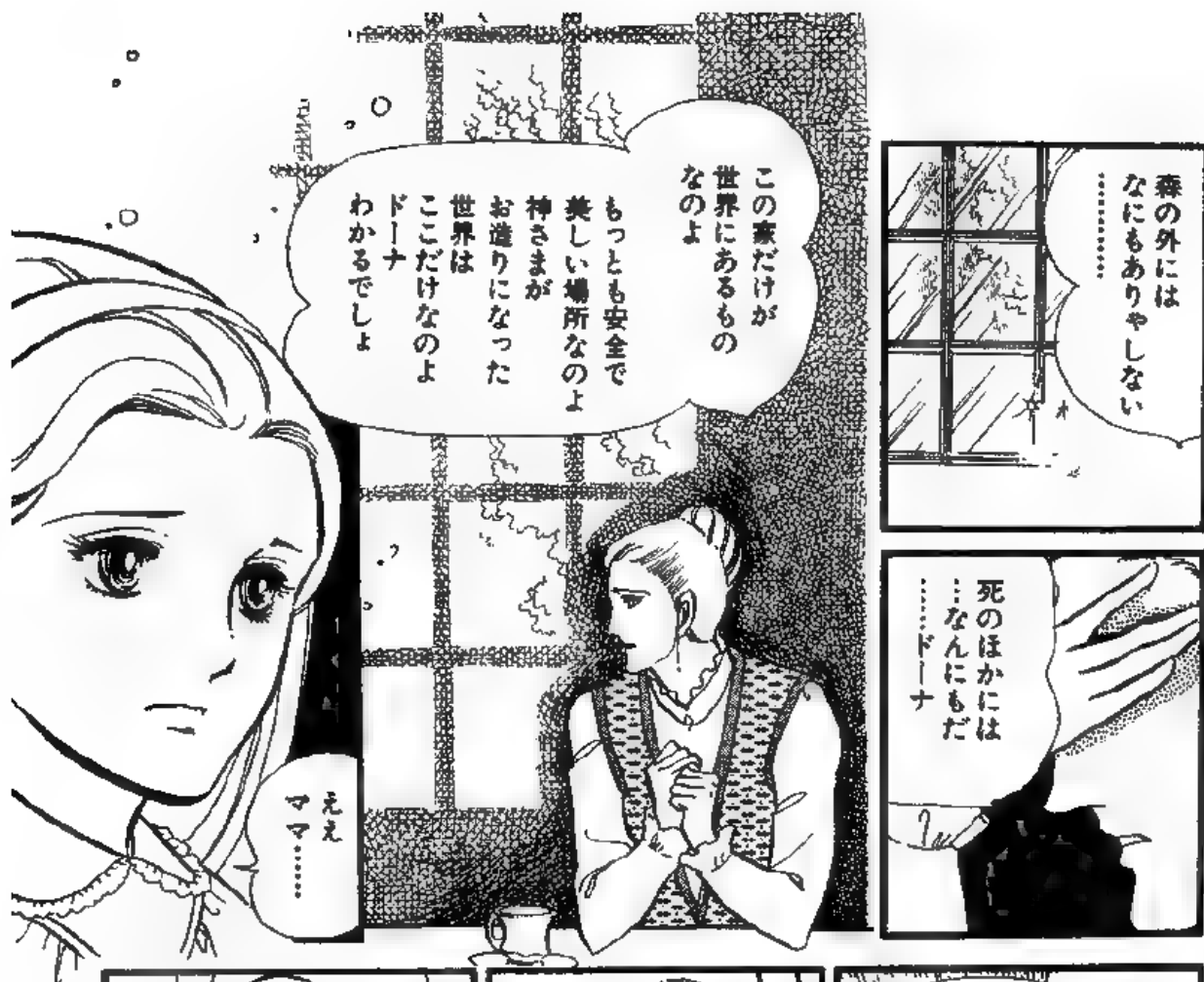
びっくり箱

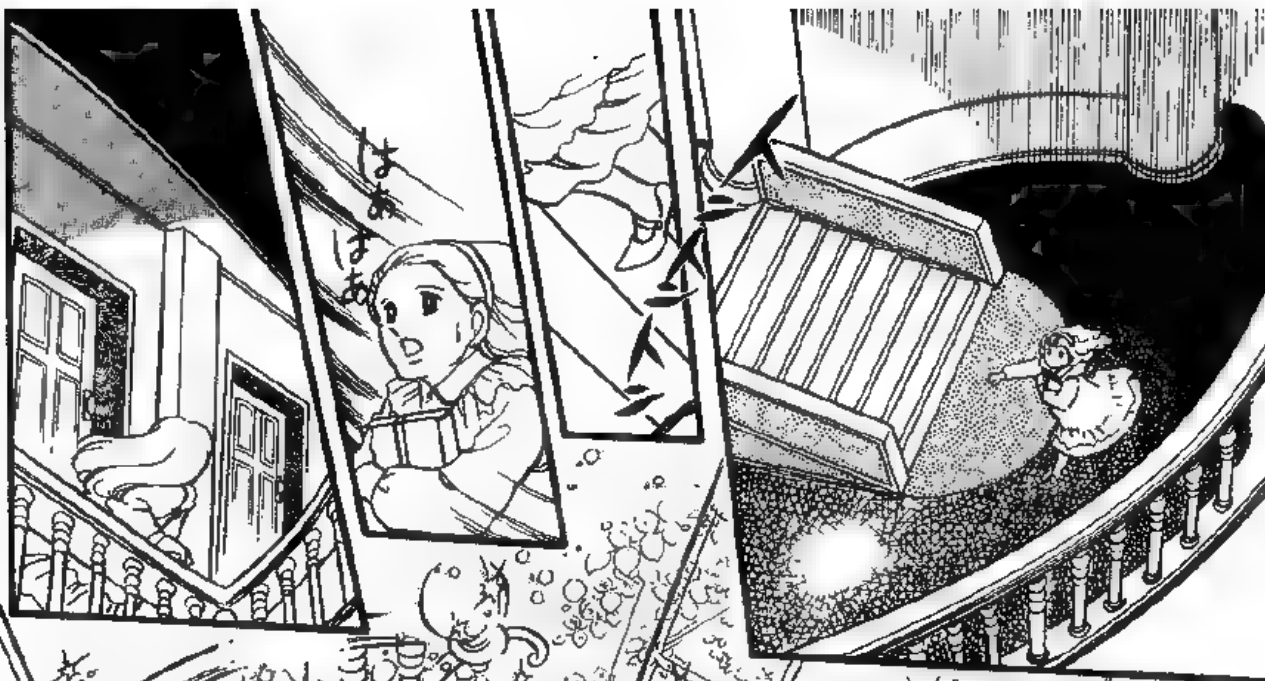










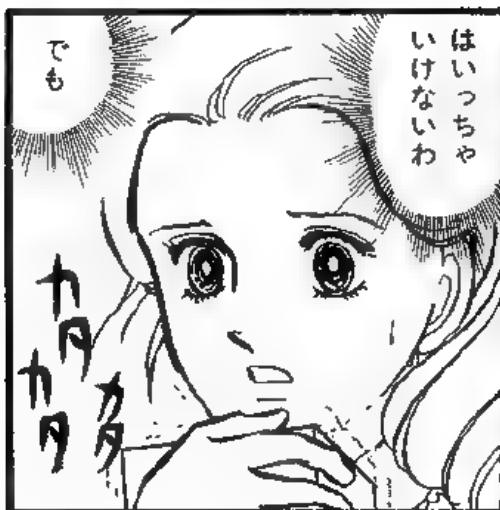
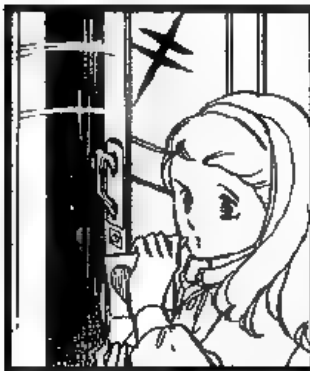
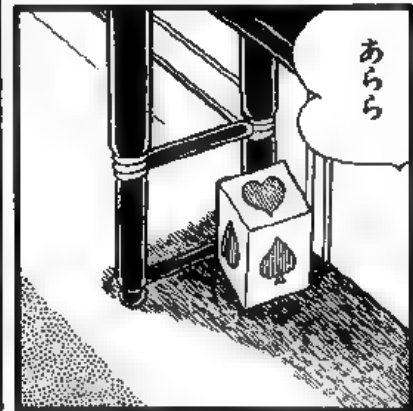
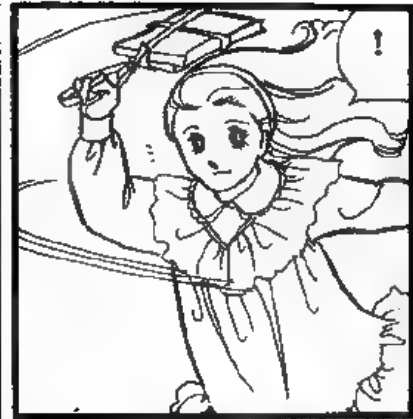


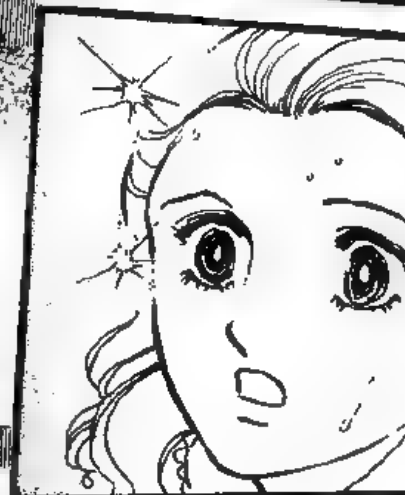
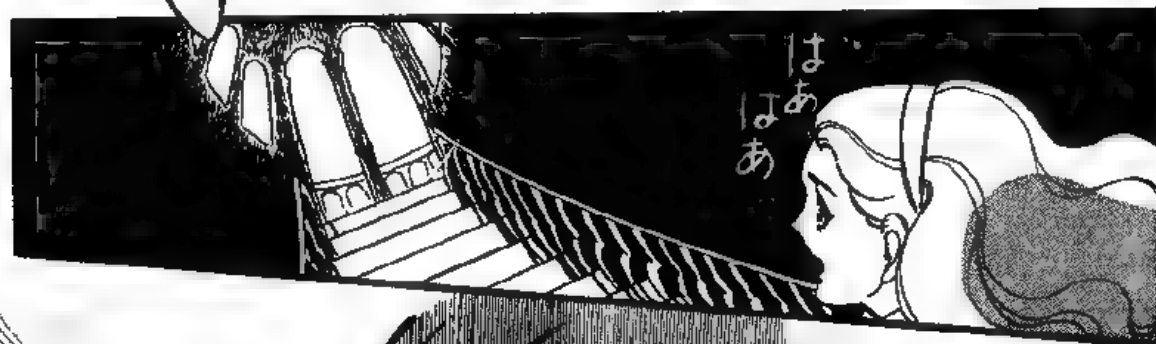
1階は台所と食堂と居間
2階3階は音楽室や遊戯室など
そして最上層の
4階は高地——学校があるところ

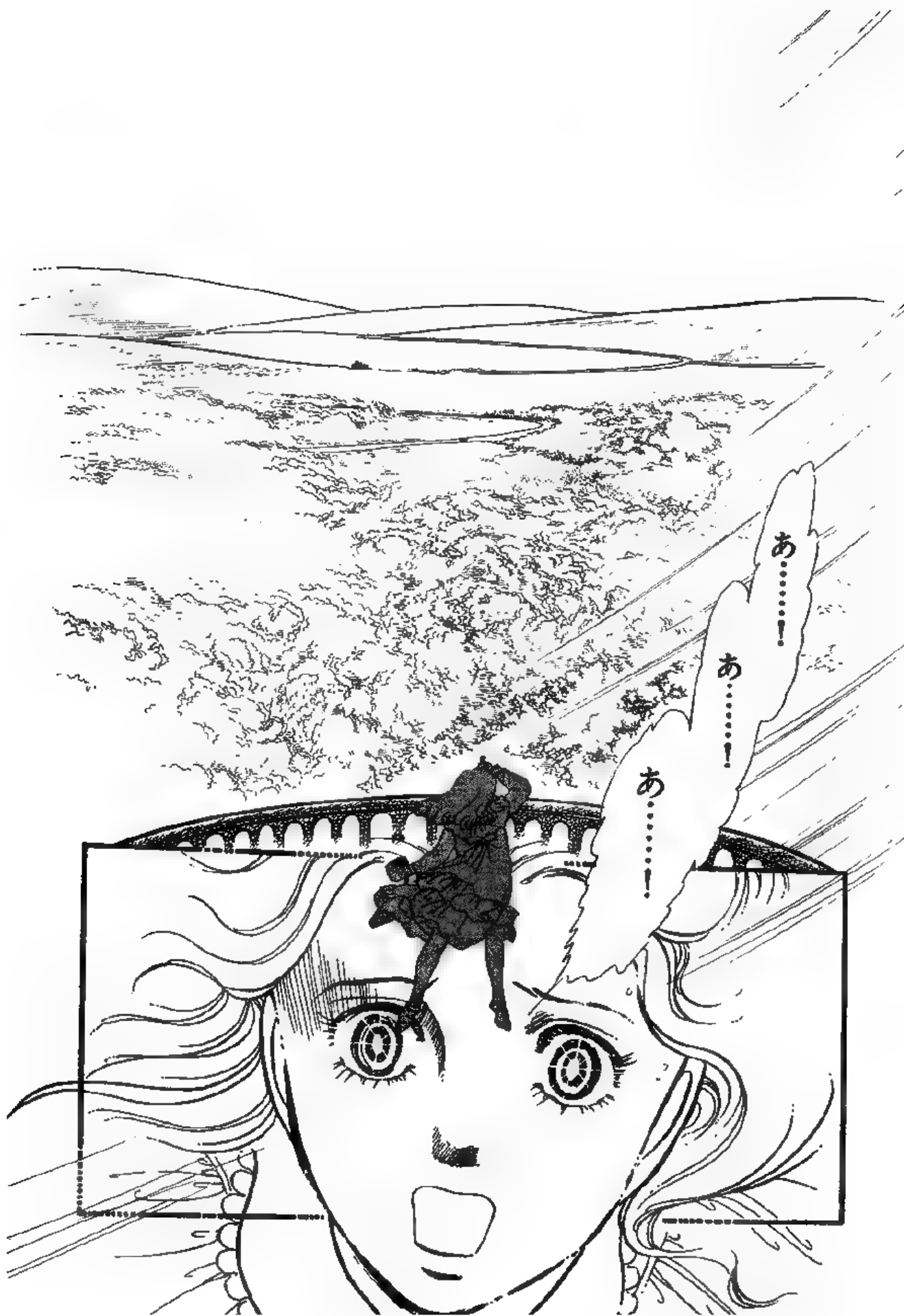
そのほかに
鍵のかかったたくさんの
禁断の部屋部屋——

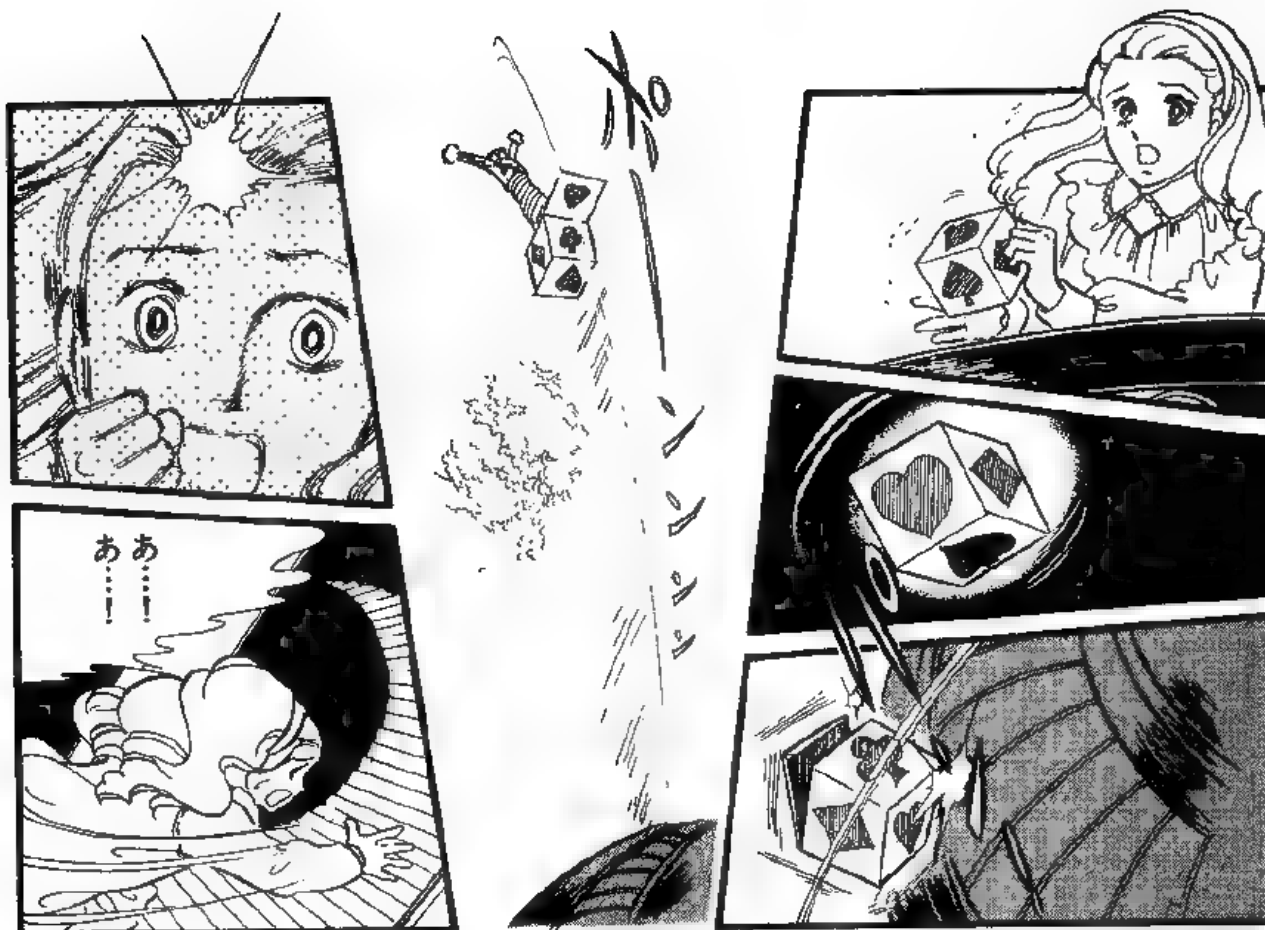
これがこの世界
すべての宇宙

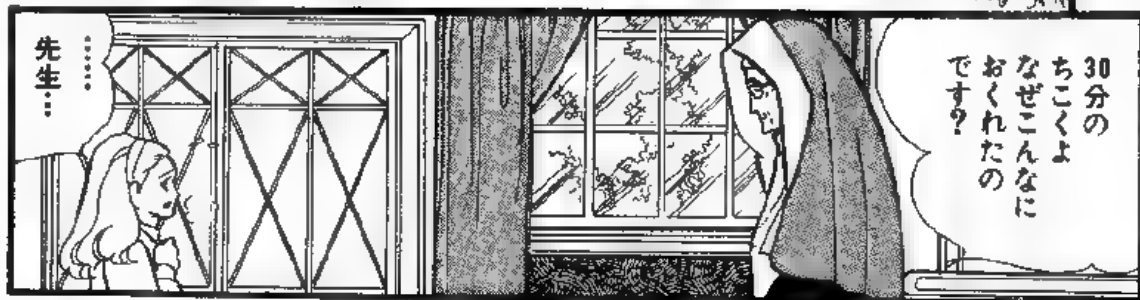












ごめんなさい！
はいっちやいけないのは
わかってました
わかってたけど
どうしても…

階段が上まで
つづいてて…
のぼったんです

…もうしません…
…ごめんなさい…先生…

のぼって…

なにか…見たでしょう

なにを
見たの？

大きな大きな
青い空間…
大きかった…

それから
森のむこうまで
緑色が
あつて…

白いリボンの
上を
小さな
カブトムシが
走ってました
それだけです

すぐおりて
きました
大きくて
こわかったんです

白いリボン…
小さなカブトムシ…
…そう…そう…

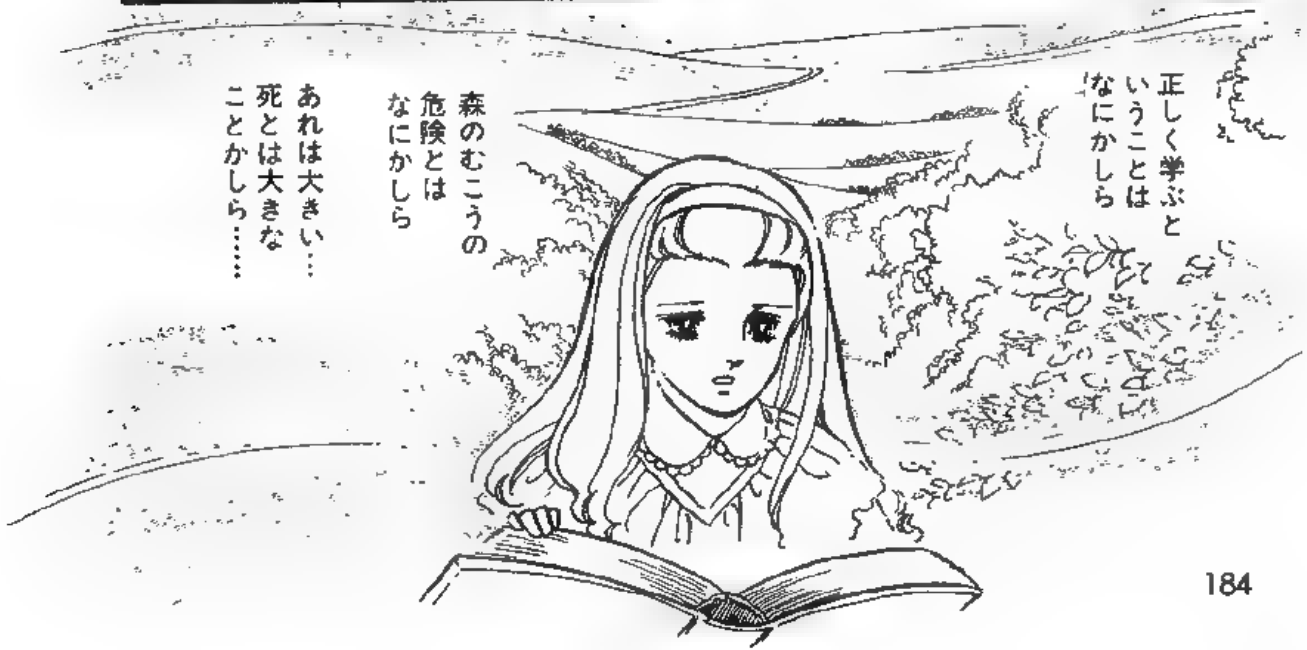
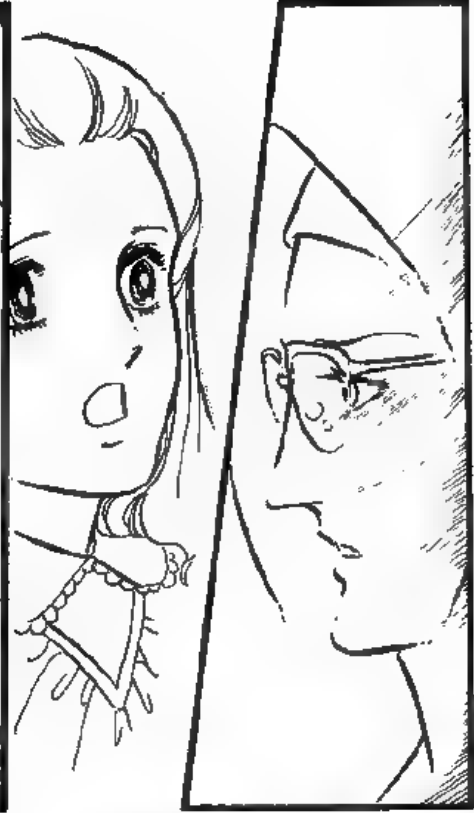
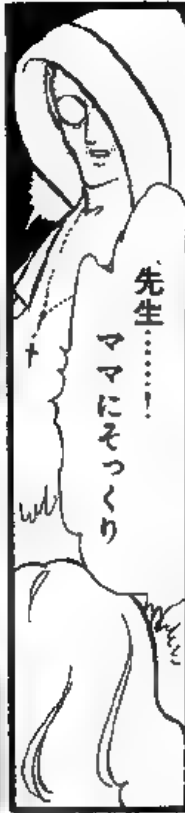
先生 ママには
いわないで

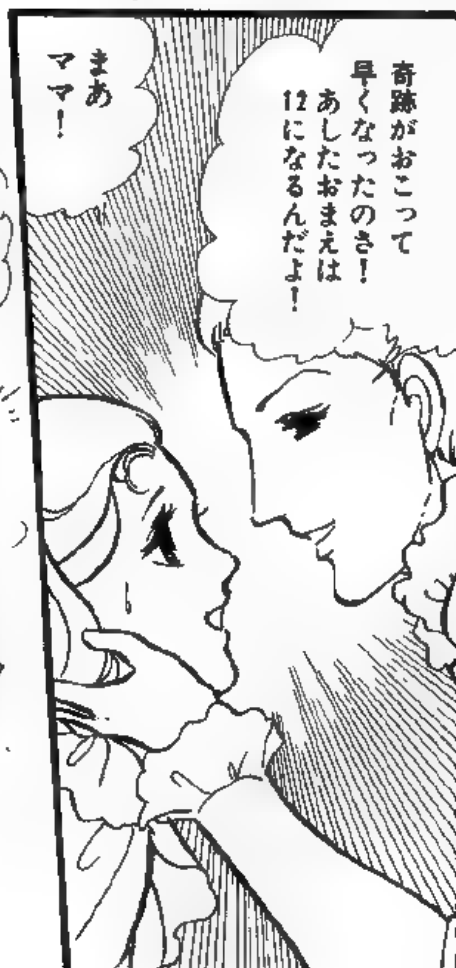
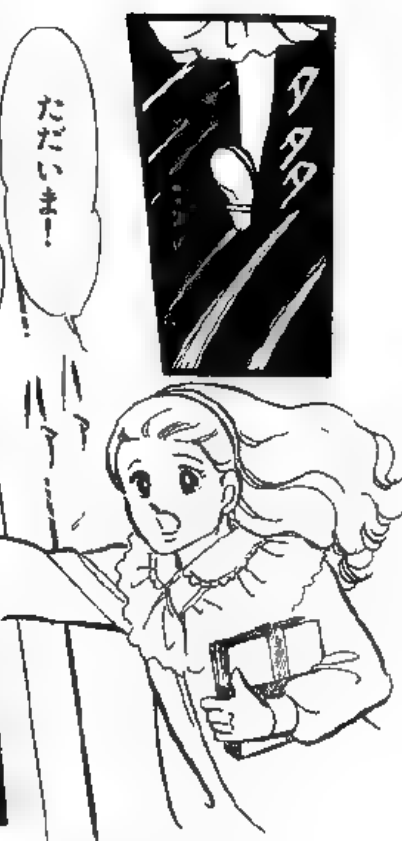
……

悪いことを
したと
わかるわね

ごめんなさい
もうしません









先生はおよびするのかしら？
ううん
先生とママは会ったことがない

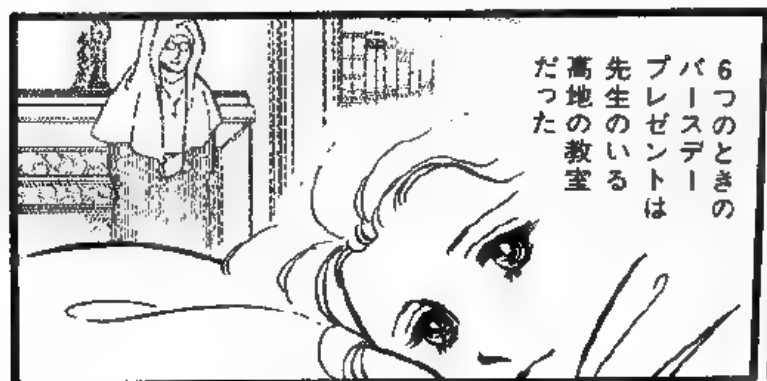


これからは
きっと：
わたしの
バースデー
だんだん早く
なってくる



そんなに急に
バースデーが
くるなんて…

なにか世界の
事情が
かわったの
かしら？



6つのときの
バースデー
プレゼントは
先生のいる
高地の教室
だった



7つのときは
低地の
遊戯室のドアを
あけてもらった

8つのときは
音楽室

9つのときには
台所…

10のときには
プレイヤーのある部屋

11のときには
四角い庭園



それでもまだまだ
この世界には
禁断のドアが
100もある

でもそのすべては
わたしが
20歳になったとき
わたしのものに
なるって
ママはいつた

禁断のドア：
あそこも……？

あのびっくり箱は
どこに落ちたかしら
ならない空間に
なげだされた……

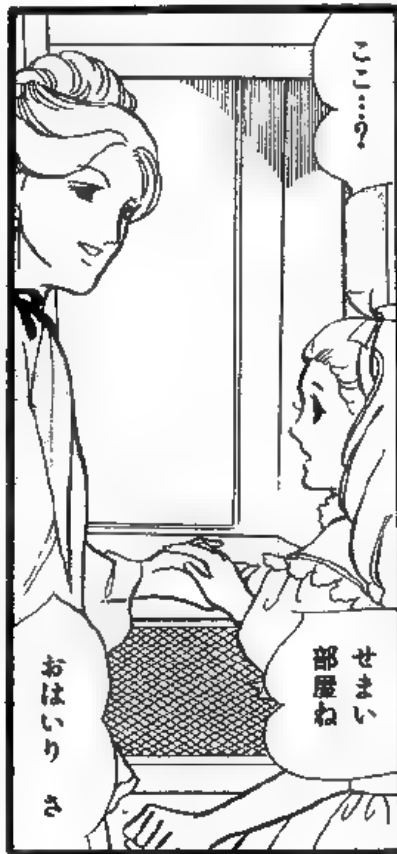
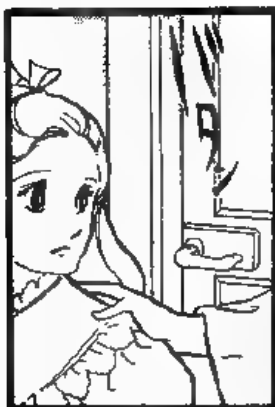
コトコト
コトコト
コトコト

わなにかかって
箱の中に
とこめられた
おもちゃの
さけび

あれはどこに
飛んでいったろう！

白いリボンを走る
カブトムシに
ふみつぶされた
かもしれない……







さわぐんじゃ
ないのよ!

ママ!



キヤアアア
ママ!
うごく!



ほら
ドーナ



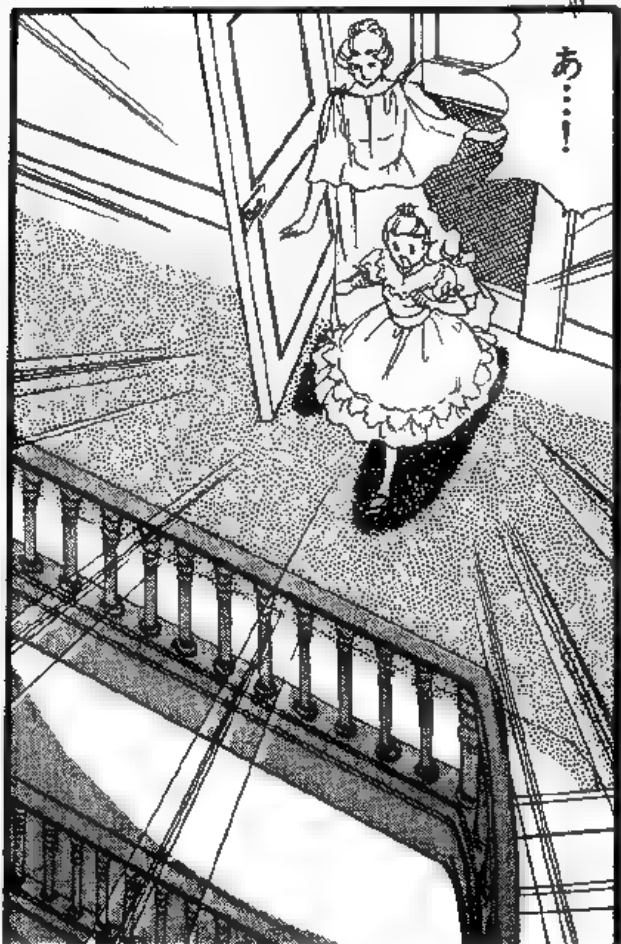
この部屋は
うごくのさ
真上に飛びあがる
のだよ

高地だわ!
どうして?
ママ!



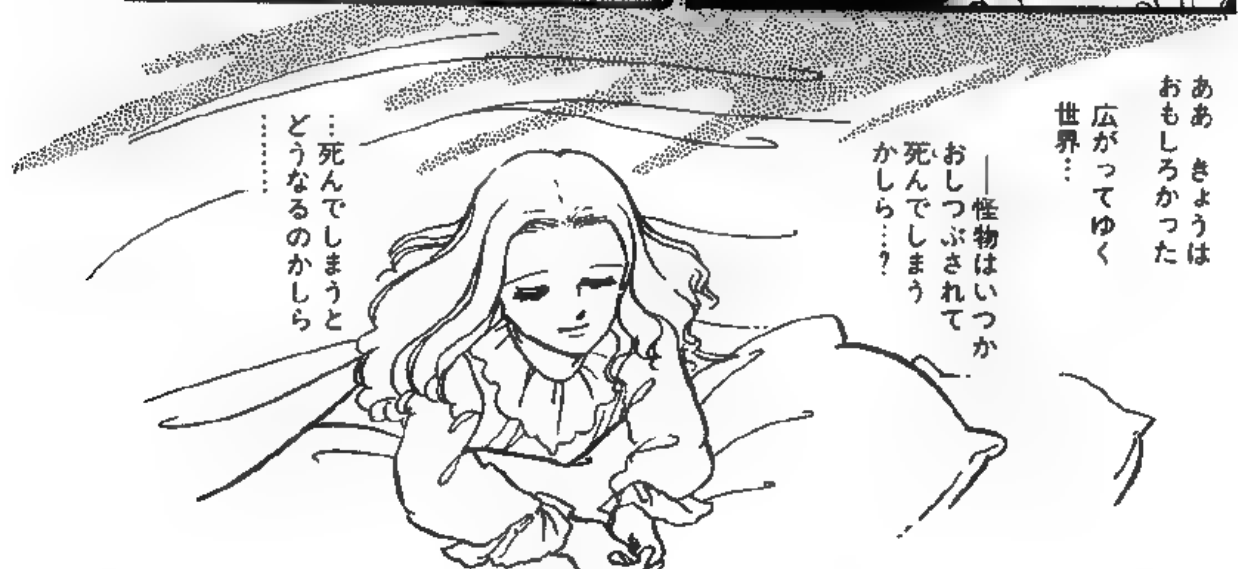
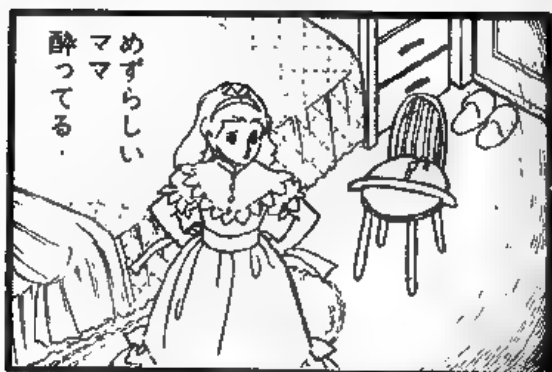
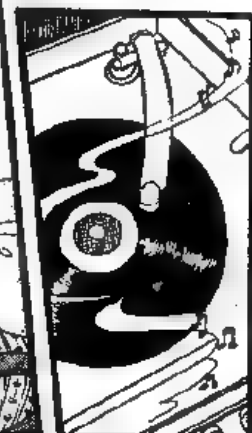
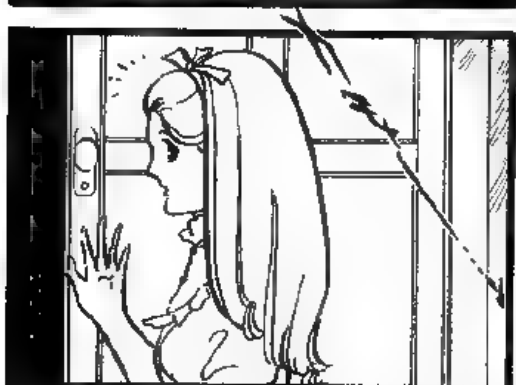
週にいちどは
これをつかって
学校に飛んで
いいんだよ

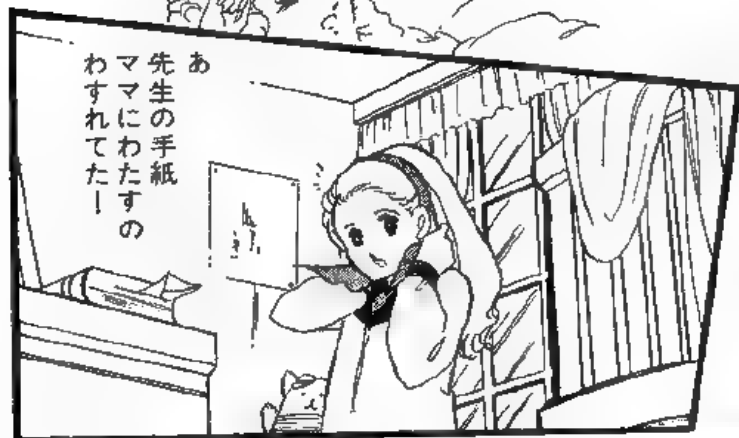
ママ!



あ...!







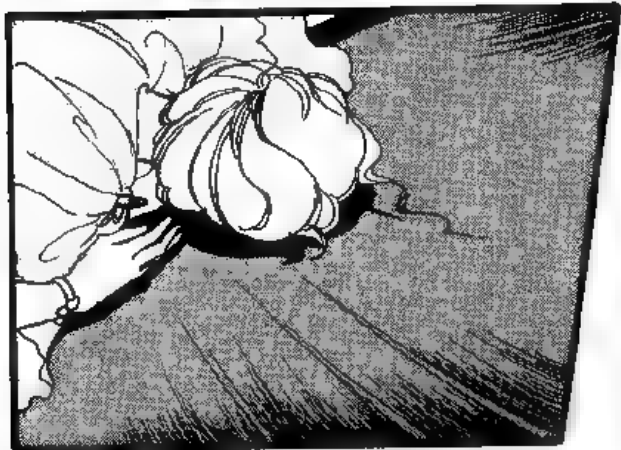
あ
先生の手紙
ママにわたすの
わすれてた！



——
ママ！



マ……



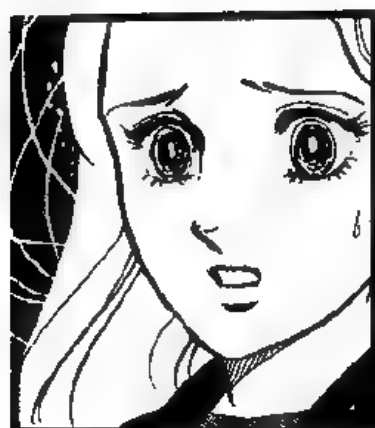
パパは死んだまま
もどってこないけど

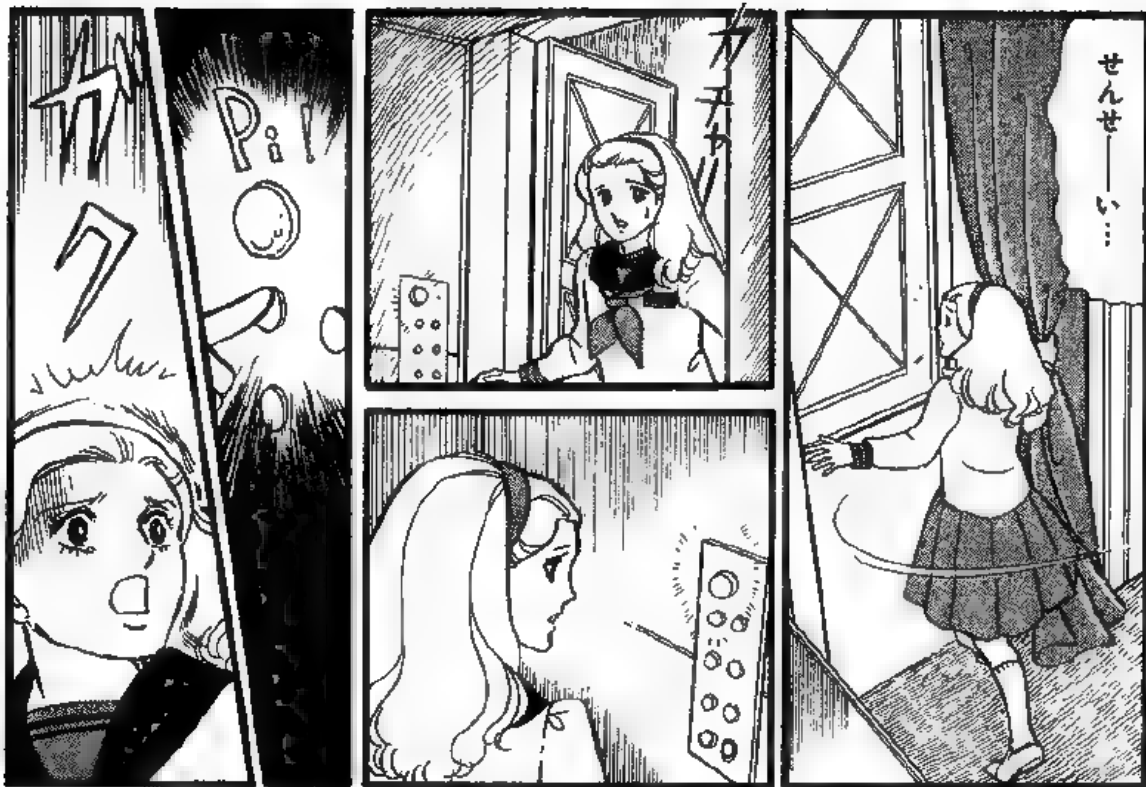
なぜかしら？
遠くへいきすぎたの
かしら？

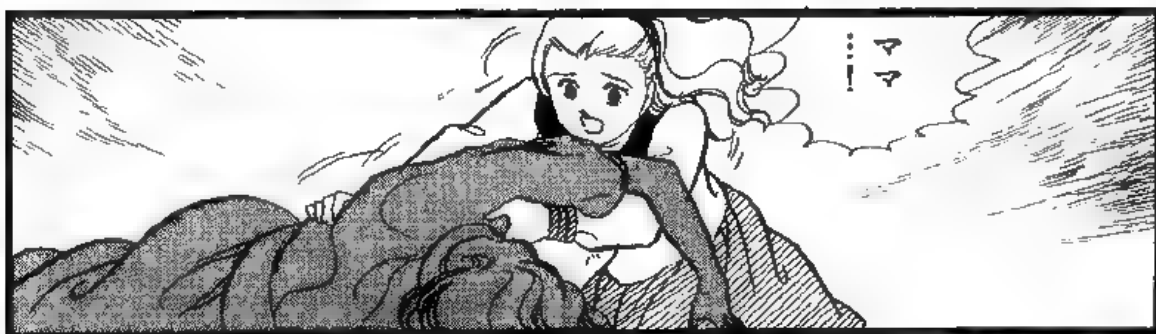
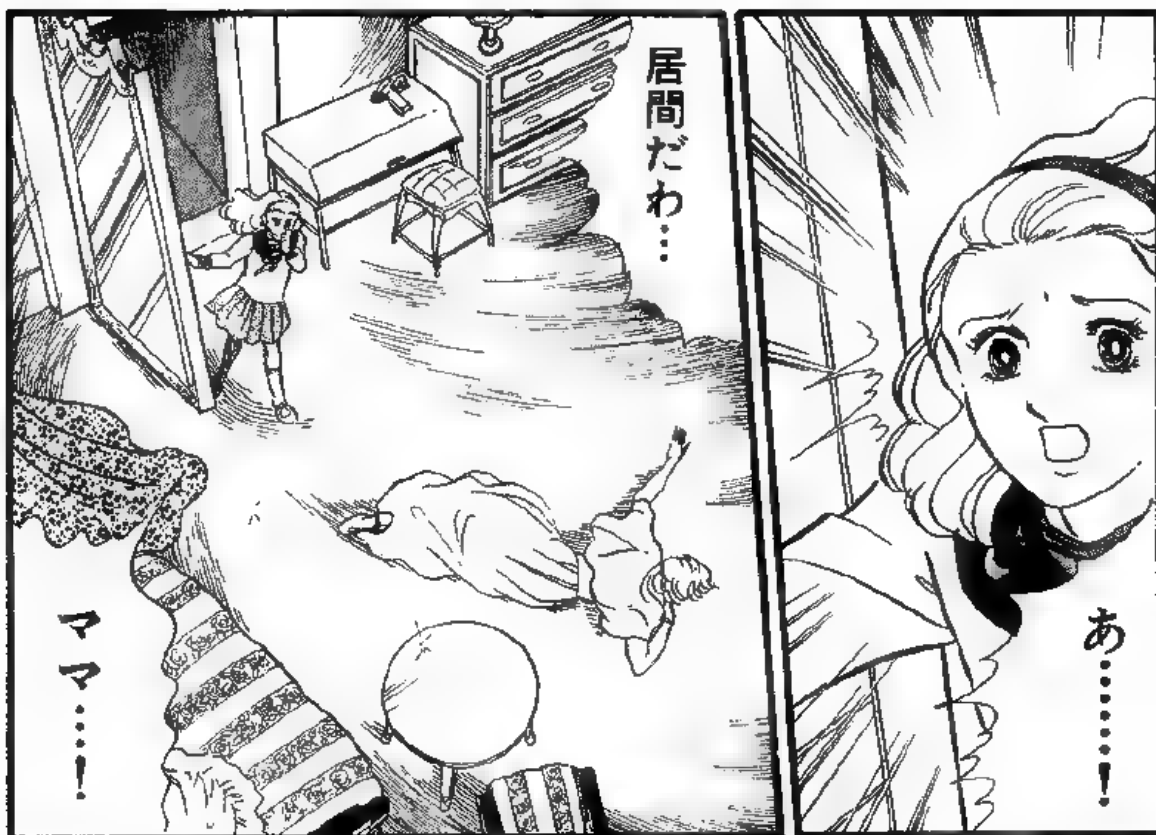
じゃあ……死んで
長い旅のような
ものかしら……



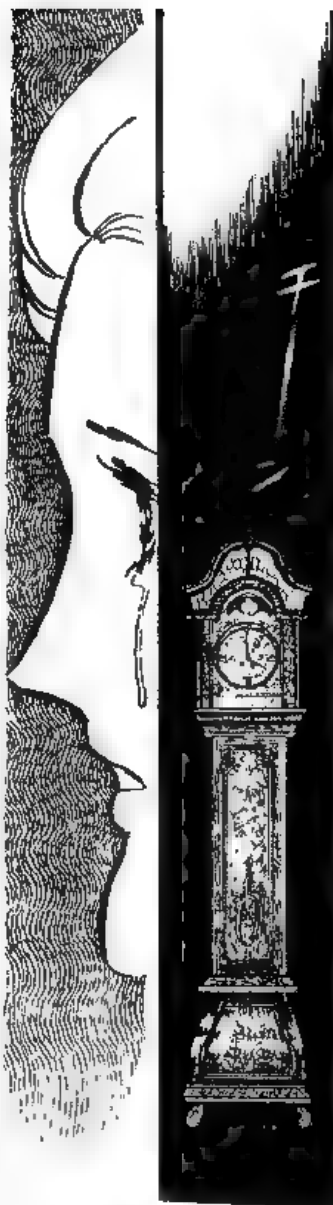
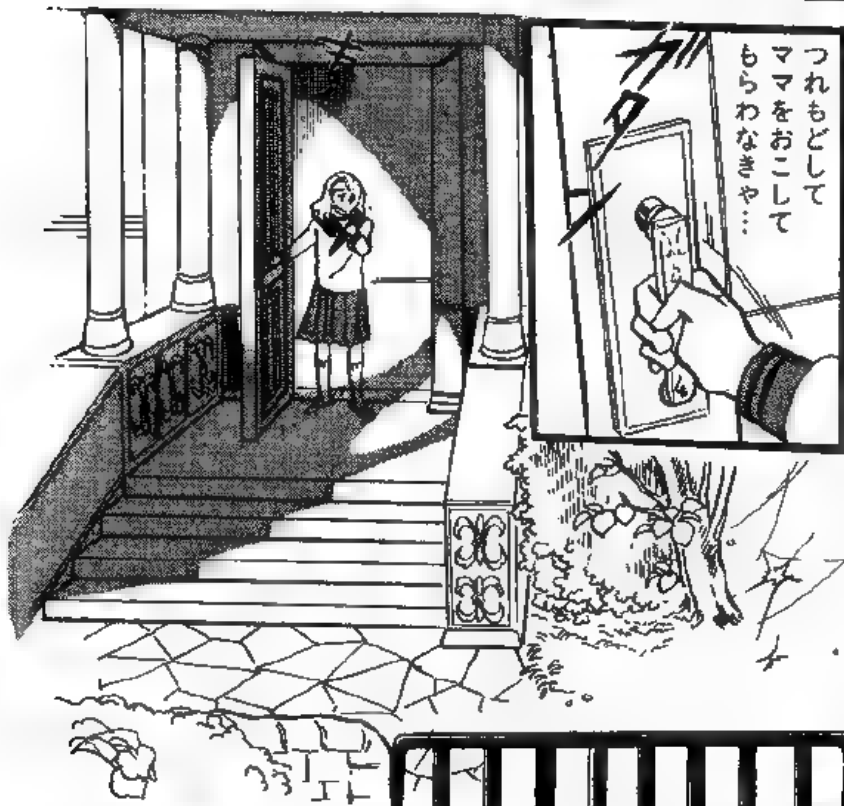
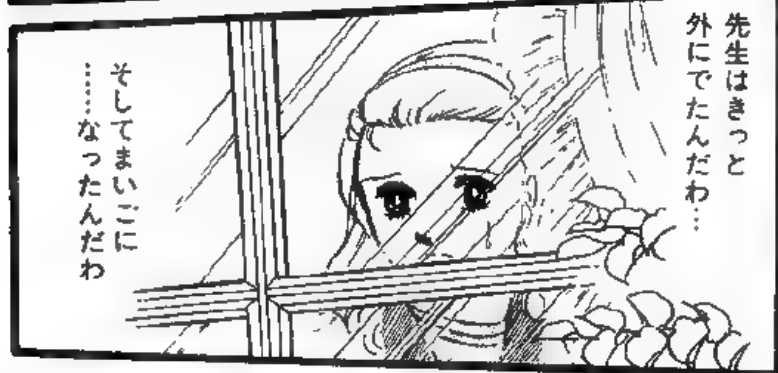
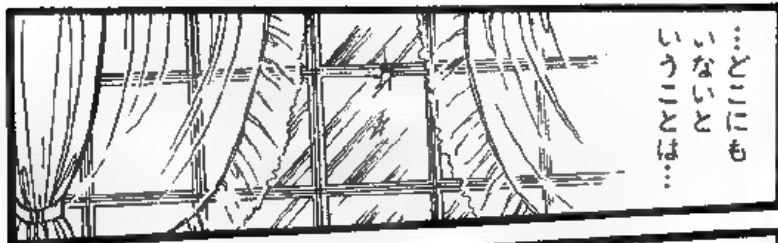


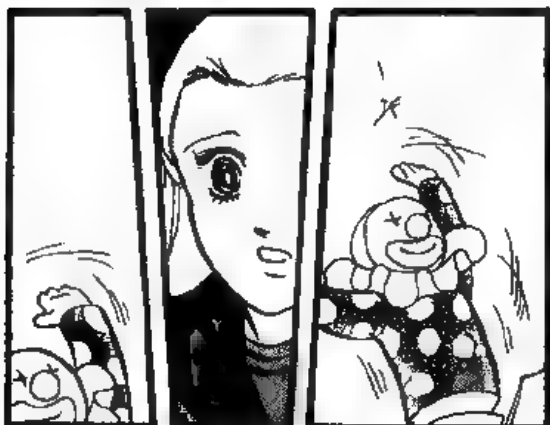
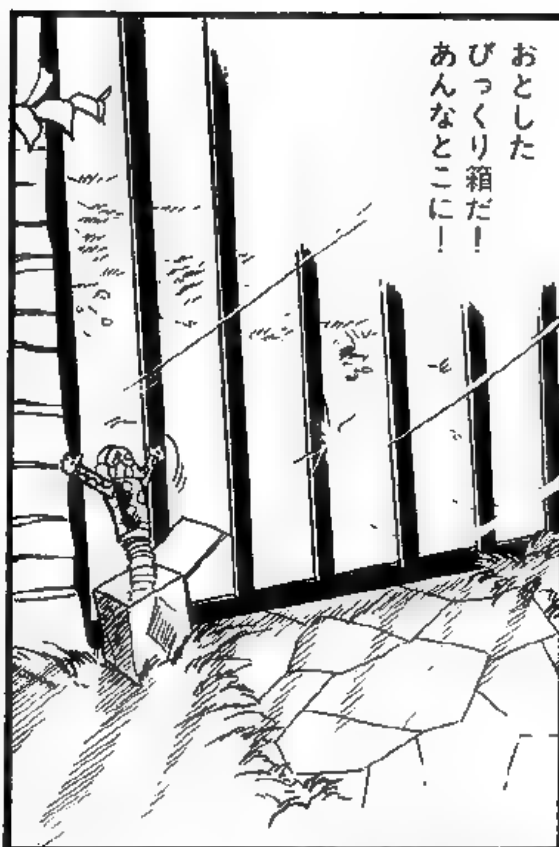
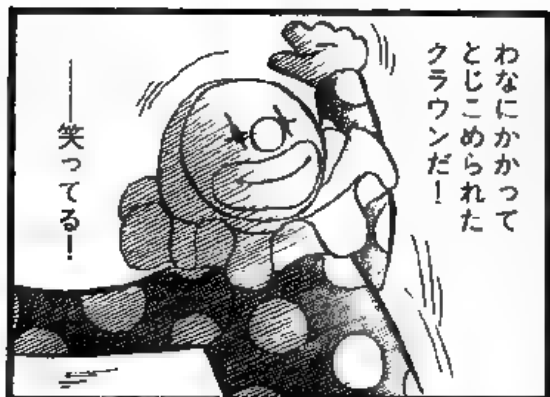


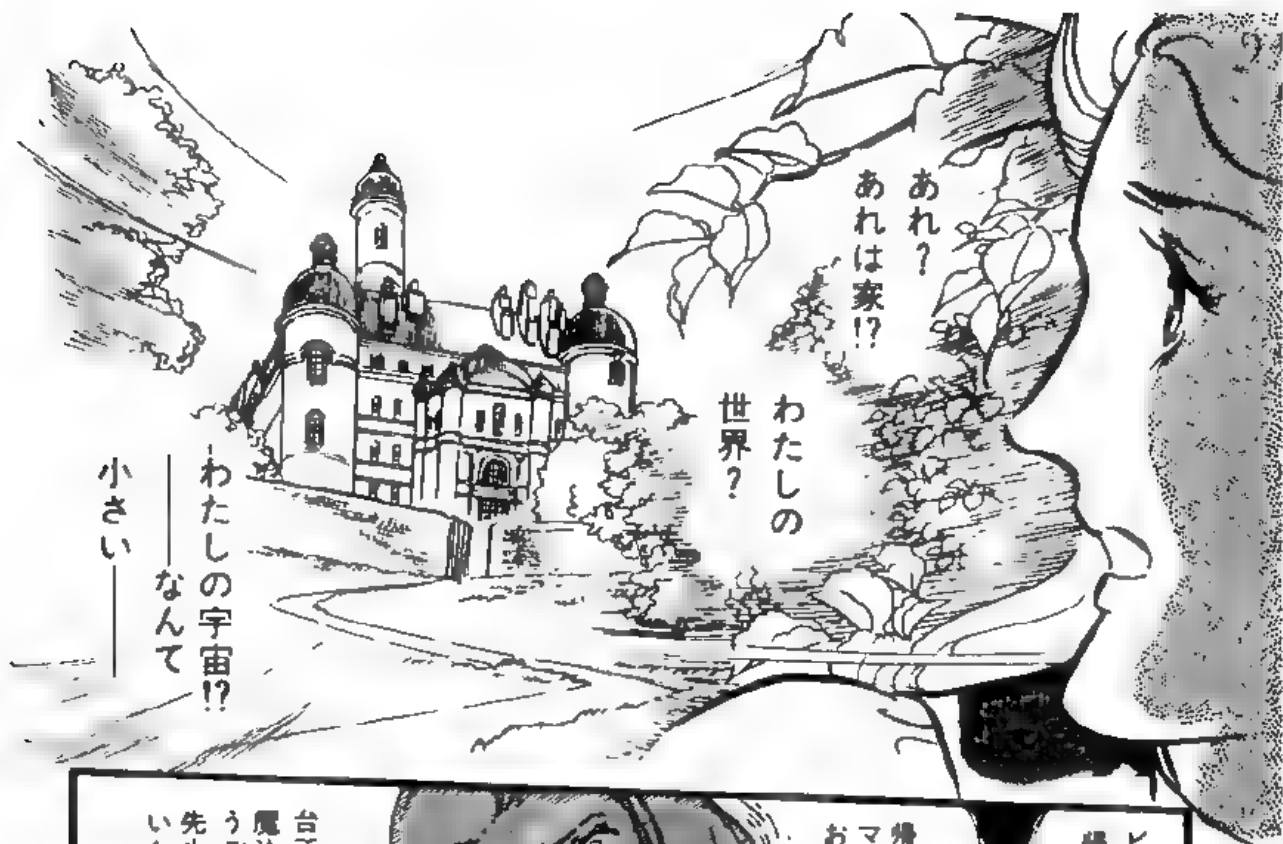












あれ？
あれは家！？

わたしの
世界？

わたしの宇宙！？
——なんて
小さい——



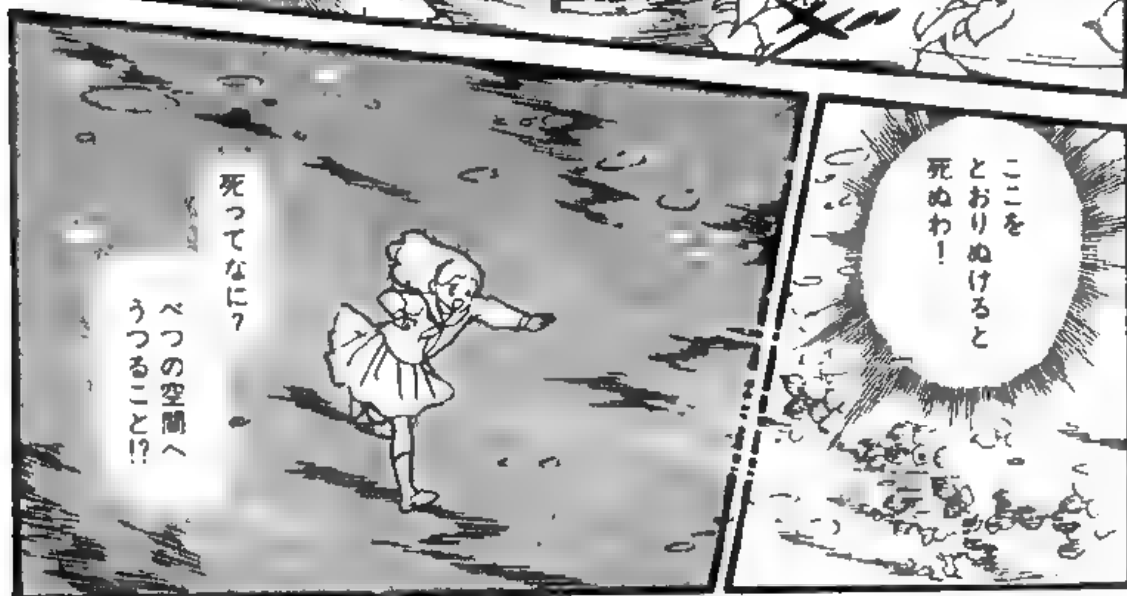
どうするの？
帰るの？

帰っても
ママは
おきないわ

台所の
魔法も
うごかない
先生も
いない



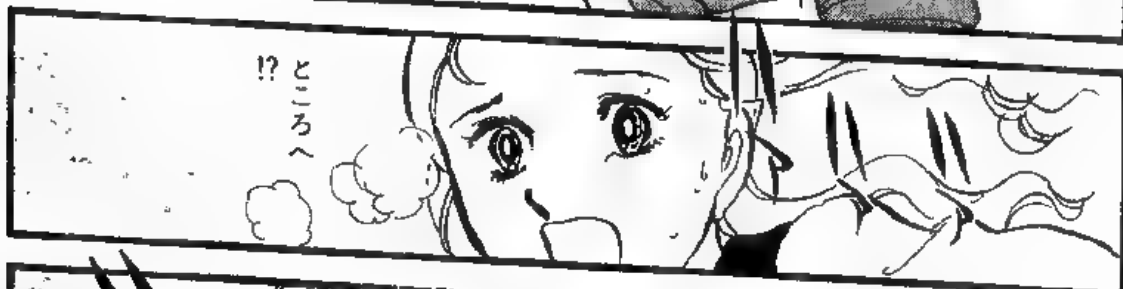
死だ

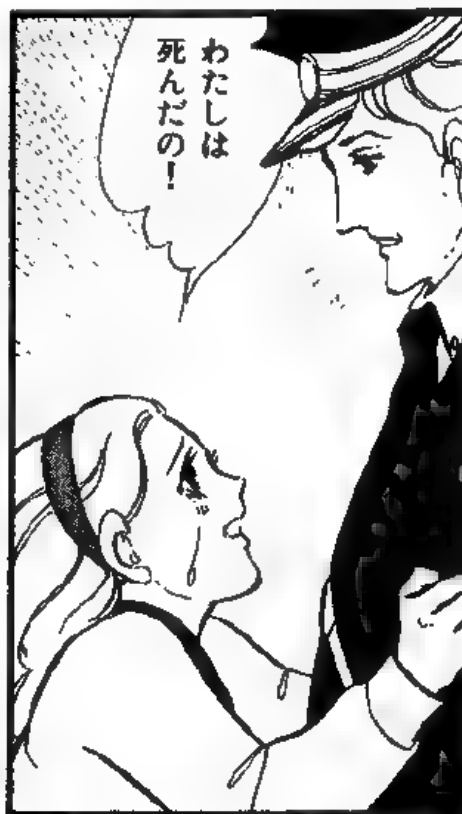


ここを
とおりぬけると
死ぬわ！

死つてなに？

べつの空間へ
うつること！？







宇宙船乗組員







……うん
おかあさん



もうにとと
出発しないよう
に！

——こんどこそ
おとうさんが
帰ってきたら



ねえ ダグ
なんとか
力をかしてね…



…でも
うまく
いくかな
……
むずか
しいよ

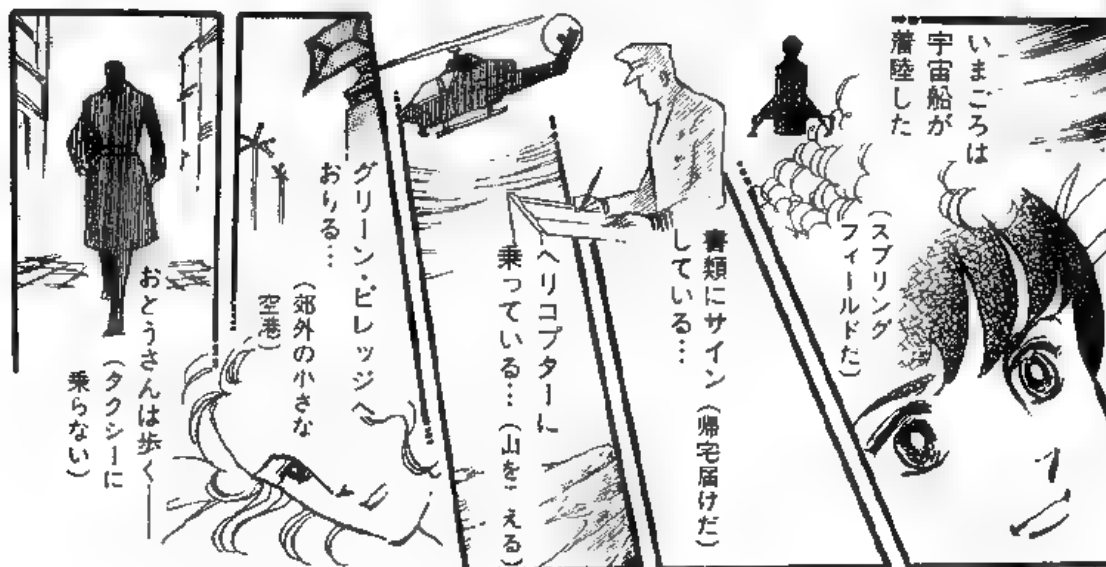
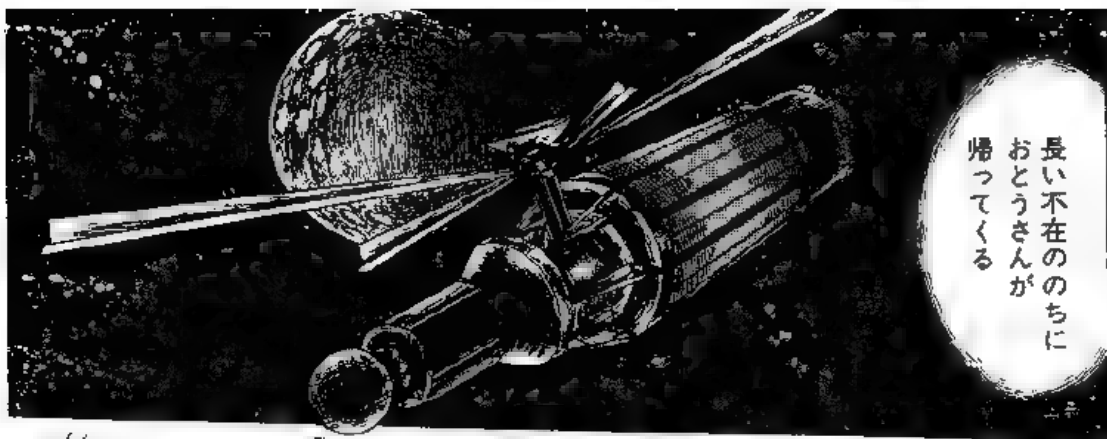


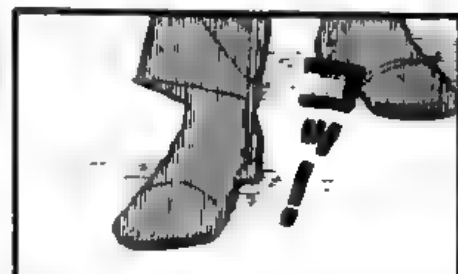
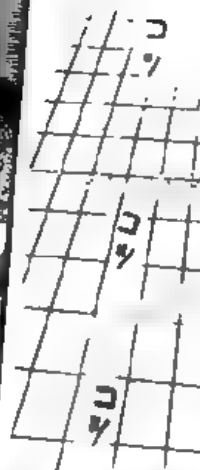
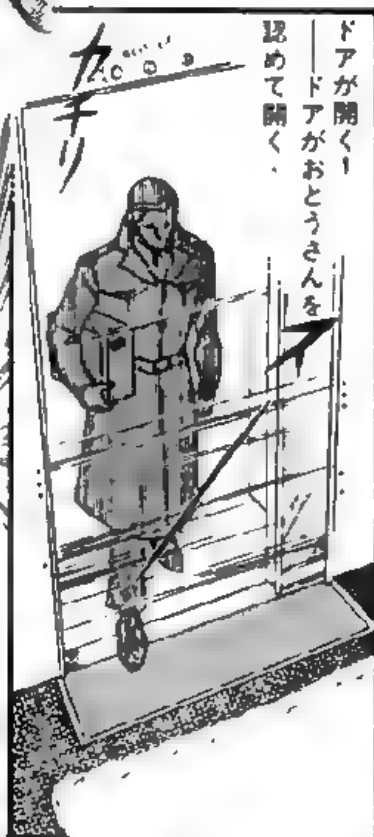
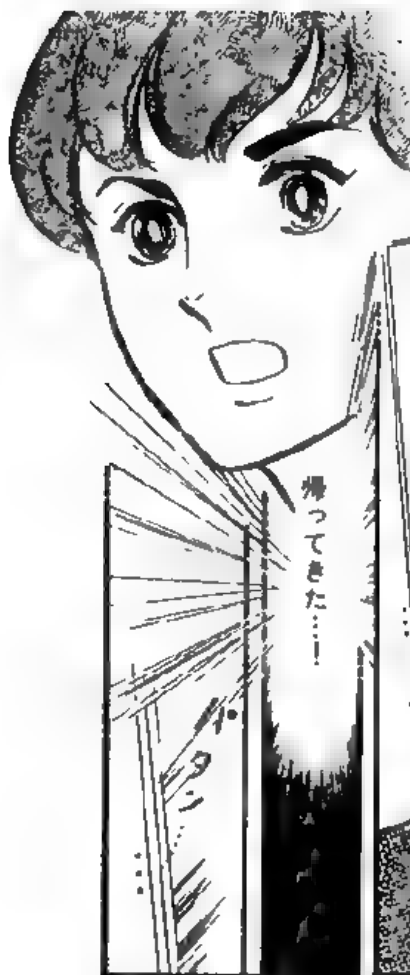
おかあさんも
ねむれない



ぼくは今夜は
ねむれない













芝刈り
家具の修理
みんな
とっておくのだ
おとうさんが
帰って
きたときの
ために

その日は
おとうさんは
空なんか
見ない
おかあさんは
少女のよう



でも2日目には
おとうさんは
星を見あげる
3日目には
おかあさんは
泣く
4日目の朝
おとうさんは
出発し…
おかあさんは
わきてこない
わきてきても
なにも食べない
これらの
くりかえしだ…



ぼくは制服の
ほこりを取った
けど
おかあさんは
なにかおみやげを
もらったの…かな…?



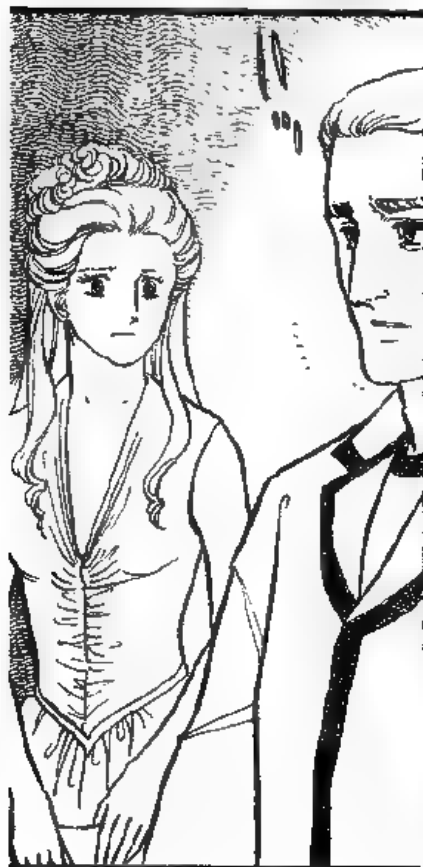
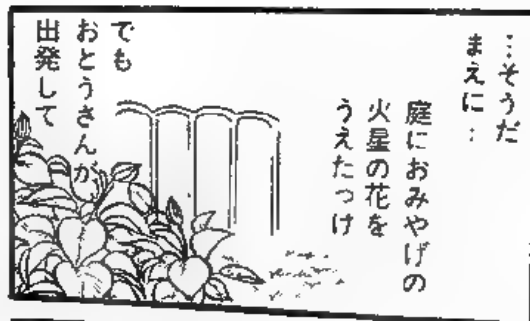
おとうさんと
いっしょだ

おとうさんと
いっしょに
笑ったり
うなづいたり

おかあさんも



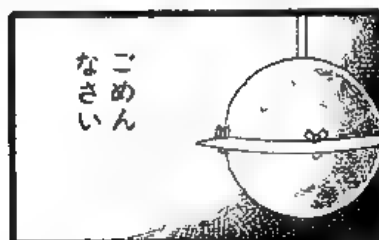
でもきようはまだ
1日目だ
ねえ！
町へでてテレビの
移動展示会見ようよ！
ようし…！



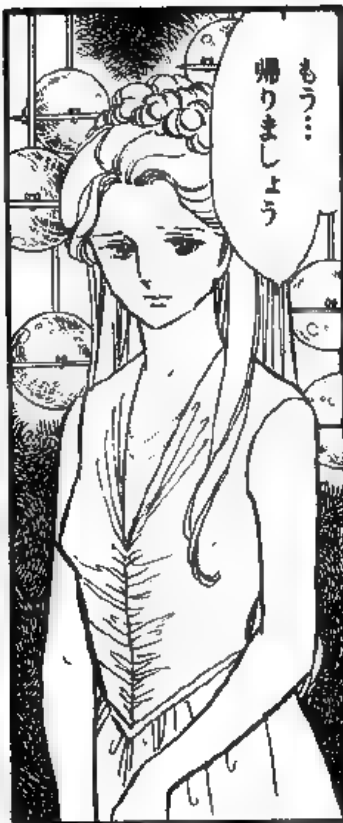


：おかあさんに
せつないおもいを
させた

ごめんなさい



ごめん
なさい



もう……
帰りましたよう



いや！たいして……
つまらんよ！
きまりきった
もんだしね
ダゲ



でもおとうさんは
いつもまた
いつてしまうね
習慣さ

習慣さ



うん！

じゃ……あ
これきりだよ



ダゲ……
そいつは

ねえ

ねえ

ねえお願い



——制服を着て
みせて

いちども
制服姿
見たこと
ないんだ
もの

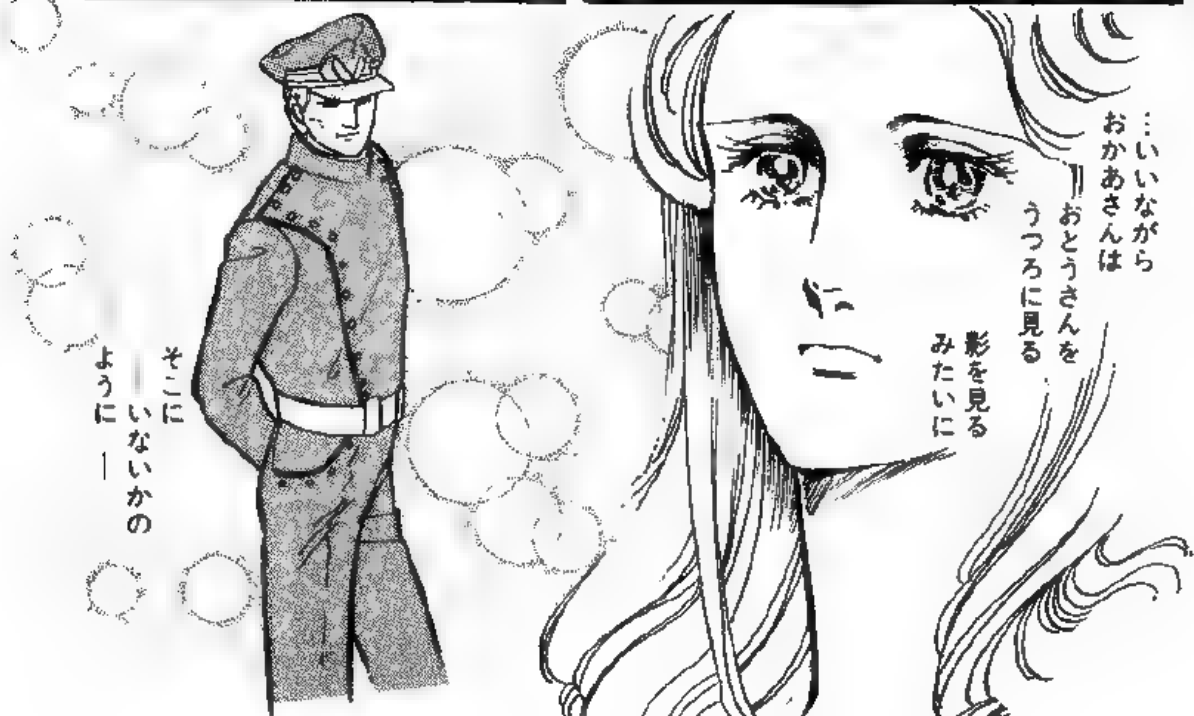
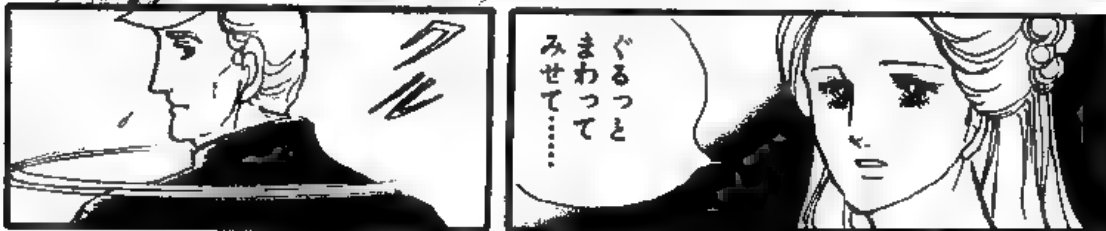


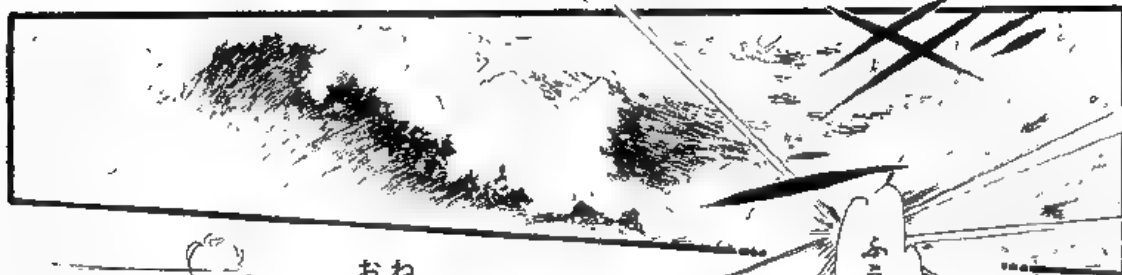
ねえ

おとうさん
お願いが
あるんだけど

でもその夜
またやって
しまった

なんだいダゲ





ねえ
おかあさんも

いい日だ

翌日
翌々日
ぼくらは
海に出かける
おとうさんと



…うん
いいな…

ああ
太陽
土
潮風



おとうさんは
遠い宇宙から
おかあさんに
電話など
かけない

帰りたくなり
つらくなる
からだとい

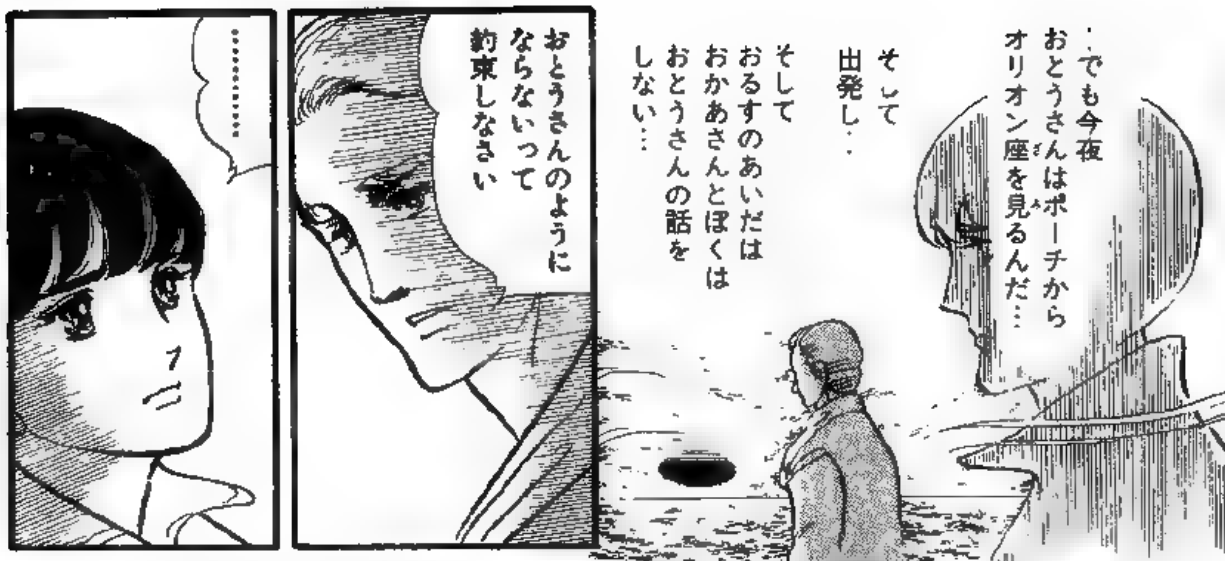


船に乗ってると
なつかしくなるで
しょう
おとうさん
草や大地やぼくや
おかあさんの手料理

おまえ長く
泳げるように
なつたなダグ

そうだよ！ それに
高とびだつてクラスーだよ！





でも今夜
おとうさんはポーチから
オリオン座を見るんだ……

そして
出発し……

そして
おるすのあいだは
おかあさんとほくは
おとうさんの話を
しない……

おとうさんのように
ならないって
約束しなさい



わかった
……

おとうさんが
いなくなると
星のあかりが
強すぎて

——おかあさんは
ねむれない



これは
どうした
ごちそうだい！

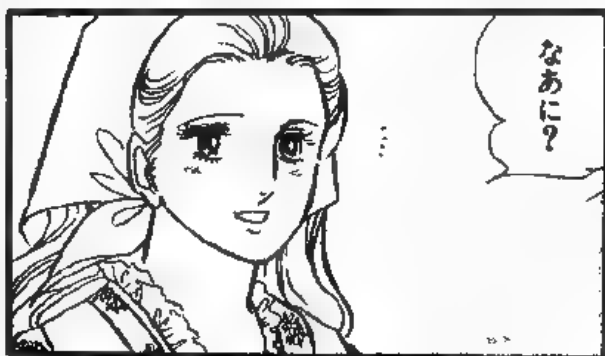
きょうはうちの
クリスマスよ
そのころ家には
いらっしやら
ないんでしょ

ヨー！
七面鳥
じゃないか！

ソール・ムニエル
フリカッセ

シャンピニオンの
白ワイン煮

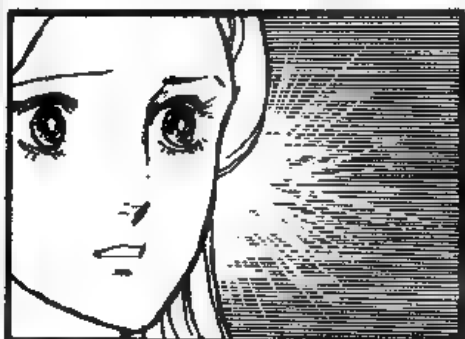
ホワイト
シチュー！



さあ—
いまいうぞ!
にとと宇宙に
でかけないって
家にずっと
いるよって—

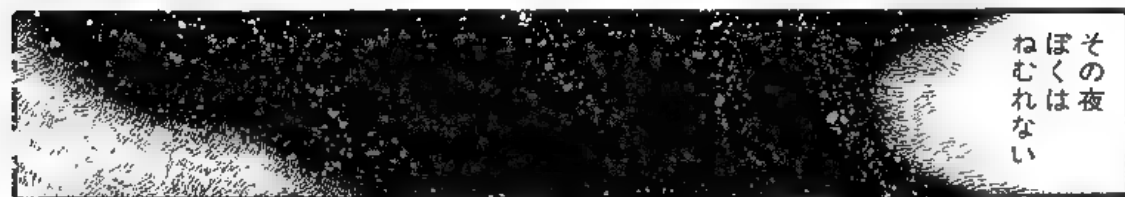


もうこれで
おとうさんは
おりから
でられない!





おかあ……さん



宇宙では
人が死ぬのに
どれぐらい
ちがう死に方が
あるの……？

さあ……
数えきれない
ほどだよ

隕石がぶつかる
空気が船から
もれる

彗星に道づれに
される

震盪症
狭窄症
破裂症

遠心力
加速度の
過不足

太陽
月
アステロイズ
プラネトイズ
放射能……

埋葬するの？

死体は
見つからない
ことが多い

10億マイルも
遠くへ飛んでいつて
しまう

通称
動く墓場だ

永遠に
宇宙を
さまよう
んだ

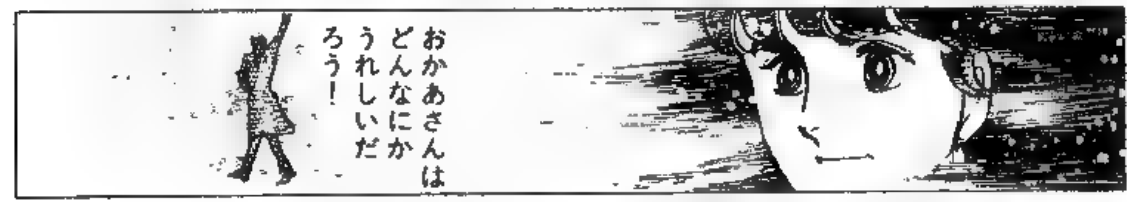
宇宙では
……

即座だ

ぐずぐずしない
あつというまに

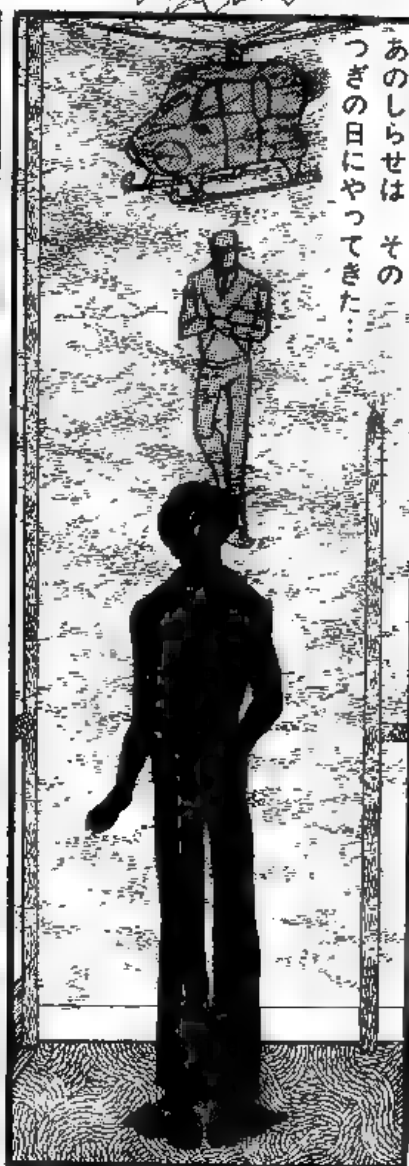
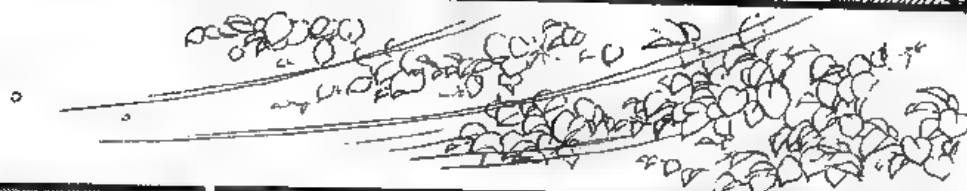
死んでいる

即死だ
それっきり
だ……









おかあさんは
泣かなかった：

おとうさんの命を
うばったのは

それは

火星でも
金星でも

土星でも
なかった

星を見て だから
おとうさんのことを
思い出す必要はない

おとうさんの宇宙船は
太陽の中に落ちたのだ

長いあいだ
おかあさんは
昼間ずっと
ねていて
外に
でなかった

ぼくらは
真夜中におきて
朝食を食べ

午前3時に
昼食を食べ

午前
6時に
とった

ふたりで
オイルナイトを
見にでかけ

あけ方
カーテンを
びったりと引いて
ねた

長いあいだ
ぼくらが
外へ散歩に
でかけるのは

ただ 雨降りの
太陽のでていない日だけだった





解説『ウは宇宙船のウ』

評論家

中島 梓

レイ・ブラッドベリは私が最初に好きになったSF作家であり、いまでもいちばん好きな作家のひとりである。

『十月はたそがれの国』にはまったくいかれてしまった。『火星年代記』はいうまでもない。ブラッドベリの書いた、すばらしい、美しい、ふしぎな寂しさと静けさを湛えたたくさんの短編の中でも、ことに好きでたまらなかつたものをあげると、『みずうみ』、『万華鏡』、『ロケット・マン』、『サルサの匂い』、『大鎌』、『世にも稀なる趣向の奇蹟』、『草原』、『ロケット』、『壘』、『小さな殺人者』、『風』、『ある老母の話』、『かくてリアプチンスカは死せり』——きりがなく、『霧笛』も好きだし、『集会』や『四月の魔女』の系列のものも好きだった。

ことに夢中になったのは、しかし、『みずうみ』と『ロケット・マン』（私の読んだハヤカワの本では吉田誠一さんがそう訳していた。いまでも、萩尾望都さんが『宇宙船乗組員』にふられた、『スペースマン』という、よりモダンなことばでなく、『ロケット・マン』という、古風でゆたかなイメージのほうが、私にはぴったり来る感じがある）だった。恥をしのん



で白状してしまうと私は中学・高校時代にはせつせとマンガをかいでは投稿していたが、怖いもの知らずにも、すっかりいかれていた『みずうみ』と『ロケット・マン』の二つを、何とかマンガ化しようところみたことさえもあるのである。この恐ろしいくわだては、私の救い難い絵音痴のための中絶したが、しかしそれが挫折してまことによかった。もし、うかうかと、何とかマンガ家の端くれにでもなっていたとしたら、私は結局、何とかしてブラッドベリのその美しい寂しい世界をマンガにしよう、という野心を捨てられずに持ちつづけ、その結果として、萩尾さんのこの「ブラッドベリ傑作劇場」を読んで愕然とし打ちのめされ再起不能、という有様になるのは確実だったからである。

しかも萩尾さんの選択には、私があれば「これはどうしてもマンガにしなければ」と思いつづけていた『みずうみ』も『ロケット・マン』も、『霧笛』まで、すべて入っているのだ。有難いことに私はマンガ家になりそこねた。そのおかげで、私は、萩尾さんの選択にショックをうけるかわりに、「ああ、モーさまも同じ作品を好きなのだ」と、ひとりで悦にいつてニタニタしていただける。

それに、ブラッドベリをマンガ化するのが萩尾さんだということ、萩尾



さんが選んだのがほかならぬブラッドベリであったということ、これは、まことによいことである。おかげで私たちは、私のとんでもない絵でも、他の誰かれの絵でもなく、ブラッドベリをやるならなるほど彼女しかいなかっただろうという、萩尾さんの美しい絵で、マンガ化されたブラッドベリの世界にひたりきることができる。

萩尾さんの絵は、しだいに何か、すきとおって、言うならば無機的な静けさ、といったものを湛えるようになってきた。それはあるいは、マンガ、という動的なもののためには少し考えてしまうことかもしれないが、しかし、その静けさと清澄さは、ブラッドベリのもっている寂しいたそがれの世界とほとんど同じ性質のものであり、たぶんその絵なしには、誰も『みずうみ』の、あの夏のさいごの悲しさや、『ロケット・マン』の透明な悲哀を再現することはできなかった。

考えてみると、私の好きな『ポーの一族』の『グレンスミスの日記』や『メリーベルと銀のバラ』、『シャーロック・ホームズの帽子』なども、ブラッドベリの世界と共通する、秋の寂しさ、たそがれの透明さをはじめから色濃く持っていたようだ。その意味では、この短編集は、モーさま故郷へ帰る、とでも言い得る、そんな企画だったのかもしれない。



ウは宇宙船のウ

集英社漫画文庫

0171-612030-3041

昭和53年12月31日 初版発行

★定価はカバーに表示しております

著 者 レイ・ブラッドベリ
萩 尾 望 都
発行者 堀 内 末 男
発行所 株式 集 英 社
会社

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-10

電話 東京(03) 238-2781

印刷所 大日本印刷株式会社

© Ray Bradbury 1978
© Moto Hagio 1978

著者と了解のうえ検印を廃します



¥300

0171-612030-3041